目　次

幼 児 教 育 科

【1年次】
基 礎 教 養 科 目

キリスト教学	坂　牛	1
特別活動 A	濱　田	2
特別活動 B	山　本	3
日本語表現 Ⅰ	有　方	4
日本国憲法	小　南	5
キャリアデザイン Ⅰ（保育）	谷　本	6
キャリアデザイン Ⅰ（ライフ）	谷　本	7
英　語	岡　野	8
ICT活用講座A	津　田	9
ICT活用講座B	津　田	10
ボランティア活動	谷本・山本	11
生涯スポーツ	小　寺	12
スポーツと健康	矢　野	13
子どもと遊びA	中　重	14
子どもと遊びB	山　本	15

専 門 科 目

教育心理学	林	16
特別支援	森	17
保育内容演習「健康」	山　本	18
保育内容演習「人間関係」	岩　谷	19
保育内容演習「環境」	中　重	20
保育内容演習「言葉」	松　本恭	21
保育内容演習「表現Ⅰ」	渕　田	22
造形 ⅠA	佐　藤	23
造形 ⅠB	佐　藤	24
幼児体育 ⅠA	小　寺	25
幼児体育 ⅠB	小　寺	26
キリスト教教育	時　久	27
器楽 ⅠA	池田京・宇治田・高礒・福田・藤井直	28
器楽 ⅠB	池田京・宇治田・高礒・福田・藤井直	29
教育実習指導 Ⅰ	岩谷・山本・楯	30
保育原理	林	31
社会福祉	川　島	32
子ども家庭福祉	濱　田	33
社会的養護 Ⅰ	川　島	34
子ども家庭支援の心理学	林	35
子どもの食と栄養	橋　本	36
乳児保育 Ⅰ	中　尾	37
社会的養護 Ⅱ	井　上	38
幼児音楽 ⅠA	松本温	39
幼児音楽 ⅠB	松本温	40
保育実習指導 ⅠA	濱田・中重・松本恭	41
保育実習指導 ⅠB	中重・林	42
人権教育の研究	勝　木	43
コンピュータ概論	津　田	44
WORD 演習 Ⅰ	野　口	45
EXCEL演習 Ⅰ	野　口	46
情報処理実習 Ⅰ	津　田	47
初級簿記 A	津　田	48
初級簿記 B	津　田	49

【2年次】
基 礎 教 養 科 目

特別活動 A	濱　田	50
特別活動 B	山　本	51
日本語表現 Ⅱ	谷本・津田	52
社会人基礎講座	正　中	53
キャリアデザイン Ⅱ（保育）	谷　本	54
キャリアデザイン Ⅱ（ライフ）	谷　本	55
インターンシップ Ⅰ	谷　本	56
インターンシップ Ⅱ	谷　本	57
生活経済	津　田	58
ボランティア活動	谷本・山本	59

専 門 科 目

教育原理	中　重	60
保育内容演習「表現Ⅱ」	楯	61
保育実践演習	金　谷	62
器楽 ⅡA	池田京・宇治田・高礒・福田・藤井直	63
器楽 ⅡB	池田京・宇治田・高礒・福田・藤井直	64
保育者論	岩　谷	65
教育課程論	田　口	66
保育内容総論	岩　谷	67
保育方法論	濱　田	68
保育相談	林	69
教育実習指導 Ⅱ	岩谷・山本	70
子育て支援	井　上	71
子どもの保健	早野・松本孝	72
子どもの健康と安全	内　海	73
子ども家庭支援論	林	74
子どもの理解と援助	楯	75
保育の計画と評価	中　尾	76
乳児保育Ⅱ	中　尾	77
保育実習指導 ⅠB	中　重	78
保育内容演習「総合表現」	池田京・岩谷・向井	79
幼児音楽 ⅡA	向　井	80
幼児音楽 ⅡB	向　井	81
造形 ⅡA	佐　藤	82
造形 ⅡB	佐　藤	83
幼児体育 ⅡA	矢　野	84
幼児体育 ⅡB	矢　野	85
保育実習指導 Ⅱ	濱田・中重・松本恭	86
保育実習指導 Ⅲ	中重・林	87
総合音楽	池　田京	88
絵画表現	佐　藤	89
WORD 演習 Ⅱ	野　口	90
EXCEL演習 Ⅱ	野　口	91
プレゼンテーション演習	津　田	92
デジタルグラフティックス Ⅰ	佐　藤	93
デジタルグラフティックス Ⅱ	佐　藤	94
デジタルムービー Ⅰ	佐　藤	95
情報処理実習 Ⅱ	津　田	96
簿記演習	津　田	97
コンピュータ会計 Ⅰ	津　田	98
コンピュータ会計 Ⅱ	津　田	99

専 攻 科【1 年 次】

教育心理学特論 ---------- 三 枝 100
保育内容特論 ---------- 渕 田 101
幼児理解特論 ---------- 岩 谷 102
保育学研究 Ⅰ ---------- 中 重 103
保育学研究 Ⅱ ---------- 中 重 104
発達心理学特論 ---------- 三 枝 105
児童家庭福祉特論 ---------- 吉 田 106
社会福祉特論 ---------- 吉 田 107
子どもと生活 ---------- 山 本 108
図画工作演習 ---------- 佐 藤 109
保育内容研究「人間関係」 --------- 中 重 110
保育内容研究「表現」 --------- 渕 田 111
保育実践研究 Ⅰ ---------- 林 112
体育演習 ---------- 小 寺 113
情報処理研究 Ⅰ ---------- 津 田 114
修了研究 Ⅰ-1 ---------- 中 重 115
修了研究 Ⅰ-2 ---------- 中 重 116

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
キリスト教学 (10110)	講義	2	1年次 前期	必修	保育士資格選択	坂牛　裕

授業の到達目標	１．日ノ本学園の見学の精神であるキリスト教に親しむ ２．キリスト教のメッセージに触れ、学んだことを自分の言葉で表現できるようになる ３．クリスマスなど、身近なキリスト教行事に関する正確な知識を身につける
学位授与の方針 との関連	キリスト教精神に基づく倫理観や愛と奉仕の精神を身につけている。
授業の概要	毎回、テーマを設定し、メッセージを聴き、レポートを作成し、提出する。

授業計画

回数	授業内容	
1	オリエンテーション・自己紹介アンケート	レポート１
2	世界の宗教とキリスト教	レポート２
3	聖書物語①　アダムとイブ	レポート３
4	聖書物語②　ノアの箱舟	レポート４
5	聖書物語③　アブラハム～ヤコブ～ヨセフ	レポート５
6	聖書物語④　出エジプト　モーセ～	レポート６
7	聖書物語⑤　イエスキリスト	レポート７
8	聖書のメッセージ①　愛とは	レポート８
9	聖書のメッセージ②　敵を愛すること	レポート９
10	聖書のメッセージ③　苦しみの価値	レポート１０
11	聖書のメッセージ④　与えられた才能	レポート１１
12	聖書のメッセージ⑤　感謝と謝罪	レポート１２
13	クリスマス	レポート１３
14	予備日	レポート１４
15	まとめ　１分間スピーチ	レポート１５

授業の評価	「試　験」：課題レポートの提出をもって試験とする（１０％） 「平常点」：平常点を重視する・毎回のレポートの評価の積み重ねで点数評価する（４５％） 「その他」：出席、授業態度、授業への参加意欲を評価する（４５％）
課題（レポート等） のフィードバック	上記、「平常点」（レポート）及び「その他」を３段階評価（A・B・C）を行う。 上記、「試験」は４段階評価（A・B・C・D）を行う。 レポートはテーマに対する理解度のチェックを行った上、返却していく。 必要に応じて個別の回答を行い、理解を深める方法とする。
事前・事後の学習 等の内容	返却するレポートの積み重ねをノートとして扱う。 準備学習は、図書館の活用を奨めるため、随時、参考文献を紹介する。
事前・事後の学習に必要 な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	座席は担当者が指定する席とする。指定席は必要に応じて変更することがある。 私語等、授業の阻害となる場合には平常点を与えない。 授業態度・参加意欲を重視する。 授業計画に沿って授業を行うが、必要に応じて前後することがある。
テキスト	テキストは使用せず、毎回、テーマに添ったプリントを配布し、それをテキストとする
参考書	『聖書』（新共同訳　日本聖書協会）
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】 授業の前後を積極的に活用してほしい。体験としてキリスト協会への出席を奨励する。

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
特別活動A (10120)	演習	1	1年次通年 2年次通年	必修	保育士資格選択	濱田　敏子 (実務家教員)

授業の到達目標	１．キリスト教的人生観、世界観、倫理観を理解して自己の人間形成に役立てる。 ２．愛と奉仕の精神を身につける。 ３．チャペルアワーやキリスト教関連行事の参加を通して建学の精神を理解する。
学位授与の方針との関連	・キリスト教精神に基づく倫理観や愛と奉仕の精神を身につけている。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、または、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。
授業の概要	チャペルアワーやキリスト教関連行事の参加を通じて、キリスト教関連行事の参加を通じて、キリスト教精神、建学の精神につての学びを深める。
授業計画	授業内容 〇チャペルアワーは讃美歌を歌い、聖書を読み、メッセージを聴き、お祈りをするという 通常の礼拝形式で行う。 毎週のチャペルアワーに参加する。 チャペルアワーの中心は聖書に学ぶことに置かれている。講師から聖書の話をきき、讃美 歌を歌い、祈りを通して、キリスト教の知識を深め、キリスト教の雰囲気にふれる機会と する。 具体的にはメッセージ（説教）を通じて聖書の言葉の意味を考え、平和や、人権問題、 貧困などの現代の課題等についても考える機会を持てるようにする。 〇その他のキリスト教関連行事に参加する。 クリスマス点灯式・・・イエスキリストの降誕にあたり、その真の意味を学ぶ。 クリスマス礼拝・・・・イエスキリストの降誕を祝う。 卒業礼拝・・・・・・・本学における教育の締めくくりとして卒業式前日に行い、 社会に出ていく卒業生への祝福と勧励の場として礼拝をおこなう。 卒業式・・・・・・・・卒業式に参加することを通じて、建学の精神について理解を深める。
授業の評価	「試　験」： 「平常点」：チャペルや宗教活動への取り組み状況。（５０％） 「その他」：感想文・報告書（毎回提出）（５０％）
課題（レポート等）のフィードバック	・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。
事前・事後の学習等の内容	・チャペルアワー開始まで讃美歌を練習したり、当日の聖書を読んで理解しておく。 ・神を讃美し、感謝と喜びの中でキリスト教行事に出席するよう配慮する。 ・チャペルを通して心に残った聖書箇所やメッセージについて記入する。 ・近くにある教会に行ってみる。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45分　）事後学習（　45分　）
履修上の注意	活動の参加にあたっては、私語を慎みおごそかな思いで臨むこと。
テキスト	新共同訳聖書（日本聖書協会） 讃美歌21（日本基督教団出版局）
参考書	
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】各活動の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
特別活動B (10210)	演習	1	1年次通年 2年次通年	必修	保育士資格選択	佐藤　栄悟

授業の到達目標	２．講演会やセミナーを通して、幼児教育に関する専門性を高め、また、多様な視点を身につける。
学位授与の方針との関連	社会人として必要な視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。
授業の概要	通常の教科学習だけでは獲得することのできない社会人としての素養を自治会活動や講演会等の様々な活動を通して培うことを目指す。
授業計画	授業内容 ・新入生歓迎会における学生相互の交流を深める活動 ・大学祭におけるグループごとの共同作業による準備、運営等の学生主体の活動 ・幼児教育研究センター主催の講演会を通して幼児教育についての学びを深めるための活動 ・各種セミナーを通して一般常識を身につけるための活動
授業の評価	「試　験」： 「平常点」： 「その他」：
課題（レポート等）のフィードバック	「試　験」：　（　　%） 「平常点」：活動への取り組み状況（５０%） 「その他」：活動報告書　（５０%）
事前・事後の学習等の内容	・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45分　）事後学習（　45分　）
履修上の注意	活動には積極的に取りくむこと。
テキスト	
参考書	
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】各活動の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
日本語表現Ⅰ (10310)	演習	1	1年次 前期	選択	幼免必修 保育士資格選択 情報処理士選択	有方　秀樹

授業の到達目標	1．　相手に自分の思いを伝える手段として的確な文章を書く方法を学ぶ。 2．　自己表現の向上を図る手法として、文章を如何に正確に書くか、自分の考えをどのように適切に表現し相手に伝えるかを学ぶ。 3．　様々な学習形態を通じ、的確に考え正確に書く力を鍛え、語彙力を豊かにし、バランス感覚を磨く。
学位授与の方針との関連	教科学習、ワークショップなどを通じて、社会に生きる人として必要なコミュニケーション能力を有し、国際化の中で次代を担う人として必要な課題解決能力を身につけている。
授業の概要	様々な日本語の表現を学ぶことにより、語彙を豊かにし、コミュニケーション能力を養い、人としての生き方を学ぶ。

授業計画

回数	授業内容
1	説得力がある文章を書くための表現や構成・レポートの基本的書式を学ぶ。(G・W)
2	テーマを決める際の留意点を知り、作成のために必要な資料収集方法を知る。
3	論拠とは何かを学び、データの適切な論拠を示す力をつける。　(G・W)
4	主張の論拠を示す引用について､決まり事を知り基本的な方法をつける。
5	数量・数値のデータを得るためのアンケート調査を適切に実施する力をつける。
6	身につける必要のある文章表現力を認識する。　(G・W)
7	自己紹介を通して具体的に表現する方法を学ぶ。　(G・W)
8	身につける必要のある文章表現力を認識する。　(G・W)
9	表記と言葉づかいの基本を知り、印象の良い文章を書く姿勢をつける。
10	多くの情報を整理し、見やすく示す方法を学ぶ。　(G・W)
11	重要な情報を確実に伝えるための効果的な方法を身につける。
12	重要な情報の優先順位を考えた上で、表現や伝え方を工夫する。　(G・W)
13	読みやすい文を書く姿勢を身につける。
14	読んだ人がスムーズに行動できる文章の書き方を学ぶ。　(G・W)
15	相手の立場になって理解する態度を養う（接遇）。　(G・W)

授業の評価	「試　験」：筆記試験（６０％） 「平常点」：授業態度・意欲関心（２０％） 「その他」：ワークシート等提出物（２０％）
課題（レポート等）のフィードバック	1　各授業でのレポートについては、その都度点検し返却する。 2　授業内容に関する質問等については、個別または全体に回答する。
事前・事後の学習等の内容	予習：教科書を読み、自分の体験と重ね合わせる作業を行うこと。 復習：事後においては、授業内容の具体的実践を必ず行うこと。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45分　）　事後学習（　45分　）
履修上の注意	授業においては、授業に臨む姿勢を評価する。 レポートにおいては、どのように授業内容を具体的に理解しているかを評価する。
テキスト	『文書表現法　～思いを伝える～』　有方秀樹著
参考書	授業に即応した資料を提示する
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】　授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
日本国憲法 (10220)	講義	2	1年次 前期	選択	幼免必修 保育士資格選択	小南　浩一

授業の到達目標	１．憲法とはそもそも何か、近代立憲主義について理解する。 ２．憲法の３つの特質について理解を深め、憲法の全体像を把握することができる。 ３．目的としての人権保障と、手段としての三権分立について理解することができる。
学位授与の方針との関連	社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。
授業の概要	憲法とは何か、何のためにあるのかという憲法の立憲主義について解説する。 その上で、立憲主義の中核を担う憲法１３条の「個人の尊重」と「法の支配」の２つの原理を説明する。

授業計画	回数	授業内容
	1	はじめに　憲法とは何か
	2	憲法の立憲主義　その歴史と意味
	3	平和主義の原理　９条の意味
	4	集団的自衛権行使容認の憲法解釈　（ディベートを行う）
	5	基本的人権の原理
	6	人権規定の核心的条項　憲法第１３条について
	7	思想・良心・信教の自由　靖国参拝を事例に　（グループワークを行う）
	8	集会・結社・表現の自由　判例を紹介する
	9	基本的人権の限界
	10	社会権　憲法第25・26･27条について
	11	統治機構、権力分立について
	12	国会、内閣、裁判所
	13	憲法改正問題
	14	日本国憲法の成立の歴史的経緯
	15	まとめ

授業の評価	「試　験」：　学期末筆記試験　（６０％） 「平常点」：　出席点、授業への貢献度　（２０％） 「その他」：　レポート　（２０％）
課題（レポート等）のフィードバック	課題レポートについては、添削返却する。
事前・事後の学習等の内容	予習：テキストの該当箇所を通読し、各回の授業内容を把握しておくこと。 復習：テキストや配布プリントを熟読し、各回の授業内容について理解を深めておくこと。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	授業中に配布した判例紹介などのプリントは、授業中に全部読むことはできないので、 復習で必ず精読しておくこと。
テキスト	伊藤真『伊藤真の憲法入門』講義再現版第6版（日本評論社、2017年）
参考書	樋口陽一『いま「憲法改正」をどう考えるか』岩波書店、2013年
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】　毎週火曜日　授業の後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
キャリアデザインⅠ（保育） （10510-1）	講義	2	1年次 後期	選択	保育士資格選択	谷本　章三

授業の到達目標	１．将来の生き方や働き方について考え、自分自身で進路選択できる力を身につける。 ２．キャリア形成のための意欲、関心、態度、能力を獲得する。 ３．保育についての理解を深め、保育者としての豊かな資質能力を醸成する。
学位授与の方針 との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・ 解決能力を身につけている。
授業の概要	一人ひとりが自分の生き方や働き方について考え、身につけた自身のキャリア能力で進路選 択ができる力を育成し、より良い保育者としての自立を促す。

授業計画

回数	授業内容
1	オリエンテーション「キャリアデザインの意味と意義の理解と講義計画等を知る」
2	前期の振り返りと短大生活をデザインする
3	自己認知と自己肯定感の熟成
4	生きること・学ぶこと・働くこと①「人生をデザインする」
5	生きること・学ぶこと・働くこと②「人生における役割を考える」
6	自立して働くこと①進路理解「職種と適性について考える」
7	自立して働くこと②進路理解「自己の特徴と仕事をする上での価値観を考える」
8	職業的自立の必要性と税の仕組み
9	労働関連法規と社会保障制度
10	保育職としてこれからの自分を考える①「園を知る」
11	保育職としてこれからの自分を考える②「求められる保育士像」
12	保育職としてこれからの自分を考える①「自分が思い描く保育士像をデザインする」
13	卒業生から学ぶ　：グループワーク
14	社会生活における消費者トラブル対策について：グループワーク
15	学習の振り返りと「まとめ」

授業の評価	「試　験」：筆記試験（５０％） 「平常点」：授業態度、意欲など（２０％） 「その他」：講義ノート、提出物（３０％）
課題（レポート等） のフィードバック	毎回の講義時のレポート等の提出物を講義者がコメントを付して次回に返却するので講義ノートや 資料とともに授業内容をまとめ振り返りをする。
事前・事後の学習 等の内容	予習：配布した資料や講義ノートを通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 復習：返却したレポート等に再度目を通し、理解を深めること。
事前・事後の学習に必 要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）　事後学習（　135分　）
履修上の注意	講義中は私語を慎み、講義ノートにメモを取り学習に励むこと。授業中の許可のないスマホ使用は厳禁。
テキスト	使用しない。講義ごとに資料を配布する。
参考書	『実践キャリア考』（実教出版）
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】随時

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
キャリアデザインⅠ（ライフ） （10510-2）	講義	2	1年次 後期	選択	情報処理士必修	谷本　章三

授業の到達目標	１．将来の生き方や働き方について考え、自分自身で進路選択できる力を身につける。 ２．キャリア形成のための意欲、関心、態度、能力を獲得する。 ３．ライフキャリアからワークキャリアへの見通しが持てる力を育む。
学位授与の方針 との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・ 解決能力を身につけている。
授業の概要	一人ひとりが自分の生き方や働き方について考え、身につけた自身のキャリ能力で進路選択ができる 力を育成する。

授業計画

回数	授業内容
1	オリエンテーション「キャリアデザインの意味と意義の理解と講義計画等を知る」
2	前期の振り返りと短大生活をデザインする。
3	自己認知と自己肯定感の熟成
4	生きること・学ぶこと・働くこと①「人生をデザインする」
5	生きること・学ぶこと・働くこと②「人生における役割を考える」
6	自立して働くこと①進路理解「職種と適性について考える」
7	自立して働くこと②進路理解「自己の特徴と仕事をする上での価値観を考える」
8	職業的自立の必要性と税の仕組み
9	労働関連法規と社会保障制度
10	職をイメージしてこれからの自分を考える　　：グループワーク
11	社会生活における消費者トラブル対策について：グループワーク
12	就活準備を始めよう①「就職ガイダンス」
13	就活準備を始めよう②「自己ＰＲシートの作成Ａ（自己分析）」
14	就活準備を始めよう③「自己ＰＲシートの作成Ｂ（能力特性を知る）」
15	学習の振り返りとまとめ「２年次に向けて目標作成」

授業の評価	「試　験」：筆記試験（５０％） 「平常点」：授業態度、意欲など（２０％） 「その他」：講義ノート、提出物（３０％）
課題（レポート等） のフィードバック	毎回の講義時のレポート等の提出物を講義者がコメントを付して次回に返却するので講義ノートや 資料とともに授業内容をまとめ振り返りをする。
事前・事後の学習 等の内容	予習：配布した資料や講義ノートを通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 復習：返却したレポート等に再度目を通し、理解を深めること。
事前・事後の学習に必 要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）　事後学習（　135分　）
履修上の注意	講義中は私語を慎み、講義ノートにメモを取り学習に励むこと。授業中の許可のないスマホ使用は厳禁。
テキスト	使用しない。講義ごとに資料を配布する。
参考書	『実践キャリア考』（実教出版）
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】随時

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
英語 (10320)	演習	2	1年次 後期	選択	幼免必修 保育士資格選択	岡野　真由子

授業の到達目標	１．保育園、幼稚園、認定こども園での保育場面で必要な英語力を獲得する。 ２．英語でのあいさつ、天気、手遊び歌等を日常的に、気軽に保育に取り入れられる力を身につける。 ３．英語を用いた活動（アート・音と動き・読み聞かせ等）を保育現場で実践できる力を養う。
学位授与の方針 との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・ 解決能力を身につけている。
授業の概要	米国および岡山県西粟倉村でのモンテッソーリ教育の実践をもとに、日本の子ども達と楽しめる 英語表現や様々な遊びを学ぶ。

授業計画	回数	授業内容
	1	授業内容と西粟倉村におけるモンテッソーリ幼児教育（英語）の実践紹介 & 英語で自己紹介
	2	あいさつ・天気・日付など　日々の保育で使える英語表現＆歌あそび
	3	英語絵本の読み聞かせと関連遊び
	4	英語絵本の読み聞かせと関連遊び & プレゼンテーション
	5	秋の遊び Halloween
	6	外国人保護者に対する対応・挨拶・病気の伝え方など
	7	英語でアート　Vol.1
	8	映画から学ぶ英語表現
	9	英語でアート　Vol.2
	10	中間テスト
	11	英語で音遊び（ムーブメントスカーフや木琴、リズムスティック等）
	12	英語で音遊び＆プレゼンテーション
	13	クリスマスのお祝い
	14	冬の遊び＆プレゼンテーション
	15	春の遊び（イースター）＆プレゼンテーション

授業の評価	「試　験」：筆記試験と実技試験（３０％） 「平常点」：授業への参加度・グループ活動への貢献度（４０％） 「その他」：発表・提出物（３０％）
課題（レポート等） のフィードバック	実技発表の課題は個別もしくは全体にコメントを付する。
事前・事後の学習 等の内容	予習：声を出して歌をうたったり、教科書を読み、発音やフレーズに慣れ親しんでおくこと。 復習：基礎的な英語表現など地道に努力を重ねることで習熟度を高めておくこと。
事前・事後の学習に必 要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	幼い子ども達を前にし、受験英語の得手不得手は関係ない。学生自身の心と世界が開かれるよう 授業に臨むこと。
テキスト	『幼保英検4級テキスト』幼児教育・保育英語検定協会（著）
参考書	
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
ICT活用講座A (10410)	演習	1	1年次 前期	選択	幼免必修 保育士資格選択 情報処理士選択	津田　敏

授業の到達目標	1.使用しているスマホ・タブレット・パソコンの概歴を理解する。 2.スマホ・タブレット・パソコンのハードウェア・ソフトウェアの基礎知識を身につける。 3.ソフトウェアの機能を理解し活用できるようにする。
学位授与の方針との関連	教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。
授業の概要	スマホ、タブレット、パソコンのハードウェア、周辺装置、関連機器、ネットワークの基本知識、 ソフトウェアの機能について学び、今後の情報社会でのICT活用について考える。

授業計画

回数	授業内容
1	携帯電話を知る①ガラケーの登場とその背景
2	携帯電話を知る②スマートフォンの登場とその理由
3	携帯電話を知る③キャリアとMVNOとSIMについて
4	携帯電話を知る④スマホOSとタブレットについて
5	携帯電話を知る⑤スマホとタブレットの違いについて
6	パソコンを知る①パソコンの概歴と基本単位
7	パソコンを知る②ハードウェアCPU
8	パソコンを知る③メモリとハードディスク
9	パソコンを知る④入力装置と出力装置ディスプレイ
10	パソコンを知る⑤出力装置プリンタ
11	パソコンを知る⑥ネットワーク
12	パソコンを知る⑦関連機器
13	パソコンを知る⑧文書処理機能
14	パソコンを知る⑨表計算処理機能
15	パソコンを知る⑩表計算処理機能②

授業の評価	「試　験」： 定期試験　　（６０ ％） 「平常点」： 小テスト4回×10%　（４０ ％） 「その他」：　　（　　％）
課題（レポート等）のフィードバック	・授業の3回に1度の小テストにより理解度をチェックし、理解不足について指摘し補う。 ・授業内容に関する質問については個別に質問を受け回答する。
事前・事後の学習等の内容	予習：授業前、テキストの指定されている箇所を通読し、授業内容の概要を把握しておくこと。 復習：自主学習支援としてGoogle Classroomに授業内容のまとめ問題を掲載しているので学んだ内容の理解を深めること。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45 分　）事後学習（　45 分　）
履修上の注意	社会ではコミュニケーション能力、情報処理能力が求められている。ソフトを使えるだけでなく、 社会人として情報処理の知識を修得することを意識して学ぶこと。
テキスト	『短大生のためのスマホ・タブレット・パソコンの基礎知識』　津田敏著　2019年
参考書	『スピードマスター　ITパスポート試験　テキスト＆問題集　五訂版』 著：ITパスポート試験教育研究会　2019年
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後及びGoogle Classroom

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
ICT活用講座B (10411)	演習	1	1年次 後期	選択	幼免必修 保育士資格選択 情報処理士選択	津田　敏

授業の到達目標	1.ビジネスソフトを実践的に活用するための色々な機能について理解する。 2.スマートフォン・USBフラッシュメモリ内・Web上のデータをPCで活用できるようになる。 3.作品の趣旨を充分考え、作品の情報が伝わる工夫ができるようになる。
学位授与の方針との関連	教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。
授業の概要	スマートフォンやUSB、Webやクラウドストレージ内のデータ活用と多岐にわたる情報活用を通して ICT活用力を向上させるとともに今後の情報社会でのICT活用について考える。

授業計画

回数	授業内容
1	文書処理ソフト（Word)による作品1作り①
2	文書処理ソフト（Word)による作品1作り②
3	文書処理ソフト（Word)による作品1作り③　発表
4	文書処理ソフト（Word)による作品2①
5	文書処理ソフト（Word)による作品2作り②
6	文書処理ソフト（Word)による作品2作り③　発表
7	表計算処理ソフト（Excel)による作品3作り①
8	表計算処理ソフト（Excel)による作品③作り②
9	表計算処理ソフト（Excel)による作品③作り③　提出
10	表計算処理ソフト（Excel)による作品④作り①
11	表計算処理ソフト（Excel)による作品④作り②　提出
12	プレゼンテーションソフト（PowerPoint）による作品⑤作り①
13	プレゼンテーションソフト（PowerPoint）による作品⑤作り②
14	プレゼンテーションソフト（PowerPoint）による作品⑤作り③
15	プレゼンテーションソフト（PowerPoint）による作品⑤作り④　発表

授業の評価	「試　験」： 「平常点」：文書処理作品2作品、表計算作品2作品、Pp作品1作品　5作品＝（１００　%） 「その他」：
課題（レポート等）のフィードバック	・スマートフォンとPC接続等の活用について助言助力する。 ・ソフトによるファイル作成、発表をチェックし、理解不足について指摘し補う。 ・授業内容に関する質問については個別に質問を受け回答する。
事前・事後の学習等の内容	予習：次回テーマに該当するソフト機能等を学習し、ファイル作成を検討しておくこと。 復習：授業で学んだ機能、技術等について理解を深めておくこと。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45 分　）事後学習（　45 分　）
履修上の注意	社会では情報処理能力が求められている。ソフトの機能を駆使した情報発信ができることも その一つである。社会人としての情報処理能力を修得するように意識して学ぶこと。
テキスト	指定なし
参考書	
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
ボランティア活動 (10250)	実習	1	1年次通期 2年次通期	選択	保育士資格選択	谷本　章三 山本　郁子

授業の到達目標	１．自己の人間性や専門性を見つめ、人のために何ができるかの気づき実践できる力を高める。 ２．「感じ」「考え」「行動できる」力を豊かに育み、与えるものより与えられるものの大きさを感じられるようになる。 ３．ボランティア活動を通して、人として社会人として自己の人生を豊かなものにしていく。
学位授与の方針との関連	・キリスト教精神に基づく倫理観や愛と奉仕の精神を身につけている。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、または、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。
授業の概要	自発的な意思により、人や社会と関わることを通して自己の再発見や自己実現の中で社会貢献をしていく。

授業計画

回数	授業内容
1	オリエンテーション「ボランティアの基本原理と年間計画等について」（講義）
2	基本原理・自主性・主体性に基づく活動
3	・社会性、連帯性のある活動
4	・無償性、無給性に基づく活動
5	・創造性・開拓性・先駆性のある活動
6	自己のボランティア活動スタイルの確認（何時・何処で・どれくらいの頻度で参加できるか）
7	・自己の特技や能力の活用
8	・何処（場所）に参加したいか
9	ボランティア活動の心構えと自己評価
10	・守秘義務の確認　　・自己の行動、言動には責任を持つ
11	・ＰＤＣＡサイクルの実践を心掛ける　　・相手や仲間の立場、考え方を尊重する
12	・一人で抱え込むのでなく、みんなで仕事を分担する
13	・常に自分の行動を振り返りながら、生き生きと楽しんで活動する
14	レポート提出（活動記録用紙、確認表をもとに）※所定の用紙に事業所から確認印をもらう
15	まとめ（所定の用紙に活動の振り返りを記入し、担当者に提出する）

授業の評価	「平常点」： ボランティア活動の活動時間、意欲、態度等　（７０％） 「その他」：提出物　（３０％）
課題（レポート等）のフィードバック	各自が実施したボランティアの内容の活動記録用紙を担当者がチェックの上、アドバイスを行うので、それをもとに常に自己評価し、次の活動に生かすこと。
事前・事後の学習等の内容	予習：ボランティア活動先の業務内容を事前に把握し、活動内容や活動場所を確認しておく。 　　また、実習先から喜んでもらえるようにするには何をすべきか常に考えておく。 復習：自分の実習先での行動を振り返り、反省点を次回に生かす。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45 分　）事後学習（　45 分　）
履修上の注意	原則、各自がボランティア活動場所を開拓し自ら参加し活動を行うこと。担当者から活動場所を紹介することもある。実習時間は、合計４０時間以上で単位認定を行う。（単位認定は、卒業年度の後期に行う）２年間（長期履修者は３年間）の在学中に活動参加をすること。
テキスト	講義ごとに資料を配布する。
参考書	自治体等の発行するボランティア通信等
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】随時

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
生涯スポーツ （10610）	実技	1	1年次 前期	選択	幼免必修 保育士資格選択	小寺　隆志

授業の到達目標	１.生涯スポーツの意義を理解し、知識を獲得する。 ２.スポーツの実践を通して、精神的、身体的、社会的な健康増進の重要性を理解する。 ３.安全にスポーツを行うための留意事項を理解し、安全なスポーツ実践の方法を身につける。
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。
授業の概要	自らがスポーツを楽しむ経験を積んでいきます。 前期期間中に3つのスポーツを楽しみます。 全ての種目、基本技術の習得からはじめ、段階的に授業展開を行います。 最終的にはゲームを楽しめるようにしていきます。

授業計画

回数	授業内容
1	オリエンテーション・アイスブレイク
2	フットサル
3	フットサル
4	フットサル
5	フットサル
6	フットサル
7	バドミントン
8	バドミントン
9	バドミントン
10	バドミントン
11	キャッチバレーボール
12	キャッチバレーボール
13	キャッチバレーボール
14	キャッチバレーボール
15	キャッチバレーボール

授業の評価	「試　験」：筆記試験（３０%） 「平常点」：授業態度・意欲（５０%） 「その他」：提出物（２０%）
課題（レポート等）のフィードバック	各種目最終回終了時にレポートを提出。
事前・事後の学習等の内容	予習：食事、睡眠など、体調を整えておくこと。 復習：身体的なケアとしてストレッチを習慣化すること。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45分　）　事後学習（　45分　）
履修上の注意	・授業を受ける態度や姿勢を評価する。授業態度が著しく悪い場合は、退場を命じることがある。 ・安全に授業ができるよう。ピアス、ネックレス、つけ爪、時計等の装飾品は外して受講する。 ・運動にふさわしい服装（ジャージ）と靴（スニーカー）を着用し受講する。 ・各自で水分およびタオルを用意する。 ・各自で貴重品を管理する。 ・体調が悪い、病気や怪我がある場合は、授業前に必ず申し出ること。
テキスト	適宜資料配布
参考書	適宜資料配布
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】 授業の前後

科目名／カリキュラムN0.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
スポーツと健康 (10611)	講義	1	1年次 後期	選択	幼免必修 保育士資格選択	矢野　真理

授業の到達目標	1.スポーツ・エクササイズを通して身体活動に関する知識を獲得する。 2.心身における健康の維持増進の重要性を理解する。 3.安全にスポーツを行うための方法を身につける。
学位授与の方針 との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・ 解決能力を身につけている。
授業の概要	実技では、スポーツ・エクササイズを通して健康の維持増進を図る。 理論では、健康的な生活を営むための知識を学ぶ。

授業計画	回数	授業内容
	1	オリエンテーション　集団行動、ストレッチ、体幹トレーニング
	2	バドミントン(ルール・基礎練習)
	3	バドミントン(基本のショット)
	4	バドミントン(サービス)
	5	バドミントン(ゲーム・ダブルス)
	6	バドミントン(ゲーム・ダブルス)
	7	バドミントン(ゲーム・ダブルス)
	8	バドミントン(ゲーム・ダブルス)
	9	体力と健康
	10	休養・こころと健康
	11	栄養と健康
	12	運動と健康
	13	生活習慣病
	14	喫煙・アルコールと健康
	15	女性のからだ

授業の評価	「試　験」：筆記試験(実技試験は行わない)（３０％） 「平常点」：授業態度、意欲（５０％） 「その他」：提出物（２０％）
課題（レポート等） のフィードバック	提出物は、次回の授業時に返却し説明する。 質問については、授業時に全体に向けて回答し説明する。必要に応じて個別に説明する。
事前・事後の学習 等の内容	【実技】予習:食事、睡眠等、体調を整えておく。 復習:心身のケアとしてストレッチを習慣化する。 【理論】予習:健康に関する記事や映像などから事前に情報を得るようにしておく。 復習:授業の内容を整理し、まとめておく。
事前・事後の学習に必 要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45 分　）事後学習（　45 分　）
履修上の注意	授業を受ける態度や取り組む姿勢を評価する。 授業態度が著しく悪い場合は、退場を命じることがある。 体調が悪い、病気等の場合は、始まる前に必ず申し出ること。 【実技】ピアス、ネックレス、つけ爪、時計等、装飾品を身に付けることは安全面から禁止する。 運動にふさわしい服装と運動シューズを使用すること。各自で水分、タオルを用意する、貴重品 の管理をすること。運動ができない場合、診断書があれば別途対応する。
テキスト	適宜資料配布
参考書	適宜資料配布
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
子どもと遊びA (20671)	演習	1	1年次 前期	選択	保育士資格選択	中重　直俊 （実務家教員）

授業の到達目標	１．グループワークであそびの面白さを分析し、プレゼンテーションを行えるようになる。 ２．必要な教材や援助の方法を研究できるようなる。 ３．様々なあそびの実践を通して、あそびに関心のある保育者として子どもに関わるような力を身につける。
学位授与の方針 との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。
授業の概要	子どもの主体的で自発的な活動である「あそび」には、学びの機会がたくさんあり、一人ひとり面白いと感じるポイントには違いがある。さらに年齢月齢の差もあり、理解できること、技術の有無なども、あそびに夢中になれるかどうかを左右される。様々なあそびを通し、あそびについて学んでいく。

授業計画	回数	授業内容
	1	あそびってなあに／あなたの好きなあそび
	2	しぜんあそび
	3	かがくあそび
	4	伝承あそび
	5	身近な素材
	6	もじ・かずあそび
	7	手作りおもちゃ
	8	おもちゃであそぶ
	9	群れあそび
	10	机上あそび
	11	構成あそび
	12	手あそび・指あそび
	13	絵本の世界
	14	音楽あそび
	15	劇あそび

授業の評価	「試　験」：プレゼンテーション（５０％） 「平常点」：出席状況・授業態度（４０％） 「その他」：課題（１０％）
課題（レポート等） のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。
事前・事後の学習 等の内容	前もって取り上げるあそびを提示しておくので、そのあそびをさらに楽しめる方法を考え、 準備しておくこと。
事前・事後の学習に必 要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45 分　）事後学習（　45 分　）
履修上の注意	課題の提出期限は必ず守ること
テキスト	必要に応じて配布する
参考書	必要に応じて配布する
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】水曜の昼休み　中重研究室

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
子どもと遊びB (20671)	演習	1	1年次 後期	選択	保育士資格選択	山本　郁子

授業の到達目標	１．児童文化財についてそれぞれの特徴、制作方法、実践的活動方法について理解する。 ２．子どもの発達段階を理解する。 ３．実習や現場で演ずる技術を身につける。
学位授与の方針 との関連	教科学習及び実習を通して実践力を修得している。
授業の概要	子どもの遊びを豊かに展開するための重要な児童文化財の知識や技術を身につける。 手づくりおもちゃに取り組み、実践的な活動方法や演じ方の技術を身につけ能力と資質を育む。

授業計画

回数	授業内容
1	オリエンテーション・乳幼児の遊びと児童文化
2	児童文化財について
3	児童文化財の制作①
4	児童文化財の制作②
5	児童文化財の制作③
6	児童文化財の制作④
7	指導案作成
8	児童文化財による模擬保育①
9	児童文化財の制作⑤
10	児童文化財の制作⑥
11	児童文化財の制作⑦
12	児童文化財の制作⑧
13	指導案作成
14	児童文化財による模擬保育②
15	まとめと振り返り

授業の評価	「試　験」： 「平常点」：授業態度、学習意欲、レポート（４０％） 「その他」：作品（３０％）、成果発表（３０％）
課題（レポート等） のフィードバック	・課題は、コメントを付して返却する ・授業内容等に関するの質問については、個別又は、巡回指導で対応する。
事前・事後の学習 等の内容	・各自計画的に取り組む。 事前：授業内容の概要を把握しておく。 事後：習得技術や表現方法の工夫と努力をする。
事前・事後の学習に必 要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45分　）事後学習（　45分　）
履修上の注意	・日頃から児童文化財に関心を持つよう心掛ける。 ・欠席をすると制作に遅れが出る。主体的・積極的に取り組む。 ・授業内容の概要を確認して、材料を準備する。
テキスト	適宜資料を配布する。
参考書	『幼保連携認定こども園教育・保育要領』　『幼稚園教育要領』　『保育所保育指針』
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
教育心理学 (20210)	講義	2	1年次 後期	選択	幼免必修 保育士資格選択	林　幹士

授業の到達目標	1.子どもの発達に応じた教育について知る。 2.子どもの生活と遊びの中での学びの過程の特徴を知る。 3.発達過程において生じる子どもの様々な課題への対応について具体的事例を通して知る。
学位授与の方針 との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。
授業の概要	保育・教育に関わる場面における子どもの発達および学びの過程を学び、それに基づく適切な 支援を考える。

授業計画

回数	授業内容
1	教育心理学とは何か
2	発達とその要因と発達の原理と段階について
3	発達の諸相と教育
4	学習とその様式
5	学習指導とその方法
6	学習指導と個人差（グループワーク:個人差について考える）
7	学級集団とその発達
8	学習集団の働き
9	性格とその理解
10	性格形成の機制と要因
11	適応とその機制
12	不適応とその援助（グループワーク：援助について考える）
13	発達の障がいとその支援
14	発達・適応の障がいと教育
15	保育・教育者の成長と精神的健康

授業の評価	「試　験」：筆記試験　（６０％） 「平常点」：授業への取り組み方(意欲・関心・態度)　（２０％） 「その他」：提出物(感想、小レポート、ノート・ファイルなど)　　（２０％）
課題（レポート等） のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。
事前・事後の学習 等の内容	・予習：該当箇所の通読。 ・復習：授業内容の見直し。学びをどう実践に生かしていくかを考えよう。
事前・事後の学習に必要 な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	・ノート、ファイル(配付プリント用)を持参すること。ノート・ファイルは提出することがある。 ・授業は、学生の興味・関心、進度に応じて、授業計画の各単元を行き来しながら総合的に進める。
テキスト	『学びと教えで育つ心理学　－教育心理学入門－』編著小林芳郎　2012　保育出版社
参考書	適宜、授業中に紹介する
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
特別支援 (20520)	演習	2	1年次 前期	選択	幼免必修 保育士資格選択	森　知子

授業の到達目標	1.障害児保育の基本的理念や歴史、制度を学び、現状と課題を理解する。 2.各障害の特性と援助方法への理解を深め、保育現場における配慮や環境設定の工夫などの実践力を身につける。 3.保護者支援や関係機関との連携など子どもの育ちを支える環境づくりや社会的なしくみを理解する。
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。
授業の概要	障害児保育の理念、障害特性と支援のあり方について学び、保育実践における子どもの援助方法や保護者支援等の取り組みを理解する。

授業計画

回数	授業内容
1	「特別支援」の概念と障害児保育の歴史的変遷
2	地域社会への参加・包容および合理的配慮の理解　（グループワーク）
3	肢体不自由児の理解と援助
4	知的障害児の理解と援助
5	視覚・聴覚・言語障害児の理解と援助
6	発達障害児の理解と援助
7	重症心身障害児、医療的ケア児、その他の特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助
8	指導計画および個別の支援計画の作成　（グループワーク）
9	発達をうながす生活や遊びの環境と子ども同士のかかわり・育ちあい（プレゼンテーション）
10	障害児保育における子どもの健康と安全
11	職員間の連携・協働
12	保護者に対する理解および保護者間の交流や支え合いの意義と支援
13	地域の専門機関との連携
14	小学校等との連携
15	福祉・教育における現状と課題

授業の評価	「試　験」：筆記試験（６０％） 「平常点」：授業態度、小テスト（２０％） 「その他」：レポート等提出物（２０％）
課題（レポート等）のフィードバック	レポート等の課題は、コメントをつけて返却する。 授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。
事前・事後の学習等の内容	予習：テキスト等の該当箇所を通読し、各回の授業内容を把握しておく。適宜、演習を織り交ぜて授業を進めるため、事前に自分なりに課題を考え、演習に臨む準備をしておくこと。（各授業の最後に予告する） 復習：テキスト、配布プリントを通読し、授業内容を復習して理解を深めておくこと。更に学びを深めるためにレポートを課すことがある。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）　事後学習（　135分　）
履修上の注意	障害がある子どもの支援は授業だけで理解するのは困難である。TV等のメディア、読書、ボランティア体験などを通して多くの実例に触れることを心がけてほしい。 障害児への支援は、障害の有無に関わらず全ての子どもの保育の基本となるものである。一人ひとりの子どもに寄り添う気持ちを持ち、「自分ならどうするか」を常に考えながら受講してほしい。
テキスト	『新基本保育シリーズ⑰　障害児保育』　編集：西村重稀、水田敏郎　監修：児童育成協会　中央法規出版
参考書	授業内で紹介します
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムN0.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育内容演習「健康」 (20601)	演習	1	1年次 後期	選択	幼免必修 保育士資格必修	山本　郁子

授業の到達目標	１．乳幼児に育つ事が期待される健康な心と体について、その「ねらい」や「内容」を理解する。 ２．乳幼児の心身の健康や運動、基本的な生活習慣や安全に関する基礎的な知識を身につける。 ３．実際に保育を行う上での配慮や留意事項を理解し、具体的な指導,援助ができるようにする。
学位授与の方針 との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。
授業の概要	乳幼児期における健康の意義、健康と心身の発達の関連、健康で安全な生活習慣形成と保育者の役割について理解する。また、子どもの健康教育についてグループワークや実習を取り入れながら学ぶ。

授業計画

回数	授業内容
1	社会生活における健康的な生き方や生活(課題解決型学習)
2	保育内容「健康」の「ねらい」・「内容」
3	保育内容「健康」についての配慮・留意事項
4	子どもの身体的な発達
5	子どもの心の発達と社会性の発達
6	子どもを取り巻く環境と課題
7	基本的生活習慣定着の重要性
8	食文化についての理解、保育における食事（反転授業）
9	食育実践指導例から学ぶ（グループワーク）
10	遊びの発達と健康
11	遊びと運動(実習)
12	保育中の怪我、事故、アレルギー症状等への対応（実習）
13	感染症の予防と対応
14	安心・安全な保育環境、災害時の対策(実習)
15	乳幼児施設における健康教育の重要性と今後の課題

授業の評価	「試　験」：筆記試験　（６０％） 「平常点」：授業態度 、学習意欲、小テスト、提出物　（４０％） 「その他」：　（　　％）
課題（レポート等） のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容等に関する質問についは、個別又は、全体に回答する。
事前・事後の学習 等の内容	予習：テキストを通読し、授業内容の概要を把握しておく。 復習：授業を見直し、質問や自己学習等で理解を深める。
事前・事後の学習に必 要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45分　）　事後学習（　45分　）
履修上の注意	・学習態度や学習意欲を評価する。 ・欠席や遅刻が多い場合は学習意欲に欠けるものとする。 ・毎授業の課題は、必ず提出すること。 ・必ずテキスト持参で授業にのぞむこと。
テキスト	『最新保育講座　保育内容　健康』　河邊貴子（編集）ミネルヴァ書房
参考書	『事例で学ぶ保育内容　領域　健康』　無籐　隆（著）　倉持清美（編集）萌文書林 幼保連携型認定こども園教育・保育要領　幼稚園教育要領　保育所保育指針
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】随時

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育内容演習「人間関係」 (20602)	演習	1	1年次 前期	選択	幼免必修 保育士資格選択	岩谷　恵利子 (実務家教員)

授業の到達目標	1.　人とのかかわりの発達の過程を理解する。 2.　人とのかかわりを育むために重要となる、保育者の役割・援助方法を知る。 3.　人とのかかわりを育む遊びの重要性を理解する。
学位授与の方針 との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。
授業の概要	子どもは生活の中で、人とのかかわりをどのような過程を経て発達させていくのか。 また、それを支える 保育者の援助はどうあるべきなのか等、「人間関係」領域の指導法を学ぶ。

授業計画

回数	授業内容
1	「人間関係」とは
2	自分を知る　(グループワーク)
3	生態学的環境として関係をとらえる　(グループワーク)
4	幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・保育所保育指針の基本
5	領域「人間関係」の基礎知識　(グループワーク)
6	0･1･2歳児の保育所における人とのかかわり　(グループワーク)
7	保育者が居場所　(グループワーク)
8	自己主張と自己抑制―幼児期の「なかよし」とは?
9	園生活の充実感を支えるもの
10	かけがえのない一人一人の存在　(グループワーク)
11	保護者とのかかわり　(グループワーク)
12	保育者同士のかかわり　(グループワーク)
13	かかわりの育ちを「みる」　(グループワーク)
14	親しい人との体験が生きる原動力になる
15	まとめ

授業の評価	「試　験」:　筆記試験　(５０　%) 「平常点」:　授業態度　小テスト　(４０　%) 「その他」:　提出物　(１０　%)
課題（レポート等） のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。
事前・事後の学習 等の内容	予習：テキストの該当箇所を通読し、授業内容の概要を把握しておく。 復習：授業内容についてまとめておく。
事前・事後の学習に必要 な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45分　）事後学習（　45分　）
履修上の注意	必ずテキストを持参すること。 授業態度を重視する。 グループ活動では意欲的に参加すること。 課題の提出は期限を守ること。
テキスト	『体験する・調べる・考える　領域 人間関係』 田宮縁 著　萌文書林
参考書	『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』　内閣府　文部科学省　厚生労働省　フレーベル館 『保育所保育指針解説』 厚生労働省　フレーベル館
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育内容演習「環境」 (20603)	演習	1	1年次 前期	選択	幼免必修 保育士資格選択	中重　直俊 (実務家教員)

授業の到達目標	1．子どもがいつも生き生きとできるように必要な「環境」について理解する。 2．子どもを取り巻く環境の変化について理解する。 3．保育者自身が大切な環境であることを自覚し、自身の感性を高める。
学位授与の方針 との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。
授業の概要	「環境」という言葉をキーワードに、様々な視点から保育者に必要な基礎知識を学習する。 また、自ら体験し調べ、考える中で五感を研ぎ澄まし感性を養っていく。

授業計画

回数	授業内容
1	グループワーク
2	子どもを取り巻く環境の変化
3	自然と触れ合い感動する
4	物事の法則性に気付く
5	季節感を味わう
6	自然を取り入れて遊ぶ
7	生命の営みに触れる
8	身の回りのものに愛着をもつ
9	科学を体感する
10	数量・図形に親しむ
11	標識や文字の必要感を育む
12	生活を豊かにする
13	指導形態とカリキュラム
14	保育室の環境構成
15	まとめ

授業の評価	「試　験」： 筆記試験（５０%） 「平常点」： 出席状況、授業態度（４０%） 「その他」： 課題（１０%）
課題（レポート等） のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。
事前・事後の学習 等の内容	予習：テキストの該当箇所を通読し、授業内容の概要を把握しておく。 復習：授業内容についてまとめておく。
事前・事後の学習に必 要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45分　）事後学習（　45分　）
履修上の注意	必ずテキストを持参すること。
テキスト	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』
参考書	必要に応じて配布する
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】水曜の昼休み　中重研究室

科目名／カリキュラムN0.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育内容演習「言葉」 (20604)	演習	1	1年次 前期	選択	幼免必修 保育士資格選択	松本　恭子

授業の到達目標	１．乳幼児期、その言葉はどのようにして獲得され育っていくのかを理解する。 ２．保育現場における具体的な状況に応じて、言葉を獲得していくための様々な援助をどのように進めていくのかを学ぶ ３．保育所保育指針・幼稚園教育要領に基づいて理解を深めるとともに、子どもの豊かな言葉を育む保育者としての資質を養う。
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。
授業の概要	領域 「言葉」 のめざしているものを理解するとともに、 保育実践の場における具体的な取り組みの手法を 修得し資質を養う。

授業計画

回数	授業内容
1	授業の進め方についての説明, この授業の目的。　課題①
2	「子育てと言葉」・言葉の機能と獲得とは…
3	・コミュニケーションと言葉
4	「領域」について・領域の言葉について　課題②
5	・言葉と他の領域の関係
6	「言葉の獲得」　・一語文以前
7	・話し言葉
8	「児童文化財」　・言葉を育てる児童文化財　課題③
9	「言葉を育てる環境」・乳児の言葉を育てる環境
10	・幼児の言葉を育てる環境　グループワーク①
11	・書き言葉への興味や関心を育てる環境　グループワーク②
12	「言葉の育ちにかかわる諸問題」・言葉の障害について　実践発表①
13	・母語が日本語でない子どもの理解と援助　実践発表②
14	実践発表③　・まとめと評価
15	教科「言葉」のまとめ

授業の評価	「試　験」：筆記試験（５０％） 「平常点」：授業態度、グループワークに おける協調性等（２０％） 「その他」：提出物（１０％）　実践発表（２０％）
課題（レポート等）のフィードバック	授業内容に関する質問については、 個別又は全体に回答する。
事前・事後の学習等の内容	予習：教科書に目を通し、学習の内容を把握しておきましょう。 復習：授業内容についてまとめておく。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45分　）事後学習（　45分　）
履修上の注意	授業中の携帯電話の使用は認めません。 意欲的に取り組む態度が見られる学生は大きく評価します。
テキスト	『保育内容 言葉』 小田豊・芦田宏・門田理世編著 北大路書房 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』 内閣府 フレーベル館
参考書	
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】　授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育内容演習「表現Ⅰ」 (20605)	演習	1	1年次 後期	選択	幼免必修 保育士資格選択	渕田　陽子

授業の到達目標	１．保育現場での乳幼児の表現の捉え方を理解する。 ２．乳幼児の表現発達に関する知識を獲得する。 ３．乳幼児が感じたことや考えたことを自分なりに表現するための、保育者役割や援助法を考えられるようになる。
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。
授業の概要	子どもの発達を見通したうえでの保育現場での表現援助法について学ぶ。

授業計画

回数	授業内容
1	保育・教育の原理と保育内容「表現」
2	保育内容「表現」のねらい
3	保育内容「表現」の内容
4	感性とは何か
5	子どもの感性を磨く「音育」
6	身近なものに触れるということ
7	子どもが表現をする時　（グループワーク）
8	1歳児の発達 第8章「表現」と保育 実践 保育所の場合
9	2歳児の発達 第8章「表現」 と保育 実践 保育所の場合
10	１歳児クラスと2歳児クラスの「表現」を育てる保育者のありかた
11	3歳児の発達 第8章「表現」 と保育 実践 保育所の場合 第9章 幼稚園の場合
12	4歳児の発達 第8章「表現」 と保 育実践 保育所の場合 第9章 幼稚園の場合
13	5歳児の発達 第8章「表現」 と保育 実践 保育所の場合 第9章 幼稚園の場合
14	授業で紹介した音楽遊びの実践
15	表出的表現と表現的表現

授業の評価	「試　験」：期末試験（６０％） 「平常点」：ミニレポート（２０％） 「その他」：提出物（２０％）
課題（レポート等）のフィードバック	レポートにコメントを記入し返却する。
事前・事後の学習等の内容	予習：授業1回目の授業が始まる前に、教科書1章通読し、2,3,4,回目の授業前には、予定している授業の部分の教科書を読み深めてくること。5-15回目の授業予習については、前の授業の終わりに予習について説明を行う。 復習：教科書と配布プリント、ディクテイクしたノートを見直し、授業内容について理解を深めておくこと。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45分　）事後学習（　45分　）
履修上の注意	シラバスの内容は、 授業進行状況と合わせて変更の可能性がある
テキスト	『新・保育と表現』 石上浩美編著　　発行所 嵯峨野書院
参考書	『0～5歳児の発達と保育と環境がわかる本』大竹節子・塩谷香 監修 ひかりのくに株式会社 保育の表現技術実践ワーク 今井真理編 保育出版社
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
造形ＩA (20730)	演習	1	1年次 前期	選択	幼免必修 保育士資格選択	佐藤　栄悟

授業の到達目標	１．　子どもと共に楽しむために必要な造形的基礎力を獲得する。 ２．表現することを楽しみながら基礎技能や材料、用具に関する知識を身につける。
学位授与の方針 との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。
授業の概要	造形美に対して湧き起こる内的感動を基調とした共創的授業。ICT活用授業。

授業計画

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	教材研究のための紙あそび　①基礎　（体験学習）
3	教材研究のための紙あそび　②応用　（体験学習）
4	教材研究のための紙あそび　③制作　（PBL）
5	教材研究のための紙あそび　④研究発表　（プレゼンテーション）
6	コントラストの学習　（体験学習）
7	絵具と色　①絵具の使い方
8	絵具と色　②色彩論　（体験学習）
9	絵具と色　③色の分布　（体験学習）
10	絵具と色　④色彩表現　（PBL）
11	絵具と色　⑤研究発表　（プレゼンテーション）
12	素材と感覚　①感覚ゲーム　（体験学習）
13	素材と感覚　②感覚モンタージュの制作　（PBL）
14	素材と感覚　③感覚モンタージュの制作　（PBL）
15	素材と感覚　④研究発表　（プレゼンテーション）

授業の評価	「試　験」：提出課題　（６０％） 「平常点」：授業の参加度　（４０％） 「その他」：
課題（レポート等） のフィードバック	個々の課題はGoogleクラスルーム上で提出し、フィードバック（点数やコメント等）はそこで行う。 また、プレゼンテーションの教員及び学生のフィードバックは、その都度Googleフォーム等で行う。
事前・事後の学習 等の内容	予習：授業概要を把握しておくこと。授業外学習が必要な場合は事前に行い、準備しておくこと。 復習：授業の資料をGoogleクラスルームに配布するので、理解を深めておくこと。
事前・事後の学習に必要 な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45 分　）事後学習（　45 分　）
履修上の注意	制作の記録をつけること。　必ず用具や材料を忘れないこと。 課題作品の提出期限を守ること。　汚れても困らない服装で臨むこと。
テキスト	
参考書	『自分でできる子が育つ　モンテッソーリの紙あそび』　百枝義雄　百枝知亜紀著　PHP研究所 『造形芸術の基礎』　ヨハネス・イッテン著　手塚又四郎訳　美術出版社
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】 水曜日の昼休み　造形準備室

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
造形ＩＢ (20730)	演習	1	1年次 後期	選択	幼免必修 保育士資格選択	佐藤　栄悟

授業の到達目標	１．子どもと共に楽しむための必要な造形的基礎力を獲得する。 ２．表現することを楽しみながら基礎技能や材料、用具に関する知識を身につける。
学位授与の方針 との関連	保育に関する専門的知識・技術を習得している。
授業の概要	造形美に対して湧き起こる内的感動を基調とした共創的授業。ICT活用授業。

授業計画

回数	授業内容
1	姫路マラソン横断幕の制作　①下図　（グループワーク・PBL）
2	姫路マラソン横断幕の制作　②制作　（グループワーク・PBL）
3	姫路マラソン横断幕の制作　③制作　（グループワーク・PBL）
4	陶芸から学ぶ立体表現　①材料・道具の説明・粘土細工　（体験授業）
5	陶芸から学ぶ立体表現　②石膏型取り　（体験授業）
6	形とイメージ　①スライドと実践　（体験授業）
7	形とイメージ　②コラージュ　（PBL）
8	形とイメージ　③研究発表　（プレゼンテーション）
9	陶芸から学ぶ立体表現　③釉薬　（体験授業）
10	リズムの造形　①身体的運動の形・音楽の形　（体験授業）
11	リズムの造形　②クロッキー　（体験授業）
12	張子をつくる　①三春張子について知る
13	張子をつくる　②制作　（PBL）
14	張子をつくる　③制作　（PBL）
15	張子をつくる　④研究発表　（プレゼンテーション）

授業の評価	「試　験」：提出課題　（６０％） 「平常点」：授業の参加度　（４０％） 「その他」：
課題（レポート等） のフィードバック	個々の課題はGoogleクラスルーム上で提出し、フィードバック（点数やコメント等）はそこで行う。□ また、プレゼンテーションの教員及び学生のフィードバックは、その都度Googleフォーム等で行う。
事前・事後の学習 等の内容	予習：授業概要を把握しておくこと。授業外学習が必要な場合は事前に行い、準備しておくこと。 復習：授業の資料をGoogleクラスルームに配布するので、理解を深めておくこと。
事前・事後の学習に必要 な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45分　）事後学習（　45分　）
履修上の注意	制作の記録をつけること。必ず用具や材料を忘れないこと。 課題作品の提出期限を守ること。汚れても困らない服装で臨むこと。
テキスト	
参考書	『造形芸術の基礎』　ヨハネス・イッテン著　手塚又四郎訳　美術出版社
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】　水曜日の昼休み　造形準備室

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
幼児体育ＩＡ (20740)	演習	1	1年次 前期	選択	幼免必修 保育士資格選択	小寺　隆志

授業の到達目標	1.幼児期における発達の特徴や身体活動が幼児に与える影響について理解を深める。 2.幼児の身体活動指導のための基礎的知識を取得し、その指導の土台を作る。 3.子どもの発育・発達に応じた援助ができるようになる。 4.安全に運動をするための環境設定を理解する。
学位授与の方針 との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。
授業の概要	幼児期における身体活動の意味や価値を理解し、子どもの発育・発達段階に応じた運動の基礎知識を習得する。運動遊びの実践を通して、必要な働きかけや安全管理を習得する。

授業計画

回数	授業内容
1	オリエンテーション・アイスブレイク
2	幼児期の心身の発育発達と運動技能理解
3	子どもの遊び・運動を見学
4	集団遊び①
5	集団遊び②
6	大型遊具を使った運動遊び　マット・跳び箱①
7	大型遊具を使った運動遊び　マット・跳び箱②
8	大型遊具を使った運動遊び　平均台・鉄棒
9	小型遊具を使った運動遊び　ボール①
10	小型遊具を使った運動遊び　ボール①
11	小型遊具を使った運動遊び　フープ・なわ
12	身近なものを使った遊び　新聞紙・ペットボトル
13	身近なものを使った遊び　段ボール
14	安全管理①
15	安全管理②と応急手当

授業の評価	「試　験」：指導実践試験　（３０%） 「平常点」：授業態度及び取り組む意欲　（５０%） 「その他」：指導案　（２０%）
課題（レポート等） のフィードバック	毎回の授業終了時に、振り返りシートを記入し、提出する。 振り返りシートは次回の授業時に返却する。 授業内容に関する質問は、全体に向けて回答する。必要に応じて、個別に回答も行う。
事前・事後の学習 等の内容	予習：基本的な生活習慣を整える。特に、食事、睡眠などに気をつけ体調管理を心がける。 　　次回の授業内容を把握し、主な運動遊びを予習しておくこと。 復習：返却された振り返りシートを元に、気づきや学びを定着させること。
事前・事後の学習に必 要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45分　）　事後学習（　45分　）
履修上の注意	・授業を受ける態度や姿勢を評価する。授業態度が著しく悪い場合は、退場を命じることがある。 ・安全に授業ができるよう。ピアス、ネックレス、つけ爪、時計等の装飾品は外して受講する。 ・運動にふさわしい服装（ジャージ）と靴（スニーカー）を着用し受講する。 ・各自で水分およびタオルを用意する。 ・各自で貴重品を管理する。 ・体調が悪い、病気や怪我がある場合は、授業前に必ず申し出ること。
テキスト	適時資料配布
参考書	文部科学省「幼児期運動指針ガイドブック」 https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319772.htm
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】 授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
幼児体育ＩＢ (20741)	演習	1	1年次 後期	選択	幼免必修 保育士資格選択	小寺　隆志

授業の到達目標	１.幼児期における発達の特徴や身体活動が幼児に与える影響について理解を深める。 ２.幼児の身体活動指導のための基礎的知識を取得し、その指導の土台を作る。 ３.子どもの発育・発達に応じた援助ができるようになる。 ４.安全に運動をするための環境設定を理解する。
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。
授業の概要	幼児期における身体活動の意味や価値を理解し、子どもの発育・発達段階に応じた運動の基礎知識を習得する。運動遊びの実践を通して、必要な働きかけや安全管理を修得する。 指導実践はグループを作り、グループディスカッションを行い計画します。

授業計画

回数	授業内容
1	リズム運動
2	室内でできる体力測定
3	サーキット運動＆ゲーム（多種多様な動き、ルール理解）①
4	サーキット運動＆ゲーム（多種多様な動き、ルール理解）②
5	集団遊びの指導案作成
6	指導実践①・集団遊び
7	指導実践②・集団遊び
8	サーキット運動の指導案作成
9	指導実践③・サーキット運動
10	指導実践④・サーキット運動
11	指導実践⑤・サーキット運動
12	指導実践⑥・サーキット運動
13	リズム運動の指導案作成
14	指導実践⑦・リズム運動
15	指導実践⑧・リズム運動

授業の評価	「試　験」：指導実践試験　（３０%） 「平常点」：授業態度及び取り組む意欲　（５０%） 「その他」：指導案　（２０%）
課題（レポート等）のフィードバック	毎回の授業終了時に、振り返りシートを記入し、提出する。 振り返りシートは次回の授業時に返却する。 授業内容に関する質問は、全体に向けて回答する。必要に応じて、個別に回答も行う。
事前・事後の学習等の内容	予習：基本的な生活習慣を整える。特に、食事、睡眠などに気をつけ体調管理を心がける。 　　次回の授業内容を把握し、主な運動遊びを予習しておくこと。 復習：返却された振り返りシートを元に、気づきや学びを定着させること。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45分　）　事後学習（　45分　）
履修上の注意	・授業を受ける態度や姿勢を評価する。授業態度が著しく悪い場合は、退場を命じることがある。 ・安全に授業ができるよう。ピアス、ネックレス、つけ爪、時計等の装飾品は外して受講する。 ・運動にふさわしい服装（ジャージ）と靴（スニーカー）を着用し受講する。 ・各自で水分およびタオルを用意する。 ・各自で貴重品を管理する。 ・体調が悪い、病気や怪我がある場合は、授業前に必ず申し出ること。
テキスト	適時資料配布
参考書	文部科学省「幼児期運動指針ガイドブック」 https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319772.htm
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】 授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
キリスト教教育 (20110)	講義	2	1年次 後期	必修		時久　牧人

授業の到達目標	１．キリスト教について学び、キリスト教の本質である「愛」について多角的に理解する。 ２．「愛すること」を日常生活および教育現場にて適用するための実践的知識と能力を身につける。 ３．「神を愛し人を愛せ」という言葉を深く理解する。 ４．神の作品という概念を正しく健全にとらえ、肯定的なセルフイメージを持つ。
学位授与の方針 との関連	・キリスト教精神に基づく倫理観や愛と奉仕の精神を身につけている。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、または、コミュニケーション能力や課題発見・ 解決能力を身につけている。
授業の概要	キリスト教及びキリスト教教育の歴史を学び、愛するとは何かを深く理解し、他者に伝えることが できるよう表現力を培う。

授業計画

回数	授業内容
1	「キリスト教」について　聖書の各書の大まかな把握
2	聖書の読み方について（グループディスカッションを含む）
3	創造主、イエスキリスト、聖霊について①
4	創造主、イエスキリスト、聖霊について②
5	キリスト教の人間観について
6	キリスト教の教育観　幼児教育の歴史について
7	キリスト教の教育観　幼児教育の目的について
8	現代日本社会、および子供たちの現状を理解し、ディスカッションの時を持つ
9	キリスト教の行事を知る
10	「愛する」について　愛することと恋することの決定的な違い
11	「愛する」ことの構造
12	「愛する」ことの構造　東洋的思考と西洋的思考について
13	聖書の物語を読みプレゼンテーションを行う①
14	聖書の物語を読みプレゼンテーションを行う②
15	聖書の物語を読みプレゼンテーションを行う③

授業の評価	「試　験」：　筆記試験（３０％） 「平常点」：　授業・発表態度及びディスカッションの積極性（４５％） 「その他」：　提出物　（２５％）
課題（レポート等） のフィードバック	提出したものは、コメントを付して返却。場合によっては再提出をしてもらう。 授業内容に関する質問には個別又は全体に回答する。
事前・事後の学習 等の内容	各回のテーマを事前に調べておく。また授業の内容をレポートにまとめておく。 疑問点があれば調べ、内容によっては次の授業において質問するように準備しておく。
事前・事後の学習に必 要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	授業への取り組む姿勢も評価の対象であり、授業内容の理解度も重視している。 それらを踏まえて単位取得を目指してほしい。
テキスト	『新キリスト教保育指針』キリスト教保育連盟 聖書　讃美歌
参考書	『（改訂版）こどもさんびか』日本キリスト教団出版局、 『マザー・テレサ　愛のことば』女子パウロ会 『トリニティーブック（私たちが信じる神）』時久牧人　広畑キリスト教会 『愛するということ』エーリッヒ・フロム　紀伊国屋書店
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
器楽ＩA (20710)	演習	1	1年次 前期	選択	幼免必修	池田京子ほか 備考欄参照

授業の到達目標	１．基本的な読譜力を獲得している。 ２．ピアノ演奏の基礎技術を獲得し、初歩レベルの単純な楽曲を演奏できる。 ３．コードによる簡単な伴奏法を学習し、基本形での伴奏付けができる。
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。
	・本学のグレードカリキュラムに従い、個々の進度に応じて学習するピアノ実技演習授業。 ・楽譜の読み方やピアノ演奏の基礎技術を進度別グレード課題の楽曲演奏により学習する。 ・基本形を用いたコードによる伴奏法をこどものための楽曲演奏により学習する。 ・原則として、毎回、進度別の楽曲と、こどものための楽曲の２種類を実践、実習する。 ・適宜、よりよい演奏をするための意見交換を実施し、演奏技術向上を目指す。（TPS、ピアティーチングなど）

授業計画

回数	授業内容	
1	オリエンテーション、各自のグレード判定、音符の読み方学習	
2	簡単な伴奏のためのコードについての学習	
3	楽譜の読み方を学習	
4	進度別課題の実習「バイエル」他　(TPS等含む)	伴奏付け実習「こどものうた」　ハ長調の楽曲
5	〃	〃
6	〃	〃
7	〃	伴奏付け実習「こどものうた」　ヘ長調の楽曲
8	〃	〃
9	〃	〃
10	〃	伴奏付け実習「こどものうた」　任意の楽曲
11	〃	〃
12	〃	〃
13	〃	〃
14	〃	〃
15	実技演習のまとめ、実技試験のための練習	

	「試　験」：　実技試験　（８０％） 「平常点」：　課題への取り組み、ピアノ演奏のマナー、授業態度　（２０％） 「その他」：
課題（レポート等）のフィードバック	毎回の課題について、個別に到達度をチェックしてコメントする。
事前・事後の学習等の内容	予習：毎回、各自の進度に応じて与えられた課題を練習し、到達度を上げること。 復習：授業で学んだ課題について、指摘されたことなどを復習・練習すること。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45 分　）事後学習（　45 分　）
	・ピアノ演奏のマナーとして、爪は短く切ること。ネイルやマニュキア、指輪、ブレスレット等、 　アクセサリー類の使用は認めない。 ・教科書の楽譜を毎回必ず持参すること。 ・授業内の練習時間を演奏技術向上のために有効に活用すること。 ・日頃から、課題曲の楽譜を声に出して何度も音読みし、早く楽譜に慣れること。 ・譜読みやピアノの練習に励んだうえで、授業に臨むこと。
	・バイエルピアノ教則本、ブルグミュラー２５の練習曲、ソナチネアルバムＩ、ほか ・『こどものうた１００』小林美実監修　井戸和秀編　チャイルド本社 ・その他、適宜、プリントを配布する。
備　考	池田京子・宇治田仁美・髙礒八千代・福田真梨奈・藤井直子
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後やＳＮＳにて対応する。

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
器楽ＩＢ (20711)	演習	1	1年次 後期	選択	幼免必修	池田京子ほか 備考欄参照

授業の到達目標	１．基本的な読譜力を習得している。 ２．ピアノ演奏の基礎技術を習得し、ヘ音譜表を含んだ楽曲を演奏できる。 ３．コードによる簡単な伴奏法を学習し、基本形と転回形とを用いた伴奏付けができる。
学位授与の方針 との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。
授業の概要	・本学のグレードカリキュラムに従い、個々の進度に応じて学習するピアノ実技演習授業。 ・進度別グレード課題でヘ音譜表を含んだ楽曲を扱い、読譜力やピアノ演奏基礎技術を獲得する。 ・コードによる伴奏法や規則的なリズム表現の技術をこどものための楽曲課題により学習する。 ・原則として、毎回、進度別の楽曲と、こどものための楽曲など、２種類以上の課題を実践、実習する。 ・適宜、よりよい演奏をするための意見交換を実施し、演奏技術向上を目指す。 （ＴＰＳ、ピアティーチングなど）

授業計画	回数	授業内容	
	1	進度別課題の実習「バイエル」他　(TPS等含む)	伴奏付け実習：「こどものうた」
	2	〃	〃
	3	〃	リズム表現実習：マーチ
	4	〃	〃
	5	〃	リズム表現実習：任意の楽曲
	6	〃	〃
	7	〃	伴奏付け実習：「こどものうた」
	8	〃	〃
	9	〃	実習に役立つ課題の演奏
	10	〃	〃
	11	〃	讃美歌の演奏
	12	〃	〃
	13	〃	伴奏付けの実習：「こどものうた」
	14	〃	〃
	15	実技演習のまとめ、実技試験のための練習	

	「試　験」：　実技試験　（８０％） 「平常点」：　課題への取り組み、ピアノ演奏のマナー、授業態度　（２０％） 「その他」：
課題（レポート等） のフィードバック	毎回の課題について、個別に到達度をチェックしてコメントする。
事前・事後の学習 等の内容	予習：毎回、各自の進度に応じて与えられた課題を練習し、到達度を上げること。 復習：授業で学んだ課題について、指摘されたことなどを復習・練習すること。
事前・事後の学習に必 要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45 分　）事後学習（　45 分　）
履修上の注意	・ピアノ演奏のマナーとして、爪は短く切ること。ネイルやマニュキア、指輪、ブレスレット等、 アクセサリー類の使用は認めない。 ・教科書の楽譜を毎回必ず持参すること。 ・授業内の練習時間を演奏技術向上のために有効に活用すること。 ・譜読みやピアノの練習に励んだうえで、授業に臨むこと。 ・バイエルピアノ教則本、ブルグミュラー２５の練習曲、ソナチネアルバムＩ、ほか ・『こどものうた１００』　小林美実監修　井戸和秀編　チャイルド本社 ・『保育のためのマーチ･スキップ･ギャロップ･ワルツ･リズム曲集』　茂田すすむ編著　全音楽譜出版社 ・その他、適宜、プリントを配布する。
備　考	池田京子・宇治田仁美・髙礒八千代・福田真梨奈・藤井直子
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後やＳＮＳにて対応する。

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
教育実習指導Ⅰ (10811)	演習	1	1年次 前・後期	選択	幼免必修	岩谷恵利子 (実務家教員) 山本　郁子 楯　佳子

授業の到達目標	1．幼稚園・こども園教育実習の意義と目的を理解する。 2．教育実習に必要な知識と技術を習得する。 3．学内の付属幼稚園にて観察実習を行い、講義で学んだ理論を観察実習にて確認し、教育・保育の基本を理解する。
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得してる。
授業の概要	幼稚園・こども園教育実習の事前・事後指導を行い、教育実習の意義を理解し、実習を有意義に行うための理論と技術を学ぶ。

授業計画

回数	授業内容
1	教育実習Ⅰの目的と意義
2	幼稚園教育要領　こども園教育・保育要領　　保育実技(手あそび) 第１章「幼稚園教育の基本」「教育及び保育の基本」「教育課程」
3	〃　第２章「ねらい及び内容」　保育実技(手あそび)
4	〃　第３章「留意事項」「健康及び安全」　第4章「子育ての支援」
5	付属幼稚園見学　保育実技(手あそび・わらべうた)
6	幼稚園・こども園一日の生活の流れ　保育実技(手あそび)
7	教育実習個人票作成　グループワーク：保育実技(絵本の読み聞かせ)
8	観察実習日誌の説明　実習記録の書き方①　グループワーク：保育実技(絵本の読み聞かせ)
9	〃　実習記録の書き方②　グループワーク：模擬保育
10	〃　実習記録(エピソード記録)の書き方③　グループワーク：模擬保育
11	参加実習の方法と教材研究(絵本・遊び)　グループワーク：模擬保育
12	実習オリエンテーション　教材研究(絵本・遊び)
13	教育実習に向けての心得とマナー
14	教育実習の事後報告・礼状作成
15	自己評価と今後の課題　まとめ

授業の評価	「試　験」：　(　　%) 「平常点」：授業態度、提出物等　(６０%) 「その他」：付属幼稚園での実習日誌への取組、小テスト等（４０%）
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。 ・
事前・事後の学習等の内容	予習：テキスト、配布プリント等を通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 復習：授業において理解出来なかった事柄については、授業中あるいは授業後に質問し、授業内容を理解すること。 レポートや、実践に役立つ手作り教材を課すことがある。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45分　）事後学習（　45分　）
履修上の注意	・本科目では実習に対する意欲的な姿勢、学生としての態度とマナーを重視する。 ・履修登録をしていても下記の場合、学外実習参加を認めないことがある。 ①事前の実習指導において２回以上の欠席がある。②授業態度が不良である。③小テストの成績が著しく低い。④教員による会議で実習が認められないと判断されたとき。 ・提出物期限は厳守すること。
テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府　文部科学省　厚生労働省　フレーベル館 『学び続ける保育者をめざす「実習の本」』　久富陽子編著　萌文書林
参考書	『幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド』　小櫃智子編　わかば社
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育原理 (20140)	講義	2	1年次 前期	選択	保育士資格必修	林　幹士

授業の到達目標	１．保育の意義及び目的について理解する。 ２．保育に関する法令及び制度を理解する。 ３．保育所保育指針における保育の基本について理解する。 ４．保育の思想と歴史的変遷について理解する。 ５．保育の現状と課題について理解する。
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。
授業の概要	保育の意義、目的、法令、制度について多様な角度から考える。保育所保育指針における保育の基本について学習する。保育に関する思想や歴史的変遷について学ぶ。さらに、保育の現状と課題について把握する。保育に関する幅広い視野を養い、子どもの発達にとってよりよい保育のあり方を考える。自分の意見を発表したり書いたりする機会を多く設ける。この授業を通して、保育により興味を持つことができる。

授業計画

回数	授業内容
1	保育の意義及び目的
2	保育所保育に関する基本原則
3	保育における養護
4	保育の目標・内容・環境・方法
5	乳児保育に関わるねらい及び内容
6	1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容
7	3歳以上の保育に関するねらい及び内容
8	子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）とその循環
9	健康及び安全
10	子育て支援
11	職員の資質向上
12	保育の思想と歴史的変遷
13	保育実践事例①から（グループワーク）
14	保育実践事例②から（グループワーク）
15	保育の現状と課題

授業の評価	「試　験」： 「平常点」： 「その他」：グループワーク課題（５０％）・レポート（５０ ％）
課題（レポート等）のフィードバック	・グループワーク課題やレポート等は、コメントをつけて返却する。 ・授業内容に関する質問は、個別又は全体に回答する。
事前・事後の学習等の内容	予習：事前に指定された資料やテキストの該当箇所を通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 復習：テキスト、配布プリント等を通読し、各回の授業内容についてまとめておくこと。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	予習・復習を行い、自分なりの保育観について考えていくようにすること。
テキスト	『保育所保育指針解説』『幼稚園教育要領解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』
参考書	適宜紹介する。
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
社会福祉 (20140)	講義	2	1年次 後期	選択	保育士資格必修	川島　直子

授業の到達目標	１．現代社会における社会福祉の意義・理念・歴史的変遷・対象に関する知識を得る。 ２．社会福祉の各領域についての法制度・実施体系等について理解を得る。 ３．保育士として社会福祉における相談援助・利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。
学位授与の方針 との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。
授業の概要	社会福祉の原理・原則を理解し、現代社会における社会福祉の施策と動向及び必要性と今後の 課題について概説する。

授業計画

回数	授業内容
1	現代社会における社会福祉の概念
2	欧米の社会福祉の歴史的変遷
3	日本の社会福祉の歴史的展開
4	社会福祉の原理と社会保障
5	生活保護制度
6	社会福祉サービスの概要と専門職
7	社会福祉専門職の専門性と倫理
8	社会福祉の法体系・制度
9	ソーシャルワークの意義と内容①保育士と社会福祉の関係性 ～社会福祉法制度上から見た保育士の立ち位置へ～
10	ソーシャルワークの意義と内容②社会福祉と保育士の関連性から見た相談援助（グループワーク）
11	現代社会における児童福祉の施策と課題
12	現代社会における障害福祉の施策と課題
13	現代社会における高齢者福祉の施策と課題
14	保育士としての権利擁護と苦情解決、利用者保護
15	まとめ、ふりかえり（グループワーク）

授業の評価	「試　験」：筆記試験（６０％） 「平常点」：授業態度、講義ノート（３０％） 「その他」：レポート等提出物（１０％）
課題（レポート等） のフィードバック	授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。
事前・事後の学習 等の内容	予習：テキストや参考書の該当箇所を通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 毎時間、次回授業の主要な内容について予習を課す。 復習：テキスト、参考書、配布プリント等を通読し、各回の授業内容について理解を深めて おくこと。毎授業後に復習を求める。その際、レポートを課すことがある。
事前・事後の学習に必 要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	私語は一切禁止する。授業内容に関する質問、疑問は積極的にすること。 テキスト、配布プリント等は授業前に準備し、定刻に授業が開始できるようにする。 配布プリントは一つにファイリングし、毎授業ごと持参する。
テキスト	『保育と社会福祉』橋本好市・宮田徹 編　みらい出版 『保育福祉小六法』保育福祉小六法編集委員会編　みらい出版
参考書	・『図解で学ぶ保育　社会福祉』直島正樹・原田旬哉 編　萌文書林 ・『図解で学ぶ保育　子ども家庭福祉』直島正樹・原田旬哉 編　萌文書林 ・『保育実践に求められる子ども家庭支援』橋本好市・直島正樹 編　ミネルヴァ書房 ・『保育実践に求められるソーシャルワーク』橋本好市・直島正樹 編　ミネルヴァ書房 ・『障害者への支援と障害者自立支援制度』相澤譲治・橋本好市・直島正樹 編　みらい出版 その他、必要に応じて随時紹介する。
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
子ども家庭福祉 (20411)	講義	2	1年次 後期	選択	保育士資格選択	濱田　敏子 (実務家教員)

授業の到達目標	１．現代社会における子ども家庭福祉の意義及び歴史的展開について理解する。 ２．子ども家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解する。 ３．子ども家庭福祉の制度や実施体系について理解する。 ４．子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。
学位授与の方針 との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。
授業の概要	子どもの権利を守るために必要なものはゆるぎない人権意識である。 その基盤となる知識や見識を学ぶ。

授業計画

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	子ども家庭の福祉
3	子ども家庭福祉の歴史
4	子ども家庭福祉の制度と法律
5	子ども家庭福祉にかかわる機関と施設 ①
6	子ども家庭福祉にかかわる機関と施設 ②
7	児童福祉施設の現状　グループワーク
8	少子化と子育て家庭へのサービス
9	様々な保育サービス　グループワーク
10	ひとり親家庭の福祉サービス
11	子育て支援と子どもに関する諸問題
12	子どもの貧困と対策
13	地域のおける連携・協働とネ ットワーク
14	これからの子ども家庭福祉を考える
15	まとめ　グループワーク

授業の評価	「試　験」：筆記試験（７０％） 「平常点」：授業態度、提出物など（２０％） 「その他」：小テスト（１０％）
課題（レポート等） のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。
事前・事後の学習 等の内容	教科書の内容プラス現在の社会状況と加味して子ども家庭福祉に関する学びを行えるように 実施する。
事前・事後の学習に必 要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）　事後学習（　135分　）
履修上の注意	・新聞を読み、ニュースに関心を持つこと。 ・積極的に発言すること
テキスト	『図解で学ぶ保育「子ども家庭福祉」』直島正樹・河野清志編著　萌文書林
参考書	『基本保育データブック2021』全国保育士養成協議会 監修 中央法規 『子ども家庭福祉』 新保幸雄・小林理 著 中央法規
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
社会的養護Ⅰ (20510)	講義	2	1年次 前期	選択	保育士資格選択	川島　直子

授業の到達目標	１．社会的養護における原理・原則について理解する。 ２．社会的養護の先人の知恵、努力、功績に関する知識を獲得する。 ３．社会的養護の学問を基礎とした自らの考える力を身につける。
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。
授業の概要	社会的養護の原理・原則を理解し、現代社会における社会的養護の施策と動向、および必要性と今後の課題について概説する。

授業計画

回数	授業内容
1	現代の子どもを取り巻く環境と社会的養護を必要とする子どもの現状について
2	社会的養護の歴史的変遷について
3	社会的養護関連法、施策、支援体制について
4	社会的養護の基本理念と施設養護の原理・原則について
5	児童の発達課題と要養護児童の発達課題の特徴について
6	子どもの権利条約と権利擁護の取り組みについて
7	施設入所児童の日常生活・自立支援について
8	治療的援助・障がい児に対する援助、親子関係、学校、地域との関係について
9	施設における養護、里親における養護について
10	地域の相談機関、関係機関について
11	少子化対策と次世代育成支援、子育て家庭支援について
12	専門職とその職務、専門性と職員倫理について
13	保育者に求められるソーシャルワークについて（グループワーク）
14	施設運営と第三者評価、施設最低基準について
15	まとめ、振り返り（グループワーク）

授業の評価	「試　験」：筆記試験（６０％） 「平常点」：授業態度、講義ノート（３０％） 「その他」：レポート等提出物（１０％）
課題（レポート等）のフィードバック	授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。
事前・事後の学習等の内容	予習：テキストや参考書の該当箇所を通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 毎時間、次回授業の主要な内容について予習を課す。 復習：テキスト、参考書、配布プリント等を通読し、各回の授業内容について理解を深めておくこと。毎授業後に復習を求める。その際、レポートを課すことがある。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	私語は一切禁止する。授業内容に関する質問、疑問は積極的にすること。 テキスト、配布プリント等は授業前に準備し、定刻に授業が開始できるようにする。 配布プリントは一つにファイリングし、毎授業ごと持参する。
テキスト	『演習・保育と社会的養護実践』―社会的養護Ⅱ―　橋本好市・原田旬哉　編　みらい出版 『保育福祉小六法』保育福祉小六法編集委員会編　みらい出版
参考書	『図解で学ぶ保育　社会的養護Ⅰ』原田旬哉・杉山宗尚　編　萌文書林 その他、必要に応じて随時紹介する。
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
子ども家庭支援の心理学 (20211)	講義	2	1年次 前期	選択	保育士資格選択	林　幹士

授業の到達目標	１．子ども一人ひとりに応じた心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 ２．子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を学ぶ。 ３．子どもを理解するための具体的な方法を知る。
学位授与の方針 との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。
授業の概要	子どもを理解するうえでの基本的な考え方やその方法、子どもの理解に基づく保育者の援助や態度の基本について理解する。また、子どもを理解するために必要な観察の視点や職員・保護者との連携について、そして、子どもの育ちにかかわる環境について考え、子ども理解に基づくの援助について学習する。

授業計画

回数	授業内容
1	子どもの実態に応じた発達・学びの把握(1)保育における子ども理解の意義
2	子どもの実態に応じた発達・学びの把握(2)子どもとの関わりと共感的理解
3	子どもの実態に応じた発達・学びの把握(3)実際に子どもの発達を感じよう①
	(グループワーク)
4	子どもの実態に応じた発達・学びの把握(4)実際に子どもの発達を感じよう②
	(グループワーク)
5	子どもを理解する視点(1)子どもの生活・遊び
6	子どもを理解する視点(2)環境としての保育者と発達
7	子どもを理解する視点(3)子ども相互の関わりと関係づくり
8	子どもを理解する視点(4)集団における経験と発達
9	子どもを理解する視点(5)子どもの葛藤とつまずき
10	子どもを理解する視点(6)保育の環境の理解と構成／環境の移行と変化(体験)
11	子どもを理解する方法(1)観察／記録／省察・評価
12	子どもを理解する方法(2)職員間や保護者との情報共有
13	子どもの理解に基づく発達援助(1)発達の課題に応じた援助と関わり
14	子どもの理解に基づく発達援助(2)特別な配慮を要する子どもの理解と援助
15	子どもの理解に基づく発達援助(3)発達の連続性と就学への支援

授業の評価	「試　験」：筆記試験　（６０％） 「平常点」：授業への取り組み方(意欲・関心・態度)　（２０％） 「その他」：提出物(感想、小レポート、ノート・ファイルなど)　　（２０％）
課題（レポート等） のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、 個別または全体に回答する。
事前・事後の学習 等の内容	・予習：該当箇所の通読。 ・復習：授業内容の見直し。学びをどう実践に生かしていくかを考えよう。
事前・事後の学習に必要 な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	・ノート、ファイル(配付プリント用)を持参すること。ノート・ファイルは提出することがある。 ・授業は、学生の興味・関心、進度に応じて、授業計画の各単元を行き来しながら総合的に進める。
テキスト	なし。授業時プリントなどを配布する
参考書	適宜、授業中に紹介する。
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
子どもの食と栄養 (20310)	講義	2	1年次 後期	選択	保育士資格選択	橋本　賢

授業の到達目標	１．食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学び、子どもの発育・発達との関連について理解を深める。 ２．保育における食育の基本と内容および実施環境を理解し、協働者との連携の重要性を理解する。 ３．アレルギーを含む病児に対して栄養学的なアプローチをする能力を身につける。
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。
授業の概要	基礎的な栄養学をもとにライフステージ別の栄養代謝を把握し、食と栄養に関する現状および問題点を見出す。調乳、離乳食および幼児食の提供を行う栄養士の業務を紹介し、連携をとれるような食育計画を立案する。

授業計画

回数	授業内容
1	子どもの食生活の現状と課題、望まれる食生活について；子どもの健康な食生活
2	栄養と栄養素の働き；栄養学の学問について
3	三大熱要素（糖質・脂質・たんぱく質）の機能と役割；食育に必要な基礎栄養学
4	ビタミン、ミネラルの機能と役割；食育に必要な基礎栄養学
5	栄養素の消化と吸収；食育に必要な基礎栄養学
6	健全な児を育むための食と栄養について；妊娠授乳期の栄養
7	新生児期・乳児期の栄養について
8	母乳、育児乳とその調整方法、離乳食について；乳児期の食事（乳汁，離乳）
9	幼児期の食事の意義；幼児期の食事と栄養
10	保育所、幼稚園、学校給食と食育について
11	施設ごとの食育活動と協働職連携について；食育活動
12	食育授業を考える（食育計画の立案：グループ学習）
13	食育プレゼンテーション（プレゼンテーション）
14	アレルギー児に対する栄養
15	先天性疾患、障がい児、病児に対する栄養

授業の評価	「試　験」：筆記試験（４０％） 「平常点」：受講態度　（３０％） 「その他」：レポート、発表　（３０％）（食育プレゼンテーション）
課題（レポート等）のフィードバック	学修内容によってレポートを課す。レポートの内容に不備があれば修正を含む再提出を求めることがある。 再提出の内容も含めて総合的に評価し、その他の評価点とする。 評価後のレポートはコメントを付して返却し、復習に活用できるようにする。 授業内容やレポート共通の質問は授業内で全体に回答する。
事前・事後の学習等の内容	予習：テキストや参考書の該当箇所を通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 毎時間、次回授業の主要な内容について予習を課す。 復習：テキスト、配布プリント等を通読し、各回の授業内容について理解を深めておくこと。 毎授業後に復習を求める。その際、レポートを課すことがある。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	日頃から栄養，食についての情報収集を心がけ，質問に対して十分に回答できるようにしておくこと。 個別の情報収集や学修内容を元に、グループで食育を考えてプレゼンテーションを課します。 多職種連携に携わる保育者としの積極性と協調性をもって取り組んでください。 10回以上の出席がないと、定期試験受験資格を失い、成績評価対象から除外されます。
テキスト	プリント配布 『子どもの食と栄養』岡崎光子　編著　子どもの食と栄養　光生館
参考書	『子どもの食と栄養 改訂第２版』　水野清子ら編著　診断と治療社
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
乳児保育Ⅰ (20650)	講義	2	1年次 後 期	選択	保育士資格必修	中尾　博美

授業の到達目標	１．保育所・乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 ２．３歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容について理解する。 ３．乳児保育における職員間の連携・協同及び保護者や地域の関係機関との連携について学ぶ。
学位授与の方針 との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。
授業の概要	人格の基礎が形成される時期に、環境と体験の相互作用を通して、豊かな心情・意欲・態度を 育てる保育者の具体的な関わりと、養護と教育について学ぶ。

授業計画

回数	授業内容
1	乳児保育の意義と歴史
2	子どもと家庭を取り巻く現状と課題
3	０歳児の身体機能の発達と保育（１）
4	０歳児の身体機能の発達と保育（２）
5	１歳児の発育・発達を踏まえた保育
6	２歳児の発育・発達を踏まえた保育
7	自己肯定感を育む保育
8	自我の芽生えと自律を支える保育
9	手指の機能・事物の操作の発達と保育
10	３歳未満児の保育における配慮
11	３歳未満児の発達にふさわしい教材の研究（プレゼンテーション）
12	あやし遊び、わらべ歌遊びの実際（グループワーク）
13	乳児保育における計画・記録・評価
14	乳児保育と保育士の専門性
15	人生における最初の３年間の意義

授業の評価	「試　験」：筆記試験（８０％） 「平常点」：授業態度（１０％） 「その他」：レポートなど提出物（１０％）
課題（レポート等） のフィードバック	・提出されたレポートについては、個別または授業の中でコメントする。 ・授業内容に関する質問は個別または全体に回答する。
事前・事後の学習 等の内容	予習：電車の中や買い物などで出会う乳幼児の観察をして記録したり、社会の情勢と 乳児の置かれている状況に関心をもって新聞記事に目を通したりすること。 復習：テキストや配布プリントを通読し各回の授業の内容を理解しておくこと。
事前・事後の学習に必 要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	分からないことはその場で質問し、積極的に授業に参加すること。
テキスト	『乳児の生活と保育』　松本園子編著　ななみ書房 『保育所保育指針』　『幼稚園教育要領』　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
参考書	月刊『保育とカリキュラム』２０２１年　ひかりのくに 授業の中で紹介する。
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
社会的養護Ⅱ (20511)	演習	1	1年次 後期	選択	保育士資格選択	井上　陽介

授業の到達目標	１．社会的養護の基礎知識を深め、現状を把握する。 ２．児童養護の現場の実状を知り、具体的な支援の方法を学ぶ。 ３．保育所以外の児童福祉施設等での保育士の働きを知り、保育者として多様性のある支援を実現できる力を身につける。
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。
授業の概要	社会的養護の具体的実践について理解し、事例をもとに子どもの心の動きを考え、保育者に求められる役割について考える。

授業計画

回数	授業内容
1	権利擁護の具体的な取り組みや支援
2	専門職としての倫理と責務
3	施設養護（乳児院他）の特性と実際
4	施設養護（情緒障害児短期治療施設他）の特性と実際
5	家庭養護の特性と実際
6	ケアマネジメントの意味と実際
7	事例に基づく自立支援計画の策定　(PBL)
8	日常生活支援とその実際
9	心理的支援とその実際
10	自立と多様な自立の実際
11	記録の意義と役割、自己評価と第三者評価
12	保育士の専門的知識・技術とその応用
13	社会的養護実践におけるソーシャルワーク
14	小規模化、家庭的養護の方向性と今後の課題
15	まとめ

授業の評価	「試　験」：筆記試験　・小テスト含む（７０％） 「平常点」：授業態度・出席など（３０％） 「その他」：
課題（レポート等）のフィードバック	小テストに関しては、希望する学生に個別に回答する。 授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。
事前・事後の学習等の内容	授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。 復習：各回の授業内容について理解を深め、テキスト、参考書を通読する。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45 分　）事後学習（　45 分　）
履修上の注意	授業中はもちろんのこと予習・復習を含め、 自らの学習に対して意欲的に取り組むこと。
テキスト	適宜プリント配布
参考書	授業時に必要に応じて提示する。
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
幼児音楽ＩA (20710)	演習	1	1年次 前期	選択	保育士資格選択	松本　温子

授業の到達目標	１．基礎的な音楽理論を理解し、活用する事が出来る。 ２．基本的な発声を身につけ、豊かな歌唱・弾き歌いが出来る。 ３．合唱を通して、声を合わせて表現する事を体験し、同時に、表現力、聴き合える耳を養う。
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。
授業の概要	「保育の上で、音楽（音楽理論の修得、歌う、演奏する、聴き合う、表現する）の担う力は 非常に大きい」という事を理解し、その技術や知識を高め、保育者としての学びと心を深める。

授業計画	回数	授業内容
	1	授業内容・基本理念／オリエンテーション（幼児音楽Ｉにおける“自己目標”を掲げる）
	2	歌唱姿勢・呼吸法／譜表・階名
	3	発声法・譜表・音名／弾き歌い準備
	4	音符・休符／弾き歌い
	5	コードネーム／弾き歌い（“春のうた”を中心に）
	6	拍子記号・変化記号／弾き歌い
	7	調号／弾き歌い
	8	合唱／全音・半音／弾き歌い
	9	合唱／音階／弾き歌い（“夏のうた”を中心に）
	10	音階／弾き歌い
	11	音程／弾き歌い
	12	プレゼンテーション：「“自己目標”に対しての評価、改善点、新たな目標など」
		／ 音程／　弾き歌い
	13	歌唱まとめ（独唱）／ 弾き歌い
	14	弾き歌いまとめ（独奏）／音楽理論まとめ
	15	まとめ

授業の評価	「試　験」：音楽理論筆記試験、実技試験（６０％） 「平常点」：授業態度（３０％） 「その他」：提出物など（１０％）
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート、提出物等の課題は、押印やコメントなどを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。
事前・事後の学習等の内容	予習：次回授業で使用する教材（プリント、「子どものうた100」）箇所をよく読み解き、 概要を把握しておくこと。 復習：各回に覚えた授業内容をより深く理解するよう、教材（プリント、「子どものうた100」） を見直しておくこと。レポート提出を課することがある。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45 分　）事後学習（　45 分　）
履修上の注意	“幼児音楽Ｉ”での主たる内容“音楽理論”に真剣に取り組み、学習し、理解すること。 歌唱、及び、弾き歌いの練習に十分励むこと。出席状況、授業態度を重視する。 意欲的な姿勢で授業に取り組み、教材などの準備物を忘れないこと。
テキスト	『子どものうた100』　小林美実 監修　　チャイルド本社 ・教材プリント配布(1年を通して使用)
参考書	授業の際、必要に応じ、プリント配布
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
幼児音楽ＩＢ (20710)	演習	1	1年次 後期	選択	保育士資格選択	松本　温子

授業の到達目標	１．幼児音楽ＩＡでの学習の上に、さらに、基礎的な音楽理論の理解を深め活用する事が出来る。 ２．基本的な発声を身につけ、豊かな歌唱・弾き歌いが出来る。 ３．弾き歌いでは、表情豊かに歌いながら伴奏が出来る技術を習得する。 ４．器楽合奏を通して、楽器の扱いや奏法を習得し、音色を楽しみながら音楽表現を行う。
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。
授業の概要	幼児音楽ＩＡで学習・習得した知識や経験を踏まえて、さらに、その技術や知識を高め、 保育者としての学びと心を深める。

授業計画	回数	授業内容
	1	前期学習の復習と確認／幼児音楽ＩBにおける“自己目標”を掲げる／弾き歌い
	2	コードの転回形／弾き歌い（“秋のうた”を中心に）
	3	ハ長調 音階・カデンツ／弾き歌い
	4	ヘ長調 音階・カデンツ／弾き歌い
	5	ト長調 音階・カデンツ／弾き歌い
	6	各調 音階・カデンツ／弾き歌い
	7	属７和音／弾き歌い（“冬のうた”を中心に）
	8	属７和音・メジャーコード・マイナーコード／弾き歌い
	9	移調／弾き歌い
	10	伴奏付け（ハ長調）／器楽合奏・説明
	11	伴奏付け（ヘ長調）／器楽合奏
	12	プレゼンテーション：「“自己目標”に対しての評価、改善点、新たな目標など」
		／伴奏付け（ト長調）
	13	反復記号・強弱記号／歌唱まとめ（独唱）
	14	弾き歌いまとめ（独奏）／音楽理論まとめ
	15	まとめ

授業の評価	「試　験」：実技試験、音楽理論筆記試験（６０％） 「平常点」：授業態度（３０％） 「その他」：提出物など（１０％）
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート、提出物等の課題は、押印やコメントなどを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。
事前・事後の学習等の内容	予習：次回授業で使用する教材（プリント、「子どものうた100」）箇所をよく読み解き、 概要を把握しておくこと。 復習：各回に覚えた授業内容をより深く理解するよう、教材（プリント、「子どものうた100」） を見直しておくこと。レポート提出を課することがある。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45分　）事後学習（　45分　）
履修上の注意	“幼児音楽Ｉ”での主たる内容“音楽理論”に真剣に取り組み、学習し、理解すること。 歌唱、及び、弾き歌いの練習に十分励むこと。出席状況、授業態度を重視する。 意欲的な姿勢で授業に取り組み、教材などの準備物を忘れないこと。
テキスト	『子どものうた100』　小林美実 監修　　チャイルド本社 ・音楽理論 教材プリント配布（１年を通して使用）
参考書	授業の際、必要に応じ、プリント配布
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育実習指導ＩA (20821)	演習	1	1年次 後期	選択	保育士資格選択	濱田　敏子 (実務家教員) 中重　直俊 (実務家教員) 松本　恭子

授業の到達目標	１．保育所の内容や機能、保育士の仕事について理解する。 ２．保育実習では保育理論と実践の統合を図り、保育を総合的に理解し、保育士としての専門性を具体的に学び、現場での体験を通して理解する。 ３．保育実習Ⅱに向け自己課題を明確にする。
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。
授業の概要	保育者になるための基本的な知識を身につけ、実習の意義や実習施設について確認・理解をする。

授業計画	回数	授業内容
	1	実習Ｉについて　　実習の目的と意義
	2	保育所実習について　保育所実習の目的と意義 ビデオ視聴 課題作成
		（1）保育実技・絵本
	3	保育実習の具体的内容　　課題作成 （2） 保育実技・手遊び
	4	保育実習事前指導　　個人票作成 1
	5	〃　個人票作成 2 保育所生活１日の流れを把握する（乳児）
		実習記録の書き方（1）
	6	〃　オリエンテーションについて（1）
	7	〃　オリエンテーションの日程を決める（グループワーク）
	8	〃　保育所生活1日の流れを把握する（幼児）
		実習記録の書き方（2）
	9	〃　実習記録の書き方（3） 研究保育案 （１）
	10	〃 実習先での立ち居振る舞いについて
		守秘義務について 研究保育案（2） （グループワーク）
	11	〃　自己紹介（1） 学校への緊急連絡について
	12	行き帰りの服装について
	13	〃保育実習に臨むために（心構え、服装、身だしなみ、持ち物確認）
		実習要項確認（グループワーク）
	14	事後実習指導　　実習先へのお礼状
	15	まとめ　　保育実習の反省と課題

授業の評価	「試　験」： 「平常点」：授業態度、提出物など（６０ ％） 「その他」：実習評価、実習や実習日誌への取組みなど （４０％）
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、 個別又は全体に回答する。
事前・事後の学習等の内容	保育実習にかかわる準備 （教材作り等） を行うこと。 遅刻や欠席のないように日々自らの体調管理を怠らないこと。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 45分 ） 事後学習（ 45分 ）
履修上の注意	本科目では「学習に対する意欲的な姿勢」と「社会人としての行動とマナー」を要求する。 履修登録をしていても、学外実習参加を認めない場合がある。 ①授業態度の様子。②授業において課された課題を提出しない場合。 ③授業において出された指示・指導に従わない場合。 ④教員による会議で実習が認められないと判断された場合。 ⑤事前実習指導欠席2回以上の場合 授業回13回目と14回目の間に実習を行う。 ⑥実習の評価と授業評価とを、総合的に評価する。
テキスト	『保育・福祉専門職をめざす学習の基礎』 生活技術教育研究会編 ななみ書房 『保育所保育指針』 厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 『施設実習ガイド 保育者として成長するための事前事後学習』 駒井美智子 萌文書林
参考書	『幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド』 守巧・小櫃智子 著 わかば社
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育実習指導ＩＢ (20831)	演習	1	1年次後期 2年次後期	選択	保育士資格選択	中重　直俊 (実務家教員) 林　幹士

授業の到達目標	１．福祉施設の内容や機能、また、保育士や施設教員の仕事について講義を通して学び、施設実習が円滑に実践できることを目指す。 ２．実習施設の一日の生活の流れや支援の内容を理解しる。 ３．実習施設が持つ機能や社会的役割について理解する。
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。
授業の概要	児童福祉施設での実習を通じて、利用者への理解を深めるとともに、施設の機能および施設職員の職務について実践的に学ぶ。

授業計画	回数	授業内容
	1	意義と目的、概要、実習生に求められるものなど
	2	福祉施設、利用者、職員の理解
	3	ＤＶＤ「施設実習の基本」
	4	生活指導、学習指導、社会人としての常識
	5	療育指導、自立支援
	6	乳児院、母子生活支援施設、児童養護施設
	7	児童発達支援センター
	8	障害者支援施設（入所更生、通所授産）
	9	個人票作成、オリエンテーションについて
	10	実習課題、事前確認事項
	11	実習日誌の書き方
	12	指導計画の書き方
	13	実習中のケーススタディ
	14	グループ討議、お礼状作成
	15	実習の反省とまとめ

授業の評価	「試　験」： 筆記試験（１０%） 「平均点」： 授業態度、課題提出（４０％） 「その他」： 実習態度、実習評価など（５０%）
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。
事前・事後の学習等の内容	教科書、配布プリントを通読しておくこと 授業を欠席した場合、補講を行うので手続きをしにくること
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45分　）事後学習（　45分　）
履修上の注意	本科目では「学習に対する意欲的な姿勢」と「社会人としてのマナー」を要求する。 ①事前指導の欠席が2回以上の場合、②授業態度、出席状況が悪い場合、 ③授業において課された課題を提出しない場合、④教員による会議で実習が認められないと判断された場合、⑤小テストの成績が著しく低い場合、実習を認めない。
テキスト	『保育・福祉専門職をめざす学習の基礎』　生活技術教育研究会編　ななみ書房
参考書	『保育所保育指針』　必要に応じ配布する
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】水曜の昼休み　中重研究室

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
人権教育の研究 (20150)	講義	2	1年次 前期	選択	保育士資格選択	勝木　洋子

授業の到達目標	「命を大切にすること、子どもの最善の利益とは、一人一人の子どもに寄り添った保育･教育とは」を考えながら、保育者自身の自尊感情を見つめ、他者への思いやりを深め、人間関係を構築する能力を身につける。社会で起きている事象に興味関心を持ち、自分事に置き換えて考える力をつける。
学位授与の方針との関連	保育に関する専門知識として、子どもの命や保護者との関係性などについて幅広い視野で考察する方法を身につける。また、グループワークを通してコミュニケーション能力や課題解決能力を高め、保育･教育により高い関心と知識を得る。
授業の概要	自尊感情のワーク、ジェンダー平等教育の事例、SDGｓを解説し、福祉と人権、子どもの人権と保育などを考える。特に女性の人権、子どもの人権を取り上げながら、新聞などから現在起きている課題を解説する。障害者支援法、DV、虐待等防止条例などの解説にはゲストスピーカーを招いて学習する。

授業計画

回数	授業内容
1	オリエンテーション（授業概要の説明）と子どもの権利条約について
2	阪神淡路大震災、東日本大震災から子どもの命と人権を考える
3	女性の健康と人権　リプロダクティブヘルス／ライツ
4	デートDVからDVへ　被害者にも加害者にもならない方法について
5	ジェンダー平等教育の現状
6	ジェンダー平等教育の課題
7	いじめ等防止条例策定の理解（ゲストスピーカー）
8	パワーハラスメントと人権について考える
9	SDGsからみた人権とジェンダー　男女格差を考察する
10	障害児とその家族から保育･教育を考える（ゲストスピーカー）
11	LGBTsとジェンダーバイアスからその人らしい生き方を考える
12	アンコンシャスバイアスとマイクロアグレッションを考える
13	ダイバシティ、多様性であることを理解する
14	グループワーク
15	グループ発表

授業の評価	「試　験」：グループワークによる発表を評価する　（７０％） 「平常点」：毎回のコメントカード提出による　（３０％） 「その他」：
課題（レポート等）のフィードバック	毎回のコメントカードの内容を共有し、課題を確認する
事前・事後の学習等の内容	事前：新聞などを読み、今起きている人権侵害について理解し、コメントとともに提出する 事後：集めた資料などから課題を抽出し、グループで課題を解決する
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	Word、Excel、PPTを使いプレゼンテーションができるようにしておくこと Google　Driveに格納している資料を各自ダウンロードしてください 毎回必ず提出物があるので、忘れないようにすること 授業には積極的に参加する態度が必要です
テキスト	Google　Driveに格納している資料を各自ダウンロードしてください
参考書	Google　Driveに格納している資料を各自ダウンロードしてください
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】月曜日昼休み

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
コンピュータ概論 (20910)	講義	2	1年次 後期	選択	情報処理士必修	津田　敏

授業の到達目標	1.パソコンの内部3大装置及び周辺装置である入力装置・出力装置について理解する。 2.ネットワーク、有線・無線通信について理解する。 3.関連機器やソフトウェアについて理解する。
学位授与の方針 との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。
授業の概要	パソコンの基本的知識、ネットワーク、関連機器について学び情報処理について考える。

授業計画

回数	授業内容
1	<PBL>OSとは、PCとスマホのOSは、タブレットとノートPCは
2	<PBL>スマホとタブレットの使い分け、PCに必要な装置には
3	<PBL>CPUの役割は、存在場所（PC内部確認）は
4	<PBL>メモリ、ハードディスクの役割は、存在場所（PC内部確認）は
5	<PBL>SSDとは、入力装置には
6	<PBL>出力装置ディスプレイ（解像度、光3原色、4K/8K）とは
7	<PBL>MNO&MVNOの存在&SIMとは&WiFi（規格）とは　P24～P36　　②小テスト
8	<PBL>プリンタ（種類・接続方法・解像度・用紙）について
9	<PBL>ネットワークには
10	<PBL>関連機器には①
11	<PBL>関連機器には②
12	<PBL>PC・スマホのソフトウェアは
13	PC内部機器名称役割・ネットワークのまとめ
14	ソフトウェアの機能実習①　アルバイト勤務表
15	ソフトウェアの機能実習②　カレンダー作り・情報セキュリティ動画

授業の評価	「試　験」：定期試験　　（６０％） 「平均点」：小テスト4回（４０％） 「その他」：　　（　％）
課題（レポート等） のフィードバック	・授業の3回に1度の小テストにより理解度をチェックし、理解不足について指摘し補う。 ・授業内容に関する質問については個別に質問を受け回答する。
事前・事後の学習 等の内容	予習：テキストや参考書の該当箇所を通読し、授業内容の概要を把握しておくこと。 復習：自主学習支援として学校向けClassroomに授業内容のまとめ問題を掲載しているので学んだ内容の理解を深めておくこと。
事前・事後の学習に必要 な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	社会人が持つ情報処理の基礎知識として修得し、今後の社会で活かせるように取り組むこと。
テキスト	『短大生のためのスマホ・タブレット・パソコンの基礎知識』　津田敏著　2019年
参考書	『スピードマスター　ITパスポート試験　テキスト＆問題集　五訂版』 著：ITパスポート試験教育研究会　2019年
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後及びGoogle Classroom

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
WORD演習Ⅰ (20920)	演習	2	1年次 前期	選択	情報処理士選択	野口　義栄

授業の到達目標	１．IT基礎・活用講座で習得する基礎技能を基に、より実践的な文章作成技法の習得をする。 ２．WORDを使い、「MCAS検定」等の資格合格に必要な実践的な能力を身につける。 ３．コミュニケーションとしての文書表現力の基本を身につける。
学位授与の方針 との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。
授業の概要	実社会ではコミュニケーション手段の一つとしてドキュメントの果たす役割は重要である。 あらゆるビジネスシーンに応じて、的確で分かり易いドキュメント作成技法の演習をする。

授業計画

回数	授業内容
1	文書表現の概観：　コミュニケーション手段としての役割、文書表現手法の概要
2	文書表現手法１：　情報をわかりやすく的確に伝えるための文書表現手法
3	文書表現手法２：　ビジネス文書表現手法
4	文書作成とカスタマイズ：　作成および各種設定の役割と機能。文書内容の検索
5	文章の設定：　文字と段落の書式設定、文字列の操作、改ページ機能操作
6	ビジュアルコンテンツ操作１：　図の挿入、テキストボックスの利用
7	ビジュアルコンテンツ操作２：　図の挿入、書式設定、各種オブジェクトの利用
8	文書の整理：　文章の構成。表やリストによる内容整理。差込機能
9	書の校閲：　文書間の比較、変更履歴の管理、コメントの取扱
10	文書の共有と保護：　共有の概念、操作。文書セキュリティの管理
11	課題演習１：　必須重点事項、操作演習
12	課題演習２：　ポイント、必須重点事項、操作演習
13	総合演習１：　わかりやすい文章表現の工夫１　PBL＜課題解決型学習＞
14	総合演習２：　わかりやすい文章表現の工夫２　PBL＜課題解決型学習＞
15	総合演習３：　まとめ演習

授業の評価	「試　験」：筆記試験、実技試験（６０％） 「平均点」：受講態度、小テスト（２０％） 「その他」：提出作品、課題レポート等（２０％）
課題（レポート等） のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。
事前・事後の学習 等の内容	・予習：毎回の演習に関係する内容を教科書等で確認しておくこと。 ・復習：未習熟な演習項目については、課外において習熟しておくこと。
事前・事後の学習に必要 な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	・課外においても継続的な練習が望ましい。
テキスト	『完全マスター　Word 2016』 noa出版
参考書	『Word 2016　パーフェクトマスター』　秀和システム
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
EXCEL演習Ⅰ (20930)	演習	2	1年次 後期	選択	情報処理士選択	野口　義栄

授業の到達目標	１．IT活用講座で習得した基礎技能を基に、より実践的な表計算技法の習得をする。 ２．EXCELを使い、「MCAS検定」等の資格合格に必要な実践的な能力を身につける。 ３．数値データの表現力の基本技能を身につける。
学位授与の方針 との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。
授業の概要	実数値情報を含む処理（データの視覚化・蓄積管理等）は実社会においても欠かせない手法である。 これらの基本概念を理解し、具体的操作方法を演習していく。

授業計画

回数	授業内容
1	表計算機能による情報処理概観：数値情報の基本的な取扱い手法、視覚化・蓄積の重要性
2	データの作成と基本操作：オート機能、データの信頼性、ワークシートの管理
3	データ内容の書式設定：シートの書式設定、セルの取扱、テーブルの書式設定
4	数式の作成と編集１：ページ書式、ヘッダー・フッター、ページ区切り
5	数式の作成と編集２：条件付き数式でのデータ集計
6	数式の作成と編集３：条件付き数式でのデータ検索、文字列操作
7	データの視覚化１：各種グラフを使ってのデータの視覚化処理
8	データの視覚化２：各種オブジェクトを使って総合的な視覚化処理
9	データの視覚化３：各種関数を使って総合的な視覚化処理
10	データ共有とセキュリティ：ブックの管理、保護、共有、配布の各種機能
11	課題演習１：必須重点事項、操作演習
12	課題演習２：ポイント、必須重点事項、操作演習
13	総合演習１：実社会における表計算処理１　PBL＜課題解決型学習＞
14	総合演習２：実社会における表計算処理２　PBL＜課題解決型学習＞
15	総合演習3：まとめ演習

授業の評価	「試　験」：筆記試験、実技試験（６０％） 「平均点」：受講態度、小テスト（２０％） 「その他」：提出作品、課題レポート等（２０％）
課題（レポート等） のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。
事前・事後の学習 等の内容	・予習：毎回の演習に関係する内容を教科書等で確認しておくこと。 ・復習：未習熟な演習項目については、課外において習熟しておくこと。
事前・事後の学習に必要 な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	・課外においても継続的な練習が望ましい。
テキスト	『完全マスター Excel 2016』 noa出版
参考書	『Excel　2016　パーフェクトマスター』　秀和システム
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
情報処理実習Ⅰ (20970)	実習	1	1年次 後期	選択	情報処理士選択	津田　敏

授業の到達目標	1.情報発信に必要な用語や作成方法について学び、違いを理解し、情報発信能力を獲得する。 2.情報セキュリティについて学び、必要性やそれに伴う知識を獲得する。
学位授与の方針 との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。
授業の概要	情報発信、セキュリティ、情報倫理の基礎を身につけ社会での情報発信の在り方について考える。

授業計画

回数	授業内容
1	SNSの種類や使用用語、使用方法の違い　発表
2	HP作成の準備から公開までの流れについて
3	ホームページ作成①index.htmlの作成
4	ホームページ作成②リンクと画像挿入
5	ホームページ作成③2ページ以降の作成とフレーム
6	ホームページ作成④テーブル
7	ホームページ作成⑤フォーム
8	ホームページ作成⑦FTP、スマホに対応　発表・評価
9	人気のブログを調べ、HPとブログの違いについてまとめる
10	ブログ作成①
11	ブログ作成②　発表
12	<PBL>情報セキュリティリスク実例を知る
13	<PBL>情報セキュリティの基礎
14	<PBL>情報セキュリティ対策方法
15	セキュリティ技術を学ぶ

授業の評価	「試　験」： 「平常点」：SNS発表10%、ホームページ作成60%、ブログ20%、まとめ10%　計(１００%) 「その他」：
課題（レポート等） のフィードバック	・SNSの使用用語等は多くあるのでまとめについてフォローする。 ・ホームページ作成におけるHTMLやブログ作成についての質問に個別に回答する。 ・情報セキュリティ対策の必要性を認識できるようにフォローする。
事前・事後の学習 等の内容	予習：SNS、ブログ、ホームページについての用語等を調べ見ておくこと。 復習：SNSについての運営・管理の自己責任について理解し対処すること。 　　情報セキュリティについて学ぶ前と後での重要さの捉え方の違いを認識し対処すること。
事前・事後の学習に必要 な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45分　）事後学習（　45分　）
履修上の注意	SNSやブログ、ホームページ作成、情報セキュリティについて、今後就職先で貢献するとの思いで 取り組むこと。
テキスト	『スラスラわかるHTML&CSSのきほん』狩野祐東著（SBクリエイティブ）2019年 『情報セキュリティ読本　五訂版』情報処理推進機構　2018年
参考書	『アメブロ Perfect GuideBook 改訂第3版』榎本元著（ソーテック社）2017年 改訂第4版『基礎からわかる情報リテラシー』奥村晴彦・森本尚之著（技術評論社）2020年
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
初級簿記A (21010)	演習	2	1年次 前期	選択	情報処理士選択	津田　敏

授業の到達目標	１．簿記の基礎・基本について理解する。 ２．企業の日々の取引を理解し、その仕訳を身につける。 ３．本講義の履修で、「日商簿記検定3級」受験の基礎力を身につける。
学位授与の方針 との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。
授業の概要	･簿記は、日常生活の家計簿から、企業の経理、そして国家予算まで幅広く用いられていることを学ぶ。 ･ビジネスの万国共通言語と言われる、簿記の基本的なルールを学ぶ。

授業計画	回数	授業内容
	1	簿記の基礎、仕訳用語について
	2	簿記の基礎、仕訳と転記について
	3	商品売買、用語説明、三分法と分記法、買掛・売掛、返品、クレジット等について
	4	現金・預金等について
	5	手形、債権・債務について
	6	有形固定資産について
	7	未収金・未払金、貸付金・借入金、前払金・前受金等について
	8	仕訳帳、総勘定元帳、現金出納帳、仕入帳・売上帳等について
	9	試算表について
	10	伝票と仕訳日計表について
	11	決算について
	12	決算手続きについて
	13	精算表の作成について
	14	売上原価、ICカード処理について
	15	総まとめ

授業の評価	「試　験」：（６０％） 「平常点」：小テスト（４０％） 「その他」：
課題（レポート等） のフィードバック	･授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。
事前・事後の学習 等の内容	･予習：テキストの該当箇所を通読しておく。 ･復習：新しい用語や仕訳等は、使えるようにしておく。
事前・事後の学習に必要 な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	・電卓を必ず持参。 ・会計特有の専門用語が出て来るので、意味を理解することに努める。
テキスト	『みんなが欲しかった簿記の教科書　第9版』：滝澤ななみ著　TAC出版
参考書	
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
初級簿記B (21011)	演習	2	1年次 後期	選択	情報処理士選択	津田　敏

授業の到達目標	1.仕訳の理解を深め、簿記一巡の流れを学ぶ。 2.「日商簿記検定３級」の基本問題を解く力をつける。
学位授与の方針 との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。
授業の概要	･初級簿記Aに連続するもので、簿記についてさらに理解を深める。

授業計画

回数	授業内容
1	商品売買について
2	現金について
3	普通預金・定期預金・当座預金等について
4	小口現金について
5	手形と電子記録債権について
6	貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金について
7	その他の債権債務について
8	その他の費用について
9	貸倒れと貸倒引当金
10	有形固定資産と減価償却について
11	株式の発行、余剰金の配当と処分について
12	法人税等と消費税について
13	費用・収益の前払い・前受けと未払い・未収について
14	帳簿への記入について
15	精算表と財務諸表について

授業の評価	「試　験」：（６０％） 「平常点」：小テスト（４０％） 「その他」：
課題（レポート等） のフィードバック	･授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。
事前・事後の学習 等の内容	･予習：次回の内容を読み、疑問点があれば書き出す。 ･復習：新しい勘定科目等の意味を理解するようにする。
事前・事後の学習に必要 な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	･電卓を必ず持参する。 ･会計の特殊な用語、勘定科目があるので、意味を理解するように心掛ける。
テキスト	『スッキリわかる日商簿記3級テキスト+問題集（第12版）』：滝澤ななみ著　TAC出版
参考書	
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
特別活動A (10120)	演習	1	1年次通年 2年次通年	必修	保育士資格選択	濱田　敏子 (実務家教員)

授業の到達目標	１．キリスト教的人生観、世界観、倫理観を理解して自己の人間形成に役立てる。 ２．愛と奉仕の精神を身につける。 ３．チャペルアワーやキリスト教関連行事の参加を通して建学の精神を理解する。
学位授与の方針との関連	・キリスト教精神に基づく倫理観や愛と奉仕の精神を身につけている。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、または、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。
授業の概要	チャペルアワーやキリスト教関連行事の参加を通じて、キリスト教関連行事の参加を通じて、キリスト教精神、建学の精神につての学びを深める。
授業計画	授業内容 〇チャペルアワーは讃美歌を歌い、聖書を読み、メッセージを聴き、お祈りをするという通常の礼拝形式で行う。 毎週のチャペルアワーに参加する。 チャペルアワーの中心は聖書に学ぶことに置かれている。講師から聖書の話をきき、讃美歌を歌い、祈りを通して、キリスト教の知識を深め、キリスト教の雰囲気にふれる機会とする。 具体的にはメッセージ（説教）を通じて聖書の言葉の意味を考え、平和や、人権問題、貧困などの現代の課題等についても考える機会を持てるようにする。 〇その他のキリスト教関連行事に参加する。 クリスマス点灯式・・・イエスキリストの降誕にあたり、その真の意味を学ぶ。 クリスマス礼拝・・・・イエスキリストの降誕を祝う。 卒業礼拝・・・・・・・本学における教育の締めくくりとして卒業式前日に行い、社会に出ていく卒業生への祝福と勧励の場として礼拝をおこなう。 卒業式・・・・・・・・卒業式に参加することを通じて、建学の精神について理解を深める。
授業の評価	「試　験」： 「平常点」：チャペルや宗教活動への取り組み状況。（５０％） 「その他」：感想文・報告書（毎回提出）（５０％）
課題（レポート等）のフィードバック	・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。
事前・事後の学習等の内容	・チャペルアワー開始まで讃美歌を練習したり、当日の聖書を読んで理解しておく。 ・神を讃美し、感謝と喜びの中でキリスト教行事に出席するよう配慮する。 ・チャペルを通して心に残った聖書箇所やメッセージについて記入する。 ・近くにある教会に行ってみる。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45分　）事後学習（　45分　）
履修上の注意	活動の参加にあたっては、私語を慎みおごそかな思いで臨むこと。
テキスト	新共同訳聖書（日本聖書協会） 讃美歌21（日本基督教団出版局）
参考書	
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】各活動の前後

科目名／カリキュラムN0.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
特別活動B (10210)	演習	1	1年次通年 2年次通年	必修	保育士資格選択	佐藤　栄悟

授業の到達目標	１．自治会活動を通して共同作業の意義を理解する。 ２．講演会やセミナーを通して、幼児教育に関する専門性を高め、また、多様な視点を身につける。
学位授与の方針との関連	社会人として必要な視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。
授業の概要	通常の教科学習だけでは獲得することのできない社会人としての素養を自治会活動や講演会等の様々な活動を通して培うことを目指す。
授業計画	授業内容
	・新入生歓迎会における学生相互の交流を深める活動
	・大学祭におけるグループごとの共同作業による準備、運営等の学生主体の活動
	・幼児教育研究センター主催の講演会を通して幼児教育についての学びを深めるための活動
	・各種セミナーを通して一般常識を身につけるための活動
授業の評価	「試　験」： 「平常点」： 「その他」：
課題（レポート等）のフィードバック	「試　験」：　（　　%） 「平常点」：活動への取り組み状況（５０%） 「その他」：活動報告書　（５０%）
事前・事後の学習等の内容	・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45分　）事後学習（　45分　）
履修上の注意	活動には積極的に取りくむこと。
テキスト	
参考書	
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】各活動の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
日本語表現Ⅱ (10311)	演習	1	2年次 後期	選択	幼免必修 保育士資格選択 情報処理士選択	谷本　章三 津田　敏

授業の到達目標	１．日本語表現を幅広く深く理解する。 ２．保育者、そして社会人としての人間力を身につける。 ３．自己表現する力を獲得する。 ４．論文作成や文献検索等に使用できるICT能力を身につける。
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を習得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。
授業の概要	１．学びを通してコミュニケーション能力やプレゼンテーション力を高める。 ２．関心を持つテーマを取り上げ、論文としてまとめる。

授業計画

回数	授業内容
1	講義計画等について説明
2	卒業論文作成についての説明
3	卒業論文の題材・骨子の作成（担当者からの助言）
4	ICTを使用した文献検索について
5	日本語表現の基礎①（講義と演習）
6	日本語表現の基礎②（講義と演習）
7	日本語表現の基礎③（講義と演習）
8	論文作成の形式についての説明
9	卒業論文の原稿作成①（担当者からの助言）
10	卒業論文の原稿作成②（担当者からの助言）
11	卒業論文の原稿作成③（担当者からの助言）
12	卒業論文の仕上げ（最終点検）
13	卒業論文のまとめ（卒業論文報告会の準備）
14	ディベート形式による卒業論文報告会①
15	ディベート形式による卒業論文報告会②

授業の評価	「試　験」：卒業論文の提出（６０％） 「平常点」：授業態度（２０％） 「その他」：提出物（２０％）
課題（レポート等）のフィードバック	・卒業論文の原稿を添削し返却、そして、修正後に再提出する。 ・授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。
事前・事後の学習等の内容	予習：論文作成にあたり、取り上げるテーマの資料の収集を行う。 復習：授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45分　）　事後学習（　45分　）
履修上の注意	本科目は卒業論文の作成を最終目的の一つとしているので、自主的、自発的に取り組むこと。
テキスト	『大学生のための日本語表現トレーニング』　安部朋世/福嶋健伸/橋本修（編著）三省堂
参考書	随時、必要に応じて紹介する。
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】随時

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
社会人基礎講座 (10240)	演習	2	2年次 前期	選択	保育士資格選択	正中　千穂

授業の到達目標	１．社会人と学生の違いを理解する。 ２．基本的な大人としてのマナーを知る。 ３．基本的なマナーを実践する。
学位授与の方針との関連	社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。
授業の概要	社会人としての礼法、（挨拶、言葉遣い、来客対応など）と伝統文化を演習形式で伝える。

授業計画

回数	授業内容
1	社会人と学生の違い
2	日本語について学ぶ（特に敬語の使い方）
3	伝統文化　1　　和菓子を通して季節感を知る
4	はがき、手紙、メールのマナーを知る。
5	伝統文化　2　いけばなの基本を知る
6	あいさつの仕方を実践する(プレゼンテーション)
7	伝統文化　3　　浴衣の着付けを実践する
8	生活のマナー
9	コミュニケーションの基本
10	伝統文化　4　　茶道の基本を実習する　　利休居士七ケ条
11	スピーチの基本（人前での話し方）（プレゼンテーション）
12	伝統文化　5　　煎茶をおいしく入れる
13	席次のマナー
14	ビジネスマナーの基本　紹介・案内(プレゼンテーション)
15	食事作法を学ぶ

授業の評価	「試　験」：実技試験、筆記試験（５０％） 「平常点」：小テスト、レポート（５０％） 「その他」：　　（　　％）
課題（レポート等）のフィードバック	レポートはコメントを付して返却する。
事前・事後の学習等の内容	予習：事前にテーマに関する内容について調べておくこと。 復習：授業内容を振り返るとともに、レポートに書かれたコメントをみて理解を深めること。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）　事後学習（　135分　）
履修上の注意	演習で習ったことを日常の生活に取り入れて実践すること。
テキスト	テキストは使用しない。
参考書	
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
キャリアデザインⅡ（保育） （10511-1）	講義	2	2年次 前期	選択	保育士資格選択	谷本　章三

授業の到達目標	１．将来の生き方や働き方について考え、自分自身で進路選択できる力を身につける。 ２．キャリア形成のための意欲、関心、態度、能力を獲得する。 ３．保育についての理解を深め、保育者としての豊かな資質能力を醸成する。
学位授与の方針 との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・ 解決能力を身につけている。
授業の概要	一人ひとりが自分の生き方や働き方について考え、身につけた自身のキャリア能力で進路選択ができる力を育成し、より良い保育者としての自立を促す。

授業計画	回数	授業内容
	1	オリエンテーション「キャリアデザインの意味と意義の理解と講義計画等を知る」
	2	社会人として生きる意味について
	3	保育の現状と課題
	4	雇用情勢と経済
	5	自分を知る「自己認知と適性」
	6	実習に際して「心構えと礼状等の書き方」
	7	就職活動①「自己ＰＲシートを書こう」
	8	就職活動②「履歴書を書こう①」
	9	就職活動③「履歴書を書こう②」
	10	就職活動④「面接練習」　：グループワーク
	11	就職活動⑤「電話対応について」　：グループワーク
	12	就職活動⑥「求人票の見方、園選びについて、見学依頼の仕方」
	13	知っておこう！働くときのルールと権利
	14	学習の振り返りと「まとめ」振り返りカードを使って
	15	就職内定までの道のり再確認

授業の評価	「試　験」：筆記試験（５０％） 「平常点」：授業態度、意欲など（２０％） 「その他」：講義ノート、提出物（３０％）
課題（レポート等） のフィードバック	毎回の講義時のレポート等の提出物を講義者がコメントを付して次回に返却するので講義ノートや資料とともに授業内容をまとめ振り返りをする。
事前・事後の学習 等の内容	予習：配布した資料や講義ノートを通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 復習：返却したレポート等に再度目を通し、理解を深めること。
事前・事後の学習に必要 な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）　事後学習（　135分　）
履修上の注意	講義中は私語を慎み、講義ノートにメモを取り学習に励むこと。授業中の許可のないスマホ使用は厳禁。
テキスト	使用しない。講義ごとに資料を配布する。
参考書	『実践キャリア考』（実教出版）
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】随時

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
キャリアデザインⅡ（ライフ） （10511-2）	講義	2	2年次 前期	選択	情報処理士選択	谷本　章三

授業の到達目標	１．将来の生き方や働き方について考え、自分自身で進路選択できる力を身につける。 ２．キャリア形成のための意欲、関心、態度、能力を獲得する。 ３．ライフキャリアからワークキャリアへの見通しが持てる力を育む。
学位授与の方針 との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を習得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・ 解決能力を身につけている。
授業の概要	一人ひとりが自分の生き方や働き方について考え、身につけた自身のキャリ能力で進路選択ができる力を育成する。

授業計画

回数	授業内容
1	オリエンテーション「キャリアデザインの意味と意義の理解と講義計画等を知る」
2	社会人として生きるために①「働く意味」
3	社会人として生きるために②「自己理解」
4	社会人として生きるために③「進路理解」
5	雇用情勢と経済
6	就職活動①「エントリーシートを書こう」
7	就活活動②「履歴書を書こう①」
8	就職活動③「履歴書を書こう②」
9	就職活動④「面接練習」　：グループワーク
10	就職活動⑤「ハローワークの活用方法」
11	就職活動⑥「自己適性と職種の決定」
12	社会人として活躍するために①「接遇・マナー等」
13	社会人として活躍するために②「電話のかけ方・マナー等」　：グループワーク
14	社会人になるあなたに「環境の変化への対応について」
15	学習の振り返りとまとめ

授業の評価	「試　験」：筆記試験（５０％） 「平常点」：授業態度、意欲など（２０％） 「その他」：講義ノート、提出物（３０％）
課題（レポート等） のフィードバック	毎回の講義時のレポート等の提出物を講義者がコメントを付して次回に返却するので講義ノートや資料とともに授業内容をまとめ振り返りをする。
事前・事後の学習 等の内容	予習：配布した資料や講義ノートを通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 復習：返却したレポート等に再度目を通し、理解を深めること。
事前・事後の学習に必要 な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	講義中は私語を慎み、講義ノートにメモを取り学習に励むこと。授業中の許可のないスマホ使用は厳禁。
テキスト	使用しない。講義ごとに資料を配布する。
参考書	実践キャリア考（実教出版）
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】随時

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
インターンシップⅠ (10520)	実習	2	2年次 前期	選択	情報処理士必修	谷本　章三

授業の到達目標	1．自己分析と働く意義を理解する。 2．就業体験を通じて職業能力と自己の現在の能力について理解する。 3．就職体験から学び得たことをまとめ分析ができる能力を身につける。
学位授与の方針 との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・ 解決能力を身につけている。
授業の概要	インターンシップの目的や意義、課題を理解認識し、就業体験に臨み、現在の自己能力について 考え、今後の学び方について考える。

授業計画	回数	授業内容
	1	インターンシップを考える①就きたい仕事の具体化と働く意義
	2	インターンシップを考える②インターンシップの目的と課題
	3	インターンシップを考える③インターンシップ先の企業研究
	4	インターンシップの実践　臨地就業体験
	5	〃
	6	〃
	7	〃
	8	〃
	9	〃
	10	〃
	11	〃
	12	〃
	13	〃
	14	〃
	15	インターンシップ体験発表　体験発表と今後についての意見交換

授業の評価	「試　験」：　（　　%） 「平常点」：　（　　%） 「その他」：　授業意見発表30点、インターンシップ先評価70点　計100点　（　　%）
課題（レポート等） のフィードバック	各テーマについての考えがまとまるようにアドバイスをする。
事前・事後の学習 等の内容	予習：各テーマの内容について考え授業に臨むこと。 復習：授業で考えまとめたことの修正、不足を補いながら再度考えること。
事前・事後の学習に必要 な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	社会人に求められる能力にコミュニケーション能力や課題発見・解決能力がある。 問題や気づいたことについて考え調べ分析解決が出来る力が身につくように授業に臨むこと。
テキスト	指定なし
参考書	『インターンシップ』　マイナビ　2020年度版
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
インターンシップⅡ （10521）	実習	2	2年次 後期	選択	情報処理士選択	谷本　章三

授業の到達目標	1．自己分析と働く意義を理解する。 2．就業体験を通じて職業能力と自己の現在の能力について理解する。 3．就職体験から学び得たことをまとめ分析ができる能力を身につける。
学位授与の方針 との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・ 解決能力を身につけている。
授業の概要	インターンシップの目的や意義、課題を理解認識し、就業体験に臨み、現在の自己能力につい て考え、今後の学び方について考える。

授業計画	回数	授業内容
	1	インターンシップを考える①就きたい仕事の具体化と働く意義
	2	インターンシップを考える②インターンシップの目的と課題
	3	インターンシップを考える③インターンシップ先の企業研究
	4	インターンシップの実践　臨地就業体験
	5	〃
	6	〃
	7	〃
	8	〃
	9	〃
	10	〃
	11	〃
	12	〃
	13	〃
	14	〃
	15	インターンシップ体験発表　体験発表と今後についての意見交換

授業の評価	「試　験」： 「平均点」： 「その他」：授業意見発表30点、インターンシップ先評価70点　計100点
課題（レポート等） のフィードバック	各テーマについての考えがまとまるようにアドバイスをする。
事前・事後の学習 等の内容	予習：各テーマの内容について考え授業に臨むこと。 復習：授業で考えまとめたことの修正、不足を補いながら再度考えること。
事前・事後の学習に必 要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	社会人に求められる能力にコミュニケーション能力や課題発見・解決能力がある。 問題や気づいたことについて考え調べ分析解決が出来る力が身につくように授業に臨むこと。
テキスト	指定なし
参考書	『インターンシップ』　マイナビ　2020年度版
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
生活経済 (10230)	講義	2	2年次 前期	選択	情報処理士選択	津田　敏

授業の到達目標	1.社会人としての経済観念を身につける。 2.正規・非正規雇用の違い、基本的な税について理解する。 3.家庭生活で必要な費用・経費、自動車・住宅ローン購入について理解し表計算ソフトで算出ができるようにする。
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。
授業の概要	労働者の所得や税、生活費等についての理解を深め、社会人としての生活の在り方を考える。

授業計画

回数	授業内容
1	初任給はどれくらいか（学歴差・性差・地域差・職歴差等から考える）
2	生活最低必要経費はどれくらい必要か
3	贅沢品等どれくらい使うか
4	自動車の購入費用や維持費はどのくらい掛かるか
5	住宅の購入（ローン購入）はどのくらい掛かるか
6	税金にはどのような種類があるか
7	年間に納める税金はどのくらいか
8	子育てに掛かる費用（出産から卒業まで）はどのくらいか
9	定年後の生活費はどれくらいか
10	正規雇用と不正規雇用の違いは
11	正規雇用と不正規雇用の所得差はどれくらいか
12	家計簿をつけるのはなぜか、必要か
13	家計簿を作る①
14	家計簿を作る②
15	家計簿の発表、評価

授業の評価	「試　験」：レポート　（５５％） 「平均点」：1テーマごとにまとめと感想文を書く。3×15（４５％） 「その他」：
課題（レポート等）のフィードバック	・感想文についてはコメントを付して返却する。
事前・事後の学習等の内容	事前：・自主学習支援としてGoogle Classroomに授業で使用する資料等を掲載するので学ぶ（学んだ）内容の理解を深める。 ・日頃から金銭感覚を持った生活を心掛けること。 事後：・授業でまとめたものを見返し、今後の生活に生かせる工夫をする。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	社会人に求められる能力に経済観念がある。経済観念を持った考えや行動が身につくように臨むこと。
テキスト	指定なし
参考書	『くらしとお金のワークブック』日本FP協会
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後及びGoogle Classroom

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
ボランティア活動 (10250)	実習	1	1年次通期 2年次通期	選択	保育士資格選択	谷本　章三 山本　郁子

授業の到達目標	１．自己の人間性や専門性を見つめ、人のために何ができるかの気づき実践できる力を高める。 ２．「感じ」「考え」「行動できる」力を豊かに育み、与えるものより与えられるものの大きさを感じられるようになる。 ３．ボランティア活動を通して、人として社会人として自己の人生を豊かなものにしていく。
学位授与の方針との関連	・キリスト教精神に基づく倫理観や愛と奉仕の精神を身につけている。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、または、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。
授業の概要	自発的な意思により、人や社会と関わることを通して自己の再発見や自己実現の中で社会貢献をしていく。

授業計画

回数	授業内容
1	オリエンテーション「ボランティアの基本原理と年間計画等について」（講義）
2	基本原理・自主性・主体性に基づく活動
3	・社会性、連帯性のある活動
4	・無償性、無給性に基づく活動
5	・創造性・開拓性・先駆性のある活動
6	自己のボランティア活動スタイルの確認（何時・何処で・どれくらいの頻度で参加できるか）
7	・自己の特技や能力の活用
8	・何処（場所）に参加したいか
9	ボランティア活動の心構えと自己評価
10	・守秘義務の確認　　・自己の行動、言動には責任を持つ
11	・ＰＤＣＡサイクルの実践を心掛ける　　・相手や仲間の立場、考え方を尊重する
12	・一人で抱え込むのでなく、みんなで仕事を分担する
13	・常に自分の行動を振り返りながら、生き生きと楽しんで活動する
14	レポート提出（活動記録用紙、確認表をもとに）※所定の用紙に事業所から確認印をもらう
15	まとめ（所定の用紙に活動の振り返りを記入し、担当者に提出する）

授業の評価	「平常点」： ボランティア活動の活動時間、意欲、態度等　（７０％） 「その他」：提出物　（３０％）
課題（レポート等）のフィードバック	各自が実施したボランティアの内容の活動記録用紙を担当者がチェックの上、アドバイスを行うので、それをもとに常に自己評価し、次の活動に生かすこと。
事前・事後の学習等の内容	予習：ボランティア活動先の業務内容を事前に把握し、活動内容や活動場所を確認しておく。 　　また、実習先から喜んでもらえるようにするには何をすべきか常に考えておく。 復習：自分の実習先での行動を振り返り、反省点を次回に生かす。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45 分　）事後学習（　45 分　）
履修上の注意	原則、各自がボランティア活動場所を開拓し自ら参加し活動を行うこと。担当者から活動場所を紹介することもある。実習時間は、合計４０時間以上で単位認定を行う。（単位認定は、卒業年度の後期に行う）２年間（長期履修者は３年間）の在学中に活動参加をすること。
テキスト	講義ごとに資料を配布する。
参考書	自治体等の発行するボランティア通信等
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】随時

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
教育原理 (20230)	講義	2	2年次 後期	選択	幼免必修 保育士資格必修	中重　直俊 (実務家教員)

授業の到達目標	１．現代社会における教育の意義、課題について理解する。 ２．教育の歴史の変遷を理解し、現在の教育の目的と責任について学ぶ。 ３．現代のわが国における教育システムを知り、それらの課題について考える。
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。
授業の概要	教育とは何か、人間形成になぜ教育が必要となるのかの根本的な理解のもとに、教育の意義、教育の目的、教育の思想と歴史、教育の制度、教育実践のさまざまのあり方などについて考える。

授業計画

回数	授業内容
1	教育の意義
2	教育の目的
3	教育と児童福祉の関連性
4	人間形成と家庭・地域社会
5	諸外国の教育思想
6	諸外国の教育の歴史
7	日本の教育思想・歴史
8	子ども観と教育観
9	教育制度の基本
10	教育の法律と行政
11	諸外国の教育制度
12	教育実践の基礎
13	さまざまな教育実践
14	生涯学習と教育
15	現代の教育課題

授業の評価	「試　験」：筆記試験　（５０％） 「平常点」：出席状況、授業態度　（４０％） 「その他」：課題　（１０％）
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。
事前・事後の学習等の内容	予習：テキストの該当箇所を通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 復習：テキストや配布プリントから、授業内容についての理解を深めておくこと。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	テキストを必ず購入し持参すること。課題の提出期限は必ず守ること 授業を欠席した場合は、翌日に配布プリントを取りに来ること
テキスト	『教育原理』　矢藤誠慈朗　編　中央法規出版
参考書	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】水曜の昼休み　中重研究室

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育内容演習「表現Ⅱ」 (20606)	演習	1	2年次 後期	選択	幼免必修 保育士資格必修	楯　佳子

授業の到達目標	①教育現場での表現教育の目的と意義を理解する。 ②乳幼児の表現を引き出す技術を獲得する。 ③乳幼児の表現教育の指導法考案の手順を身につける。
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。
授業の概要	表現Ⅰで獲得した知識を基に、幼児の表現を引き出す技術を身につけるために自らで体験を重ねる。 それらの活動を通して、 ①乳幼児の表現を引き出す方法を学ぶ。 ②自らの感性を養う。 ③乳幼児の活動の予測や対応、助言のあり方指導上の留意点を考察する。

授業計画

回数	授業内容
1	表現とはなんだろう
2	生活の中での表現活動（1）
3	生活の中での表現活動（2）
4	生活を活かした行事の中での表現活動（1）
5	生活を活かした行事の中での表現活動（2）
6	創造力を育てる表現遊び
7	社会性を育てる表現遊び
8	感覚や気づきを育てる表現遊び
9	身体を育てる表現遊び
10	教育要領・保育指針『表現』内容の扱い
11	教育要領・保育指針『表現』内容の扱い
12	心を育てる表現遊び
13	表現活動実践（1）
14	表現活動実践（2）
15	発達の道すじと表現・本授業のまとめ

授業の評価	「試　験」：筆記試験またはレポート試験（４０％） 「平常点」：授業への取り組み方(意欲・関心・態度)、グループワーク、発表など　（４０％） 「その他」：提出物(感想、小レポート、ノート・ファイルなど)（２０％）
課題（レポート等）のフィードバック	・実技発表、レポート、提出物など課題は、個別または全体にコメントを付する。 ・授業内容に関する質問については、 個別または全体に回答する。
事前・事後の学習等の内容	予習：該当箇所の通読、準備。 復習：授業内容の見直し。学びをどう実践に生かしていくかを考えよう。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45分　）事後学習（　45分　）
履修上の注意	・体を動かしやすい服装、運動靴で参加する。 ・ノート、ファイル(配付プリント用)を持参すること。ノート・ファイルは提出することがある。 ・授業は、学生の興味・関心、進度に応じて、授業計画の各単元を行き来しながら総合的に進める。
テキスト	適宜配布する。
参考書	適宜紹介する。
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育実践演習 (20630)	演習	2	2年次 後期	選択	幼免必修 保育士資格必修	金谷　公子

授業の到達目標	１．保育者の役割と子どもの見方、捉え方について理解する。 ２．子どもの発達や心身の状況に応じて、適切な指導ができる知識を身につける。 ３．保育内容の知識や技能等を獲得する。
学位授与の方針 との関連	・保育に関する専門的知識・技術を修得している。 ・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。
授業の概要	変化する社会の中で、求められる保育者としての理解を深め、子どもや保護者に対する援助の 技術方法等についての実践力を学ぶ。

授業計画

回数	授業内容
1	保育実践演習ににについての概要と目標を理解し、毎回の学習内容と学習方法を確認する。
2	保育者とは、専門職としての保育者の仕事とは、保育者の役割、子どもに対する責務に ついて理解する。
3	保育を巡る社会的状況について理解する。
4	保育者の専門性、保育実践力を構成する要素について考える。
5	保育における環境の意義と物的環境について理解し環境の構成について考える。
6	子どもの遊びの意義と重要性を理解し事例を通して考える。
7	発達段階に応じた教材研究・作成をする。（ペープサート制作・教材作り）
8	発達段階に応じた教材研究・作成をする。（ペープサート制作・教材作り）
9	子どもの反応を見ながら作成した教材を使用し保育を展開する。（ペープサートの発表）
10	子どもの反応を見ながら作成した教材を使用し保育を展開する。（ペープサートの発表）
11	保育実践を想定して保育環境の構成・遊びの展開について考える。 （グループワーク・発表）
12	教育・保育目標を達成する」ためのＰＤＣＡサイクルの循環について理解する。
13	特別に支援が必要な子どもについて個々の子どもの特性や状況に応じた対応の方法 を理解する。
14	特別に支援が必要な子どもへの対応について事例を通して考える。 （グループワーク・発表）
15	授業の振り返りと理解度を再確認し、保育に関する新たな課題に関心を持ち自分なり に理解する。

授業の評価	「試　験」：課題レポート提出　（３０％） 「平常点」：授業態度・授業内レポート提出（３０％） 「その他」：実技（ペープサート制作）・発表　（４０％）
課題（レポート等） のフィードバック	・授業内レポートなどの提出はコメントを付して返却する。返却後要点の解説を行い知識の 定着を図る。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。 ・グループの討議については、発表の授業を実施します。 ・主体的かつ意欲的に授業に参加することを期待します。
事前・事後の学習 等の内容	予習：プリント、ノートををよく通読し授業内容の概要を把握しておくこと。 毎時間、次回授業の主要な内容について予習を課す。 復習：配布プリントを通読し、授業内容について理解を深めておくこと。 授業後に復習を求め。その際レポートを課すことがある。
事前・事後の学習に必 要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
	・課題については、定められた期間で取り組み提出すること。 ・ペープサート制作については、事前に内容、教材等を研究をし、材料を準備しておくこと。 ・毎回授業内で配布するプリント、資料などについては活用することがあるため毎回持参すること。
テキスト	・プリント・資料などを配布
参考書	『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』『認定こども園教育・保育要領解説』 保育・教職実践演習（第２版）『保者に求められる保育実践力』小原敏郎・神藏幸子・義永睦子 編著　建帛社
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】 ・授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
器楽ⅡA (20712)	演習	1	2年次 前期	選択	幼免必修	池田京子ほか 備考欄参照

授業の到達目標	１．やや複雑なリズムや音階を含んだ楽曲をスムーズに演奏できる。 ２．へ音譜表に難なく対応できる。 ３．少し速いテンポのリズムや付点のリズムを演奏できる。
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。
授業の概要	・進度別グレード課題などで、やや複雑なリズムや音階を扱い、ピアノ演奏基礎技術を習得する。 ・こどものうたやリズム表現等の楽曲による演習を重ね、読譜力や表現力の向上を目指す。 ・原則として、毎回、進度別の楽曲と、こどものための楽曲など、２種類以上の課題を実践、実習する。 ・適宜、よりよい演奏をするための意見交換を実施し、演奏技術向上を目指す。（ＴＰＳ、ピアティーチングなど） ・必要に応じて、音や映像による教材を用いた反転授業を行う。

授業計画

回数	授業内容	
1	進度別課題の実習「ブルグミュラー」他（TPS等含む）	5月頃～7月頃のうた、又は付点のリズムの楽曲、他
2	〃	〃
3	〃	〃
4	〃	〃
5	〃	少し速いテンポのリズム表現実習:かけあし
6	〃	〃
7	〃	保育・教育実習に役立つ課題
8	〃	〃
9	〃	讃美歌の演奏
10	〃	リズム表現実習：任意の楽曲
11	〃	〃
12	〃	こどものうたの実習:任意の楽曲
13	〃	〃
14	〃	〃
15	実技演習のまとめ、実技試験のための練習	

授業の評価	「試　験」：　実技試験　（８０％） 「平常点」：　課題への取り組み、ピアノ演奏のマナー、授業態度　（２０％） 「その他」：
課題（レポート等）のフィードバック	毎回の課題について、到達度を個別にチェックしてコメントする。
事前・事後の学習等の内容	予習：毎回、各自の進度に応じて与えられた課題を練習し、到達度を上げること。 復習：授業で学んだ課題について、指摘されたことなどを復習・練習すること。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45 分　）事後学習（　45 分　）
履修上の注意	・ピアノ演奏のマナーとして、爪は短く切ること。ネイルやマニュキア、指輪、ブレスレット等、アクセサリー類の使用は認めない。 ・教科書の楽譜を毎回必ず持参すること。 ・授業内の練習時間を演奏技術向上のために有効に活用すること。 ・譜読みやピアノの練習によく励んだうえで、授業に臨むこと。 ・個々の履修科目などの都合により、担当クラス編成を調整する場合がある。
テキスト	・バイエルピアノ教則本、ブルグミュラー２５の練習曲、ソナチネアルバムⅠ・Ⅱ、その他 ・『こどものうた１００』　小林美実監修　井戸和秀編　チャイルド本社 ・『保育のためのマーチ･スキップ･ギャロップ･ワルツ･リズム曲集』　茂田すすむ編著、全音楽譜出版社 ・讃美歌、その他、適宜、プリントを配布する。
備　考	池田京子・宇治田仁美・髙礒八千代・福田真梨奈・藤井直子
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後やＳＮＳにて対応する。

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
器楽ⅡB (20713)	演習	1	2年次 後期	選択	幼免必修	池田京子ほか 備考欄参照

授業の到達目標	１．ソナタ形式の楽曲など、広い音域や素早い動きにも対応したが演奏できる。 ２．こどものための楽曲を弱拍にも音が加わった楽譜通りの伴奏で、演奏できる。 ３．強弱等、楽譜の指示記号を意識した演奏ができる。
学位授与の方針 との関連	保育に関する専門的知識・技術を習得している。
授業の概要	・ピアノ演奏技術を進度別グレード課題の楽曲演奏により学習する。 ・こどものうたやリズム表現等の演習を重ね、教育・保育現場での実践を目指してレパートリーを増やす。 ・原則として、毎回、進度別の楽曲と、こどものための楽曲など、２種類以上の課題を実践、実習する。 ・適宜、よりよい演奏をするための意見交換を実施し、演奏技術向上を目指す。 （ＴＰＳ、ピアティーチングなど） ・必要に応じて、音や映像による教材を用いた反転授業を行う。

授業計画	回数	授業内容	
	1	進度別課題の実習「ソナチネ」他　(TPS等含む)	保育・教育実習に役立つ課題
	2	〃	〃
	3	〃	〃
	4	〃	リズム表現の実習：スキップ
	5	〃	〃
	6	〃	リズム表現の実習：任意の楽曲
	7	〃	〃
	8	〃	讃美歌の演奏
	9	〃	〃
	10	〃	こどものうたの実習：任意の楽曲
	11	〃	〃
	12	〃	〃
	13	〃	〃
	14	〃	〃
	15	実技演習のまとめ、実技試験のための練習	

授業の評価	「試　験」：　実技試験　（８０％） 「平常点」：　課題への取り組み、ピアノ演奏のマナー、授業態度　（２０％） 「その他」：
課題（レポート等） のフィードバック	毎回の課題について、到達度を個別にチェックしてコメントする。
事前・事後の学習 等の内容	予習：毎回、各自の進度に応じて与えられた課題を練習し、到達度を上げること。 復習：授業で学んだ課題について、指摘されたことなどを復習・練習すること。
事前・事後の学習に必要 な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45 分　）事後学習（　45 分　）
履修上の注意	・ピアノ演奏のマナーとして、爪は短く切ること。ネイルやマニュキア、指輪、ブレスレット等、アクセサリー類の使用は認めない。 ・教科書の楽譜を毎回必ず持参すること。 ・授業内の練習時間を演奏技術向上のために有効に活用すること。 ・譜読みやピアノの練習によく励んだうえで、授業に臨むこと。
テキスト	・ブルグミュラー２５の練習曲、ソナチネアルバムⅠ・Ⅱ、その他 ・『こどものうた１００』　小林美実監修　井戸和秀編　チャイルド本社 ・『保育のためのマーチ･スキップ･ギャロップ･ワルツ･リズム曲集』　茂田すすむ編著、全音楽譜出版社 ・讃美歌、その他、適宜、プリントを配布する。
備　考	池田京子・宇治田仁美・髙礒八千代・福田真梨奈・藤井直子
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後やＳＮＳにて対応する。

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育者論 (20110)	講義	2	2年次 前期	選択	幼免必修 保育士資格必修	岩谷　恵利子 (実務家教員)

授業の到達目標	1．人的環境として、保育者の子どもに与える影響は極めて大きく、その責任の重要さを認識するとともに知識や技術を身につける。 2．保育者へ目指すことの意味を明確にしていき、 保育者の役割や倫理について理解を深める。 3．子どもへのかかわりや保護者支援に関する協働などについて幅広く理解する。
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。
授業の概要	保育士の制度的な位置づけや、 保育の役割と倫理について理解し、 保育の具体的な実践から保育の協働性について考え、保育者の専門的成長について理解していく。

授業計画

回数	授業内容
1	オリエンテーション・保育者になるということ
2	保育職とは
3	現代の保育にまつわる問題
4	保育者の役割　(グループワーク)
5	一日の流れと保育者のまなざし　(グループワーク)
6	保育の計画
7	保育における省察・記録・評価
8	子どもの遊びと育ち
9	保育者の専門性
10	行事の意義と役割
11	関連機関や地域との連携
12	保護者・家庭との連携
13	「失敗」から学んでいく　(グループワーク)
14	保育者のライフデザインを考える　(グループワーク)
15	保育者に期待されるもの　・まとめ

授業の評価	「試　験」：筆記試験　(５０ %) 「平常点」：授業態度、小テスト　(３０ %) 「その他」：レポート等提出物　(２０ %)
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、 個別または全体に回答する。
事前・事後の学習等の内容	予習：テキストの該当場所に目を通しておき、概要を把握しておく。 復習：テキストや配布プリントから、授業内容についての理解を深めておく。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	・授業態度と学習意欲を評価する。 ・提出物は提出期日を守ること。 ・必ずテキストを持参する。
テキスト	『シリーズ知のゆりかご 保育者論』小川圭子 編　みらい
参考書	『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』　内閣府　文部科学省　厚生労働省　フレーベル館 『保育所保育指針解説』　厚生労働省　フレーベル館
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
教育課程論 (20620)	講義	2	2年次 前期	選択	幼免必修	田口　啓子

授業の到達目標	1.幼稚園における教育課程編成の意義・目的・機能を理解する。 2.教育課程編成の基本原理や編成方法を理解する。 3.カリキュラム・マネジメントの意義を理解する
学位授与の方針 との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。
授業の概要	教育課程、指導計画の意義や編成の方法、それに関わるカリキュラム・マネジメントの基本的な事項について学ぶ。

授業計画

回数	授業内容
1	幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領
2	教育課程の意義
3	幼稚園教育要領の変遷（グループワーク）
4	教育課程の役割・機能
5	教育課程編成の基本原理
6	教育課程編成の観点と思想
7	教育課程編成の背景（グループワーク）
8	教育課程・指導計画の編成と展開（1）長期（グループワーク）
9	教育課程・指導計画の編成と展開（2）短期（グループワーク）
10	教育課程・指導計画の編成と展開（3）小学校への円滑な接続
11	教育課程に関する法律
12	教育課程の類型
13	教育課程の評価及び省察
14	教育課程の改善（グループワーク）
15	まとめ（グループワーク）

授業の評価	「試　験」：　（　８０　%） 「平常点」：授業への取り組み　（　２０　%） 「その他」：　（　　%）
課題（レポート等） のフィードバック	・レポート等の課題は、期限までに提出のこと。返却時にコメントを付す。 ・授業内容に関する質問への回答は、基本的に講義時間内で回答する。
事前・事後の学習 等の内容	予習：テキストや配布プリント等の該当箇所を通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 毎時間、次回授業の主要な内容について予習を課す。 復習：テキスト、配布プリント等を通読し、各回の授業内容について理解を深めておくこと。
事前・事後の学習に必要 な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135　分）
履修上の注意	・私語やスマホ等の利用は、禁止します。 ・授業内容に関する疑問、質問を積極的にすること。 ・授業は、その内容を踏まえ事前にテキストを通読しておくこと。
テキスト	『幼稚園教育要領』（平成30年3月　文部科学省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成30年3月 内閣府・文部科学省）
参考書	授業の中で適宜紹介します。
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育内容総論 (20610)	演習	2	2年次 前期	選択	幼免必修 保育士資格必修	岩谷　恵利子 (実務家教員)

授業の到達目標	1．保育の全体的な構造と5領域について総合的に学ぶとともに、実際の保育においては領域の枠を超えて展開されることを理解する。 2．子育て支援と保育内容、子どもの発達過程を踏まえて理解し、様々な保育についても学び、修得する。 3．保育現場の状況をイメージするために事例を取り入れながら、保育内容がどの様な仕組みで子ども達を支えているかを理解する。
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。
授業の概要	・乳幼児期の子どもは遊びの中で学び育っていく。どのような経験が大切かを考え、その経験から総合的に何を学んでいくかを知る。 ・アクティブ・ラーニング形式で授業を行う。

授業計画

回数	授業内容
1	保育の基本及び保育内容の理解
2	保育の全体構造と保育内容
3	保育内容の歴史的変遷とその社会的背景
4	子どもの発達や生活に即した保育内容１　　グループワーク
5	子どもの発達や生活に即した保育内容２　　グループワーク
6	保育における観察と記録　　グループワーク
7	養護及び教育が一体的に展開する保育
8	環境を通して行う保育
9	生活や遊びによる総合的な保育
10	個と集団の発達を踏まえた保育
11	生活や発達の連続性に考慮した保育
12	家庭・地域との連携を踏まえた保育
13	小学校との連携を踏まえた保育
14	保育の多様な展開
15	保育内容における課題　まとめ

授業の評価	「試　験」：　筆記試験　（５０　%） 「平常点」：　授業態度、課題への取り組み　（４０　%） 「その他」：　提出物　（１０　%）
課題（レポート等）のフィードバック	授業内容の質問については、個別又は全員に回答する。
事前・事後の学習等の内容	予習：次回の授業箇所を通読し概要を把握しておく。 復習：レポートを課すことがあるので、テキストを通読し授業内容の理解を深めておく。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	シラバスの内容は授業進行状況と合わせるため変更することがある。 必ずテキストを持参する。また、配布プリントは整理してファイリングすること。提出することがある。グループの話し合いや活動に積極的に参加すること。
テキスト	『マンガとアクティブ・ラーニングで学ぶ 保育内容総論』　開仁志　編著　　教育情報出版
参考書	『幼稚園教育要領解説』　　文部科学省　　フレーベル館 『保育所保育指針解説書』　厚生労働省　　フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府 文部科学省 厚生労働省 フレーベル館
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育方法論 (20640)	講義	2	2年次 後期	選択	幼免必修	濱田　敏子 (実務家教員)

授業の到達目標	１．多様化した現代社会の中で生き抜くことのできる子どもを育む保育者になるための準備として、 １年次の前期から学んだ講義や実習を振り返り、自分が興味をもった領域の保育方法を考察する。 ２．実習での体験から、保育の分析を行い、保育者としての援助、指導のあり方を考察し導きだす ことができる。
学位授与の方針 との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。
授業の概要	理論と実践のつながりを大切にし、保育を構成する力や子どもの活動にそって総合的に指導する 力を身につけていく。

授業計画

回数	授業内容
1	オリエンテーション　グループ討議とレポート
2	保育の基本と保育方法　保育者とは何か
3	幼児理解とその方法　保育における幼児理解
4	環境の構成と保育の展開　環境の構成の意味（グループワーク）
5	一人一人に応じた指導　保育の質と評価
6	遊びの指導 遊びの中での学び
7	伝承遊びの意義　体験活動
8	生活の指導・豊かな体験と園行事
9	小学校との連携　円滑な接続とは
10	様々な保育形態　「主体的・対話的で深い学び」と教材研究
11	学び合い育ち合うクラスづくり　児童文化財と保育　（グループワーク）
12	園内外の環境を活かした保育
13	保育者に求められる専門性　保育の構想力と実践力
14	まとめに向けて　体験活動（グループワーク）
15	まとめ　方法論を考察する

授業の評価	「試　験」：筆記試験（７０％） 「平均点」：授業態度 、提出物（２０％） 「その他」：体験活動（１０％）
課題（レポート等） のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。
事前・事後の学習 等の内容	・次回の授業範囲の予習として、テキストを読んでおく。 ・復習は授業開始時に説明をした事例内容を再度読み返し、理解を深める。
事前・事後の学習に必要 な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	・保育実習ⅠⅡ、教育実習ⅠⅡで作成した記録を常備すること。 ・自分で解決する自主的な取り組みが必要。
テキスト	『 保育方法論 』 神長美津子・津金美智子・五十嵐市郎 編著 光生館
参考書	『保育方法・指導法』　大豆生田啓友・渡邉英則　ミネルヴァ書房
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育相談 (20220)	講義	2	2年次 後期	選択	幼免必修	林　幹士

授業の到達目標	１、保育相談支援の考え方を説明できる。 ２、保育相談支援の方法を身につける。 ３、保育相談支援の実際について理解する。
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。
授業の概要	保育者が実践している保育相談支援について学ぶ。保育相談の支援方法について確認する。 保育相談支援の実際について、事例をもとに理解を深めていく。

授業計画

回数	授業内容
1	保育相談支援とは
2	保育相談支援の方法
3	保護者との関係づくり
4	保育の環境構成を生かした支援
5	地域の資源の活用と関係諸機関との連携
6	地域子育て支援における保育相談支援の実際
7	養育力向上を目指した支援の実際
8	保護者同士の関係を改善するための支援の実際
9	苦情対応から始まる支援の実際
10	障がいのある子どもをもつ保護者への支援の実際
11	要保護児童の家庭に対する支援の実際
12	乳児院・母子生活支援施設等における支援の実際
13	保育相談支援に関する事例を通してのグループワーク①
14	保育相談支援に関する事例を通してのグループワーク②
15	保育相談支援に関する事例を通してのグループワーク③

授業の評価	「試　験」： 「平常点」： 「その他」：最終レポート（７０％）・グループワークにおけるレポート（３０％）
課題（レポート等）のフィードバック	グループワークにおけるレポートについては、コメントをつけて返却する。
事前・事後の学習等の内容	事前学習：シラバスの「授業計画」に沿って事前にテキストを読んでおくこと。 事後学習：授業のポイントをまとめていくこと。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	テキストは必ず事前に読んでおくこと。グループワークには、積極的に参加すること。
テキスト	『実践・保育相談支援』青木紀久代編著　みらい
参考書	適宜紹介する。
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】随時

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
教育実習指導Ⅱ (20813)	演習	1	2年次 前・後期	選択	幼免必修	岩谷　恵利子 (実務家教員) 山本　郁子

授業の到達目標	１．幼稚園・こども園教育(保育)について理解を深め、実習を通して幼稚園(保育)教諭の責務を学ぶ。 ２．実習日誌、 保育指導案の作成の仕方を学ぶ中から、 保育実践の視点を習得する。 ３．明確な自己課題をもって実習に臨み、 幼稚園(保育)教諭に必要な知識や技能・態度・専門性を身につける。
学位授与の方針 との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を取得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、または、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。
授業の概要	幼稚園・こども園教育実習の事前・事後指導について事例を交えながら行う。 また、 グループ討議、 ロールプレイなども取り入れながら実践に即した形で授業を行う。

授業計画

回数	授業内容
1	教育実習Ⅱの目的・授業の概要と自己課題　実習園の確認
2	個人票作成①　保育実技(わらべうた・手あそび)
3	個人票作成②　部分実習と研究保育についての理解
4	保育指導案について学ぶ ①幼児の活動　環境の構成
5	〃　②保育者の援助・留意点
6	保育指導案作成　オリエンテーションの方法と内容
7	〃　オリエンテーションの日程確認保育指導案作成
8	保育指導案作成
9	手作り教材の保育指導案作成と模擬保育①　グループワーク
10	手作り教材の保育指導案作成と模擬保育②　グループワーク
11	教材研究　保育指導案作成と模擬保育③　グループワーク
12	実習日誌、提出書類の配布と内容の説明・書き方の指導
13	教育実習の心得とマナーの確認
14	教育実習の振り返り　実習報告書、礼状作成
15	教育実習の反省と自己評価・課題　まとめ

授業の評価	「試　験」：　(　　%) 「平常点」：授業態度、提出物　(６０ %) 「その他」：小テスト、実習態度、実習評価（４０ %）
課題（レポート等） のフィードバック	・授業内容に関する質問については、 個別または全体に回答する。
事前・事後の学習 等の内容	予習：教育実習への自己課題を明確にもち、 課題克服に向けて積極的に取り組む。 各回の授業内容の概要を事前に把握しておくこと。 復習：授業の終わりにレポート提出を求める場合がある。 レポートや、手作り教材を課すことがある。
事前・事後の学習に必要 な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45 分　）事後学習（　45 分　）
履修上の注意	・履修登録を行っていても学外実習参加が認められない場合を下記に示す。 ①事前実習指導を２回以上欠席した場合　②授業における課題が未提出の場合 ③授業での指示・指導に従わない場合　④教員による会議において実習が認められない場合 ⑤必要な単位修得が出来ていない場合 ⑥小テストの成績が著しく低い場合・実習評価と授業評価を併せて評価
テキスト	・『保育指導案　大百科事典』 開仁志（編） 一藝社 ・『学びつづける保育者をめざす実習の本』 久富陽子　萌林書林
参考書	・「幼稚園教育要領解説』 文部科学省　フレーベル館 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』　内閣府　文部科学省　厚生労働省　フレーベル館 ・ 必要に応じ配布
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
子ども家庭支援論 (20420)	講義	2	2年次 後期	選択	保育士資格必修	林　幹士

授業の到達目標	１、保育者が実践する子ども家庭支援について説明できる。 ２、保育者が実践する子ども家庭支援の方法を身につける。 ３、保育者が実践する子ども家庭支援について理解する。
学位授与の方針 との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。
授業の概要	保育者が実践している子ども家庭支援について学ぶ。保育者が実践する子ども家庭の支援方法について確認する。子ども家庭支援の実際について、事例をもとに理解を深めていく。

授業計画

回数	授業内容
1	子どもと家庭を取り巻く環境
2	保育者が実践する子ども家庭支援とは
3	子育て家庭を支える法・制度および社会資源
4	保育者に求められる基本的態度および基本的技術
5	保育者が行う子ども家庭支援の実際
6	地域の子育て家庭への支援
7	さまざまな子ども家庭の理解と支援
8	不適切な養育環境の子どもやその家庭への支援
9	発達障がい児等の理解と家庭への支援
10	子どもの貧困の理解と家庭への支援
11	保育と子ども家庭支援
12	保育者が実践する子ども家庭支援の事例を通してのグループワーク①
13	保育者が実践する子ども家庭支援の事例を通してのグループワーク②
14	保育者が実践する子ども家庭支援の事例を通してのグループワーク③
15	保育者が実践する子ども家庭支援の事例を通してのグループワーク④

授業の評価	「試　験」： 「平常点」： 「その他」：最終レポート（６０％）・グループワーク（４０％）
課題（レポート等） のフィードバック	グループワークにおけるレポートは、コメントをつけて返却する。
事前・事後の学習 等の内容	事前学習：シラバスの「授業計画」に沿って事前にテキストを読んでおくこと。 事後学習：授業のポイントをまとめていくこと。
事前・事後の学習に必要 な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135分 ）事後学習（ 135分 ）
履修上の注意	テキストは必ず事前に読んでおくこと。グループワークには、積極的に参加すること。
テキスト	『保育と子ども家庭支援論』石動瑞代・中西遍彦・隣谷正範　みらい
参考書	適宜紹介する。
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】随時

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
子育て支援 (20530)	演習	1	2年次 前期	選択	保育士資格必修	井上　陽介

授業の到達目標	１.対人援助に関わる知識、技術を身に付ける。 ２.ソーシャルワークにおける保育士の役割を理解する。 ３.保育現場での保護者支援を行う際の視点・考察力を身に付ける。
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。
授業の概要	ソーシャルワークの理解を深め、事例をもとに子どもや保護者のこころの動きを考え、保育者に求められる役割について共に考える。

授業計画

回数	授業内容
1	保育とソーシャルワーク
2	ソーシャルワークの考え方と視点の基本的特徴
3	ソーシャルワークの機能と保育士に求められる役割
4	ソーシャルワークの方法・技術の活用事例
5	保育相談支援の基本的な考え方
6	保育士に求められる基本姿勢
7	保育所における関係機関との連携の事例
8	事例分析の重要性
9	保育士として支援の実践（PBL）
10	障害のある子どもと保護者への支援
11	施設で暮らす子どもへの支援
12	知的障害のある子どもへの支援
13	児童家庭支援センターにおける支援
14	児童相談所における事例
15	まとめ

授業の評価	「試　験」：筆記試験・小テスト（７０％） 「平常点」：出席・授業態度など（３０％）
課題（レポート等）のフィードバック	・小テストの結果に関して、求めに応じて個別に回答する。 ・授業内容に関する質問は個別または全体に回答する。
事前・事後の学習等の内容	予習：プリント内容を確認し、事例検討では積極的に発言し参加すること。 復習：授業内のプリントを見直し、次回の授業につなげる。
事前・事後の学習に必要な時間	１.単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45分　）事後学習（　45分　）
履修上の注意	授業への積極的な参加、質問などを推奨している。 授業に関係のない私語については厳正に対処する。
テキスト	適宜プリント配布
参考書	授業時に必要に応じて提示する。
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
子どもの保健 (20320)	講義	2	2年次 前期	選択	保育士資格必修	早野　克典 松本　享

授業の到達目標	１．乳幼児疾患について理解する。 ２．背後に隠されている家族病理までも推し量れる勘を養う。
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。
授業の概要	保育を担当する保育者が、 子どもの保健領域の理解を深め、 今後の保育に反映していく。

授業計画

回数	授業内容
1	生活リズムの大切さ「元気」であればこそ - 乳幼児の特徴的な 病態生理と薬
2	成長と発達　「正常」 と 「異常」 - いつまで様子を見る？
3	生活と保健　　栄養
4	病気と異常　　主な症状と対応と主な病気と対応
5	感染症総論
6	予防接種
7	応急手当と1歳からの子供の死因の第一位　 誤飲事故-Babyは 何でも口にする。
8	各自の母子手帳をもとに、なぜ「母子手帳」が重要か？
9	インフルエンザとワクチン
10	アレルギーマーチ　喘息とは？原因、症状、治療、園で突発発作が起きたら？
11	虐待　　虐待と地域と家族と温かい心を育む
12	小児救急
13	登園基準と登園許可証
14	保育園の保健の実際　園医をして思うこと
15	＜保育園における感染対策＞グループ討論　総括

授業の評価	「試　験」： 筆記試験（８５％） 「平常点」： レポート等の提出物、授業態度、意欲 （１５％） 「その他」：
課題（レポート等）のフィードバック	授業内容に関する質問については、 個別又は全体に回答する。 また前期、後期の最終授業では、前期、後期それぞれのまとめ、総括を行う。
事前・事後の学習等の内容	予習：テキスト等の該当箇所を通読し、各回の授業内容の把握をしておくこと。 復習：各回の授業内容について理解を深めておくこと。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	教科書の保育保健の基礎知識とスライドやプリントを中心に授業を行う。 欠席回数が5回を超える場合は、当該科目の受験資格を失い、単位が認められません。 授業態度が著しく悪い場合、退室を命じることがある。 また、度重なる場合、当該科目の履修を取り消すことがある。 本講義では、授業態度を重視する。座席は指定された場所に着席していないと欠席扱いになる ことがある。勉強をしていないと判断した者には、再試やレポートを行う。
テキスト	『保育保健の基礎知識』 巻野悟朗 監修 日本小児医事出版社
参考書	『お母さんに伝えたい子どもの病気ホームケアガイド』 日本外来小児科学研究会編著 医歯薬出版株式
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
子どもの健康と安全 (20322)	演習	1	2年次 前期	選択	保育士資格必修	内海　尚美

授業の到達目標	１．乳幼児の成長・発達の特徴を理解する。 ２．保育施設における健康管理や安全管理を理解する。 ３．乳幼児に多くみられる病気とその症状について理解し、基礎的な観察技術を習得する。 ４．乳幼児に起きやすい事故とその対応方法について理解し、基礎的な応急処置技術を習得する。
学位授与の方針 との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。
授業の概要	既習科目で習得した知識をもとに、保育現場において子どもの健康と安全を守るために必要な知識と 技術を学びます。

授業計画

回数	授業内容	
1	オリエンテーション：授業内容、子どもの健康と保健における現状と課題	講義
2	子どもの身体的な発育・発達（乳幼児期）	講義
3		
4	子どもの日常生活援助１：着替え、排泄ケア	演習
5	子どもの日常生活援助２：沐浴	演習
6	健康観察１：身長、体重、頭囲、胸囲	講義、演習
7	健康観察２：体温、呼吸、脈拍	講義、演習
8	子どもの病気と症状：乳幼児に多い病気	講義
9	子どもの病気と症状：症状の観察と対応	講義
10	子どもの病気と症状：手洗い、罨法	講義、演習
11	子どもの病気と症状：与薬	講義
12	子どもの発達特性と事故	講義、グループワーク
13	子どもの事故と対応（気道内異物除去、止血法、包帯法）	演習
14	子どもの事故と対応（心肺蘇生）	演習
15	まとめ：健康管理と事故防止	講義

授業の評価	「試　験」：筆記試験（６０％） 「平常点」：授業態度・演習レポート（４０％） 「その他」：
課題（レポート等） のフィードバック	レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。
事前・事後の学習 等の内容	【予習】テキストや参考書の該当箇所を通読し、授業内容の概要を把握しておくこと。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、整理しておくこと。
事前・事後の学習に必 要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45 分　）事後学習（　45 分　）
履修上の注意	主体的に講義・演習に参加すること。 授業で配布するプリント類は各自ファイルに綴じるなどして、テキストとともに持参すること。
テキスト	『これだけはおさえたい！保育者のための「子どもの健康と安全」』　鈴木美枝子編著　創成社
参考書	適宜プリントを配布
その他	

科目名／カリキュラムN0.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
子ども家庭支援論 (20420)	講義	2	2年次 後期	選択	保育士資格必修	林　幹士

授業の到達目標	１、保育者が実践する子ども家庭支援について説明できる。 ２、保育者が実践する子ども家庭支援の方法を身につける。 ３、保育者が実践する子ども家庭支援について理解する。
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。
授業の概要	保育者が実践している子ども家庭支援について学ぶ。保育者が実践する子ども家庭の支援方法について確認する。子ども家庭支援の実際について、事例をもとに理解を深めていく。

授業計画

回数	授業内容
1	子どもと家庭を取り巻く環境
2	保育者が実践する子ども家庭支援とは
3	子育て家庭を支える法・制度および社会資源
4	保育者に求められる基本的態度および基本的技術
5	保育者が行う子ども家庭支援の実際
6	地域の子育て家庭への支援
7	さまざまな子ども家庭の理解と支援
8	不適切な養育環境の子どもやその家庭への支援
9	発達障がい児等の理解と家庭への支援
10	子どもの貧困の理解と家庭への支援
11	保育と子ども家庭支援
12	保育者が実践する子ども家庭支援の事例を通してのグループワーク①
13	保育者が実践する子ども家庭支援の事例を通してのグループワーク②
14	保育者が実践する子ども家庭支援の事例を通してのグループワーク③
15	保育者が実践する子ども家庭支援の事例を通してのグループワーク④

授業の評価	「試　験」： 「平常点」： 「その他」：最終レポート（６０％）・グループワーク（４０％）
課題（レポート等）のフィードバック	グループワークにおけるレポートは、コメントをつけて返却する。
事前・事後の学習等の内容	事前学習：シラバスの「授業計画」に沿って事前にテキストを読んでおくこと。 事後学習：授業のポイントをまとめていくこと。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135分 ）事後学習（ 135分 ）
履修上の注意	テキストは必ず事前に読んでおくこと。グループワークには、積極的に参加すること。
テキスト	『保育と子ども家庭支援論』石動瑞代・中西遍彦・隣谷正範　みらい
参考書	適宜紹介する。
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】随時

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
子どもの理解と援助 (20230)	演習	1	2年次 前期	選択	保育士資格必修	楯　佳子

授業の到達目標	１．子ども一人ひとりに応じた心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 ２．子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を学ぶ。 ３．子どもを理解するための具体的な方法を知る。
学位授与の方針 との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。
授業の概要	子どもを理解するうえでの基本的な考え方やその方法、子どもの理解に基づく保育者の援助や態度の基本について理解する。また、子どもを理解するために必要な観察の視点や職員・保護者との連携について、そして、子どもの育ちにかかわる環境について考え、子ども理解に基づくの援助について学習する。

授業計画

回数	授業内容
1	子どもの実態に応じた発達・学びの把握(1)保育における子ども理解の意義
2	子どもの実態に応じた発達・学びの把握(2)子どもとの関わりと共感的理解
3	子どもの実態に応じた発達・学びの把握(3)実際に子どもの発達を感じよう①
	(グループワーク)
4	子どもの実態に応じた発達・学びの把握(4)実際に子どもの発達を感じよう②
	(グループワーク)
5	子どもを理解する視点(1)子どもの生活・遊び
6	子どもを理解する視点(2)環境としての保育者と発達
7	子どもを理解する視点(3)子ども相互の関わりと関係づくり
8	子どもを理解する視点(4)集団における経験と発達
9	子どもを理解する視点(5)子どもの葛藤とつまずき
10	子どもを理解する視点(6)保育の環境の理解と構成／環境の移行と変化(体験)
11	子どもを理解する方法(1)観察／記録／省察・評価
12	子どもを理解する方法(2)職員間や保護者との情報共有
13	子どもの理解に基づく発達援助(1)発達の課題に応じた援助と関わり
14	子どもの理解に基づく発達援助(2)特別な配慮を要する子どもの理解と援助
15	子どもの理解に基づく発達援助(3)発達の連続性と就学への支援

授業の評価	「試　験」：筆記試験　（６０％） 「平常点」：授業への取り組み方(意欲・関心・態度)　（２０％） 「その他」：提出物(感想、小レポート、ノート・ファイルなど)　　（２０％）
課題（レポート等） のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、 個別または全体に回答する。
事前・事後の学習 等の内容	・予習：該当箇所の通読。 ・復習：授業内容の見直し。学びをどう実践に生かしていくかを考えよう。
事前・事後の学習に必要 な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45分　）事後学習（　45分　）
履修上の注意	・ノート、ファイル(配付プリント用)を持参すること。ノート・ファイルは提出することがある。 ・授業は、学生の興味・関心、進度に応じて、授業計画の各単元を行き来しながら総合的に進める。
テキスト	なし。授業時プリントなどを配布する
参考書	適宜、授業中に紹介する。
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育の計画と評価 (20660)	講義	2	2年次 前期	選択	保育士資格必修	中尾　博美

授業の到達目標	1.保育内容の充実を図り、保育の質を向上するための指導計画の考え方について理解する。 2.短期指導計画を自分で作成することができるようになる。 3.子ども理解に基づく保育の計画、実践、評価、改善の過程について理解する。
学位授与の方針 との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。
授業の概要	事例を通して子どもの理解を深めながら、保育の計画のあり方や保育を展開するための 見通しの持ち方など基本的な考え方を理解し、保育の質について考える。

授業計画

回数	授業内容
1	なぜ保育の計画が必要なのか
2	トリプル改訂の意義と、乳幼児教育の基本
3	全体的な計画と指導計画の関係性
4	乳幼児期にふさわしい生活（遊び）と経験すべき内容
5	身近な自然の探索(グループワーク①)
6	春から夏にかけての保育教材の研究（グループワーク②)
7	春から夏にかけての保育をイメージし、指導計画を作成する（グループワーク③)
8	計画的な環境の取り入れ方と保育の連続性
9	共に育ちあう保育の視点と方法
10	０歳児の指導計画の作成
11	１・２歳児の指導計画の作成
12	３・４・５歳児の指導計画の作成
13	保育観と保育の計画・方法の変遷
14	保育の質の向上と保育者の役割(ディスカッションと発表)
15	より良い保育に向かうための評価のありかた。

授業の評価	「試　験」：筆記試験（８０％） 「平常点」：授業態度（１０％） 「その他」：レポート等提出物（１０％）
課題（レポート等） のフィードバック	・授業内容に関する質問は、個別または全体に回答する。 ・レポート等の提出物はコメントをつけて返却する。
事前・事後の学習 等の内容	予習：自然の変化や、行事や文化などに触れる中で、気づいたことを専用ノートに記録 　　しておくこと。 復習：テキストや配布プリントを通読し、各回の授業内容を理解しておくこと。
事前・事後の学習に必 要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	分からないことはその時に質問し、積極的に授業に参加すること。
テキスト	保育・教育ネオシリーズ（3）『保育の計画と方法』　小笠原　圭･卜田真一郎　編著　同文書院 『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 月間『保育とカリキュラム』2020　ひかりのくに
参考書	授業の中で紹介する。
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
乳児保育Ⅱ (20651)	演習	1	2年次 後期	選択	保育士資格必修	中尾　博美

授業の到達目標	１．　乳児保育の基本的な知識・技能に基づく援助や関わりのあり方を体得する。 ２．　保育の観察と記録の取り方、指導計画の作成などを習得する。 ３．　一人一人の発達を支える生活と遊びの環境、職員間の協働などについて理解する。
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。
授業の概要	乳児保育Ⅰの学びを基に、実際の援助や関わりを通して子ども理解を深め、保育者としてのあり方を考える。

授業計画

回数	授業内容
1	オリエンテーション　乳児保育Ⅰの復習
2	３歳未満児の発達の特徴
3	食事の習慣形成の獲得と援助の方法（1）
4	食事の習慣形成の獲得と援助の方法（2）
5	排泄の習慣形成の獲得と援助の方法
6	睡眠、清潔の習慣形成の獲得と援助の方法
7	ことばの発達と対人関係
8	実際の保育から環境構成と保育者の援助を学ぶ
9	０歳児の日課と担当制
10	保育の計画と記録
11	保育教材の研究（グループ活動①）
12	保育教材の研究（グループ活動②）
13	保育教材の研究の発表（グループ活動③）
14	乳児保育に携わる保育者の専門性
15	人生における最初の３年間の意義

授業の評価	「試　験」：筆記試験　（８０　%） 「平常点」：　（１０　%） 「その他」：　（１０　%）
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題はコメントをつけて返却する。 ・授業内容についての質問は個別または全体に回答する。
事前・事後の学習等の内容	予習：３歳未満児にふさわしい保育教材について日ごろから関心を持ち、作ったり試したりしておく。 復習：授業で学んだ援助の方法（習慣形成について）を自分のものになるまで繰り返し練習すること。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45分　）事後学習（　45分　）
履修上の注意	教科書や配布プリントは熟読し、授業時間内で理解するようにし、分からないことは必ず質問すること。
テキスト	『乳児の生活と保育（第３版）』　松本園子編著　ななみ書房　※乳児保育Ⅰと同じ 『保育所保育指針』 月刊『保育とカリキュラム』２０２０年　ひかりのくに
参考書	授業の中で紹介する
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育実習指導ＩＢ (20831)	演習	1	1年次後期 2年次後期	選択	保育士資格選択	中重　直俊 (実務家教員) 林　幹士

授業の到達目標	１．福祉施設の内容や機能、また、保育士や施設教員の仕事について講義を通して学び、施設実習が円滑に実践できることを目指す。 ２．実習施設の一日の生活の流れや支援の内容を理解しる。 ３．実習施設が持つ機能や社会的役割について理解する。
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。
授業の概要	児童福祉施設での実習を通じて、利用者への理解を深めるとともに、施設の機能および施設職員の職務について実践的に学ぶ。

授業計画	回数	授業内容
	1	意義と目的、概要、実習生に求められるものなど
	2	福祉施設、利用者、職員の理解
	3	ＤＶＤ「施設実習の基本」
	4	生活指導、学習指導、社会人としての常識
	5	療育指導、自立支援
	6	乳児院、母子生活支援施設、児童養護施設
	7	児童発達支援センター
	8	障害者支援施設（入所更生、通所授産）
	9	個人票作成、オリエンテーションについて
	10	実習課題、事前確認事項
	11	実習日誌の書き方
	12	指導計画の書き方
	13	実習中のケーススタディ
	14	グループ討議、お礼状作成
	15	実習の反省とまとめ

授業の評価	「試　験」： 筆記試験（１０%） 「平均点」： 授業態度、課題提出（４０％） 「その他」： 実習態度、実習評価など（５０%）
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。
事前・事後の学習等の内容	教科書、配布プリントを通読しておくこと 授業を欠席した場合、補講を行うので手続きをしにくること
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45分　）事後学習（　45分　）
履修上の注意	本科目では「学習に対する意欲的な姿勢」と「社会人としてのマナー」を要求する。 ①事前指導の欠席が2回以上の場合、②授業態度、出席状況が悪い場合、 ③授業において課された課題を提出しない場合、④教員による会議で実習が認められないと判断された場合、⑤小テストの成績が著しく低い場合、実習を認めない。
テキスト	『施設実習ガイド　保育者として成長するための事前事後学習』　駒井美智子　萌文書林 『保育・福祉専門職をめざす学習の基礎』　生活技術教育研究会編　ななみ書房
参考書	『保育所保育指針』　必要に応じ配布する
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】水曜の昼休み　中重研究室

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育内容演習「総合表現」 (20607)	演習	2	2年次 後期	選択	保育士資格選択	池田　京子 岩谷　恵利子 (実務家教員) 向井　順子

授業の到達目標	1．表現の技術を向上させる。 2．自身の役割に対する責任感や協調性を養い、チームワークを大切にできる。 3．表現活動を通して体験、学習したことを教育・保育現場で役立てる。
学位授与の方針との関連	・保育に関する専門知識・技術を修得している。 ・教科学習及び教育・保育実習等を通じて実践力を修得している。
授業の概要	・本学のキリスト教主義教育に基づき「クリスマス降誕劇（ページェント）」の舞台制作・発表を行い、「表現活動とは何か」を実体験する。 ・音楽表現、造形表現、身体表現、言葉の表現など、あらゆる表現を総合的に組み合わせて制作する。 ・表現について考え、互いの意見などを尊重しながら、全員で、よりよい舞台作品の完成を目指す。

授業計画

回数	授業内容
1	クリスマス降誕劇についての学習、DVDや紙芝居視聴、感想や意見交換・発表(シンク・ペア・シェア等を含む)
2	〃
3	クリスマス降誕劇の台本学習、配役などの希望調査実施
4	グループワーク:クリスマス降誕劇の体験的学習(配役・トーンチャイムなどの体験、衣装・小道具制作、その他)
5	〃
6	グループワーク:クリスマス降誕劇練習、クリスマス飾り付け・点灯式練習・準備、その他
7	〃
8	グループワーク:クリスマス降誕劇の実践練習(全体練習・衣装着用・練習ビデオ撮影・PBL等を含む)
9	〃
10	〃
11	〃
12	グループワーク:クリスマス降誕劇リハーサル・制作発表
13	クリスマス降誕劇制作発表時のDVD視聴、感想や意見交換・発表(シンク・ペア・シェア等を含む)
14	保育・教育現場で役立つ表現活動、その他
15	保育・教育現場で役立つ表現活動、その他、授業まとめ

授業の評価	「試　験」：　レポート（５０％） 「平常点」：　授業態度・取り組み姿勢、授業内での提出物（４０％） 「その他」：　ページェント発表（１０％）
課題（レポート等）のフィードバック	受業に関する質問や相談は、個別又は全員に回答する。
事前・事後の学習等の内容	予習：プリントやクリスマス物語の絵本などをよく読み、聖劇への理解を深めること。 台詞や讃美歌を早く覚えること。 よりよい舞台作品にするために出来ることを日頃から考え、授業で生かせるようにしておくこと。 復習：与えられた役割について、授業ごとに自己分析を行い、次の授業に臨むこと。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	・授業全体がグループワークによる活動であることを踏まえ、安易に欠席しないこと。 ・授業内での取り組みには積極的に参加し、与えられた役割に責任を持つと同時に、他の学生とも互いに尊重しながら連携を深めていくこと。 ・クラスルームなどの情報を確認して活用すること。 ・舞台機器や制作活動の状況などにより、シラバスを変更する場合がある。
テキスト	・ページェント台本、トーンチャイム・聖歌隊楽譜（プリント配布） ・『聖書』『讃美歌』『讃美歌２１』『こどもさんびか』『幼児さんびか』 ・その他、適宜、プリントを配布することがある。
参考書	クリスマスに関する聖書物語の絵本・紙芝居・ＤＶＤ等、聖書など
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】昼休みや放課後などのほか、ＳＮＳにて対応する。

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
幼児音楽ⅡA (20722)	演習	1	2年次 前期	選択	保育士資格選択	向井　順子

授業の到達目標	１.幼児音楽Ⅰで習得した基礎的な技術をもとに、より高度な音楽的技術を習得する。 ２.保育現場で生かせる実践的な音楽指導法を身につける。 ３.器楽合奏を通して、基本的な楽器の扱いや奏法を習得し、豊かな音楽的表現力を身につける。
学位授与の方針との関連	保育に関する専門知識・技術を修得している。
授業の概要	実践的な音楽演習を通して、幼児と直接関わる保育者として必要なコミュニケーション力と 基礎的な技能及び表現力を身につける。

授業計画	回数	授業内容
	1	授業内容説明、幼児音楽Ⅰで学んだことの復習と確認
	2	姿勢・呼吸法・弾き歌い
	3	発声・呼吸法・歌詞朗読・弾き歌いの練習
	4	指導略案作成・グループ分け
	5	〃
	6	模擬授業発表(グループワーク・プレゼンテーション)
	7	〃
	8	〃
	9	研究討議
	10	弾き歌い・歌唱
	11	〃
	12	弾き歌い・リズム練習
	13	弾き歌い・パート練習
	14	弾き歌い・アンサンブル・独唱
	15	レパートリー確認・独唱

授業の評価	「試　験」：実技試験、模擬授業（５０％） 「平常点」：授業態度（４０％） 「その他」：提出物（１０％）
課題（レポート等）のフィードバック	授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。
事前・事後の学習等の内容	予習：教材研究と歌および弾き歌いの練習をする。 復習：授業で学んだ教材を十分に練習し、自身のレパートリーとなるようにする。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45 分　）事後学習（　45 分　）
履修上の注意	授業態度を重視 実技中心なので毎日の練習が必要
テキスト	『こどものうた100』　小林美実　監修　　チャイルド本社 随時　プリントを配布
参考書	
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
幼児音楽ⅡB (20723)	演習	1	2年次 後期	選択	保育士資格選択	向井　順子

授業の到達目標	1.保育現場で生かせる実践的な音楽指導法を身につける。 2.器楽合奏・合唱を通して、他者とアンサンブルをする経験を通して、個々の音楽的表現力を高める。
学位授与の方針との関連	保育に関する専門知識・技術を修得している。
授業の概要	実践的な音楽演習を通して、幼児と直接関わる保育者として必要なコミュニケーション力と基礎的な技能及び表現力を身につける。

授業計画

回数	授業内容
1	前期演習の復習と確認
2	弾き歌い（秋の歌を中心に）
3	弾き歌い・初見弾き歌い
4	各パート分け・弾き歌い（冬の歌を中心に）
5	パート練習・弾き歌い（　　〃　　）
6	賛美歌合唱練習・弾き歌い（　〃　）
7	〃
8	〃
9	〃
10	聖歌隊として合唱完成　（グループワーク）
11	通し稽古　（グループワーク）
12	クリスマスページェント舞台発表　（グループワーク）
13	初見弾き歌い・アンサンブル　（プレゼンテーション）
14	弾き歌い・レパートリー確認・アンサンブル仕上げ　（プレゼンテーション）
15	前期演習の復習と確認

授業の評価	「試　験」：実技試験、模擬授業（５０％） 「平常点」：授業態度（４０％） 「その他」：提出物（１０％）
課題（レポート等）のフィードバック	授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。
事前・事後の学習等の内容	予習：教材研究と歌および弾き歌いの練習をする。 復習：授業で学んだ教材を十分に練習し、自身のレパートリーとなるようにする。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要となる。事前学習（　45分　）事後学習（　45分　）
履修上の注意	授業態度を重視 実技中心なので毎日の練習が必要
テキスト	『こどものうた100』　小林美実　監修　　チャイルド本社 随時　プリントを配布
参考書	
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
造形ⅡA (20723)	演習	1	2年次 前期	選択	保育士資格選択	佐藤　栄悟

授業の到達目標	1．　造形Ⅰで習得した造形的基礎をもとに、自分で考えて計画的に制作できる技術を習得する。 2．グループ制作から互いのイメージの違いを明確にし、尊重し合いながら表現する方法を会得する。 3．素材の可能性を深く考察し、作品制作に生かす。
学位授与の方針との関連	保育に関する専門知識・技術を修得している。
授業の概要	保育の現場や実習に役立つ造形表現を自分で考察し展開できるようにする。 造形美に対して湧き起こる内的感動を基調とした共創的授業。ICT活用授業。

授業計画

回数	授業内容
1	教材研究　①アイディアを考える　(PBL)
2	教材研究　②制作　(PBL)
3	教材研究　③研究発表　(プレゼンテーション)
4	素材研究　①素材の可能性　(グループワーク・PBL)
5	素材研究　②制作　(グループワーク・PBL)
6	素材研究　③制作　(グループワーク・PBL)
7	素材研究　④制作　(グループワーク・PBL)
8	素材研究　⑤制作　(グループワーク・PBL)
9	素材研究　⑥研究発表・展示　(プレゼンテーション)
10	アニメーション①構成・絵コンテ　(PBL)
11	アニメーション②制作　(PBL)
12	アニメーション③制作　(PBL)
13	アニメーション④制作　(PBL)
14	アニメーション⑤制作　(PBL)
15	アニメーション⑥観賞　(PBL)

授業の評価	「試　験」：提出課題　（６０％） 「平常点」：授業の参加度　（４０％） 「その他」：
課題（レポート等）のフィードバック	個々の課題はGoogleクラスルーム上で提出し、フィードバック（点数やコメント等）はそこで行う。 また、プレゼンテーションの教員及び学生のフィードバックは、その都度Googleフォーム等で行う。
事前・事後の学習等の内容	予習：授業概要を把握しておくこと。授業外学習が必要な場合は事前に行い、準備しておくこと。 復習：授業の資料をGoogleクラスルームに配布するので、理解を深めておくこと。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45 分　）事後学習（　45 分　）
履修上の注意	制作の記録をつけること。　必ず用具や材料を忘れないこと。 課題作品の提出期限を守ること。　汚れても困らない服装で臨むこと。
テキスト	
参考書	『造形芸術の基礎』　ヨハネス・イッテン著　手塚又四郎訳　美術出版社 『アクティブラーニングとしてのPBLと探究的な学習』　溝上慎一・成田秀夫編　東信堂
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】　水曜日の昼休み　造形準備室

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
造形ⅡB (20733)	演習	1	2年次 後期	選択	保育士資格選択	佐藤　栄悟

授業の到達目標	１．造形Ｉで習得した造形的基礎をもとに、自分で考えて計画的に制作できる技術を習得する。 ２．グループ制作から互いのイメージの違いを明確にし、尊重合いながら表現する方法を会得する。 ３．素材の可能性を深く考察し、作品制作に生かす。
学位授与の方針 との関連	保育に関する専門知識・技術を修得している。
授業の概要	保育の現場や実習に役立つ造形表現を自分で考察し、展開できるようにする。 造形美に対して湧き起こる内的感動を基調とした共創的授業。ICT活用授業。 卒業制作で研究の成果を市内の会場で展示を行い、様々な視点からフィードバックを得る。

授業計画

回数	授業内容
1	教材研究　①制作　(PBL)
2	教材研究　②制作　(PBL)
3	教材研究　③研究発表　(プレゼンテーション)
4	クレイアニメ　①クレイアニメを知る・ストーリーと絵コンテ　(グループワーク・PBL)
5	クレイアニメ　②粘土で制作　(グループワーク・PBL)
6	クレイアニメ　①撮影　(グループワーク・PBL)
7	クレイアニメ　①撮影・発表　(プレゼンテーション)
8	卒業制作　①　(PBL)
9	卒業制作　②　(PBL)
10	卒業制作　③　(PBL)
11	卒業制作　④　(PBL)
12	卒業制作　⑤　(PBL)
13	卒業制作　⑥　(PBL)
14	卒業制作　⑦　(PBL)
15	卒業制作　⑧　(PBL)

授業の評価	「試　験」：提出課題　(６０％) 「平常点」：授業の参加度　(４０％) 「その他」：
課題（レポート等） のフィードバック	個々の課題はGoogleクラスルーム上で提出し、フィードバック（点数やコメント等）はそこで行う。 また、プレゼンテーションの教員及び学生のフィードバックは、その都度Googleフォーム等で行う。
事前・事後の学習 等の内容	予習：授業概要を把握しておくこと。授業外学習が必要な場合は事前に行い、準備しておくこと。 復習：授業の資料をGoogleクラスルームに配布するので、理解を深めておくこと。
事前・事後の学習に必要 な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45 分　）事後学習（　45 分　）
履修上の注意	制作の記録をつけること。　必ず用具や材料を忘れないこと。 課題作品の提出期限を守ること。　汚れても困らない服装で臨むこと。
テキスト	
参考書	『造形芸術の基礎』　ヨハネス・イッテン著　手塚又四郎訳　美術出版社 『アクティブラーニングとしてのPBLと探究的な学習』　溝上慎一・成田秀夫編　東信堂
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】　水曜日の昼休み　造形準備室

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
幼児体育ⅡA (20733)	演習	1	2年次 前期	選択	保育士資格選択	矢野　真理

授業の到達目標	1.幼児期における発達の特徴や身体活動が幼児に与える影響について理解を深める。 2.幼児の身体活動指導のための発展的知識を習得し、その指導性を高める。 3.子どもの発育・発達に応じた援助ができるようになる。
学位授与の方針 との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。
授業の概要	幼児期における身体教育の意味や価値について理解を深め、それらを子どもに体感させるために 働きかけや関わりについて考える。

授業計画

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	集団遊び　多種多様な鬼ごっこ
3	集団遊びの指導計画作成
4	集団遊びの指導実践
5	発表した集団遊びプログラムの省察
6	大型遊具を使った遊び　マット、跳び箱
7	大型遊具を使った遊び　平均台、鉄棒
8	大型遊具を使った遊びの指導計画作成
9	大型遊具を使った遊びの指導実践
10	発表した大型遊具を使った遊びプログラムの省察
11	小型遊具を使った遊び　ボール
12	小型遊具を使った遊びの指導計画作成
13	小型遊具を使った遊びの指導実践
14	発表した小型遊具を使った遊びプログラムの省察
15	安全管理と応急手当

授業の評価	「試　験」：指導実践試験（３０％） 「平常点」：授業態度、意欲（５０％） 「その他」：指導案（２０％）
課題（レポート等） のフィードバック	提出物は、次回の授業時に返却し説明する。 質問については、授業時に全体に向けて回答し説明する。必要に応じて個別に説明する。
事前・事後の学習 等の内容	予習:食事、睡眠等、体調を整えておくこと。次回の授業内容の概要を把握し、おもな遊びを 予習しておくこと。（指導実践担当者は指導案提出） 復習:指導実践後、集団討議した内容を各自まとめておくこと。
事前・事後の学習に必要 な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45分　）事後学習（　45分　）
履修上の注意	・技能・技術面での評価ではなく、授業を受ける態度や取り組む姿勢を評価する。 ・ピアス、ネックレス、つけ爪、時計等、装飾品を身に付けることは安全面から禁止する。 ・運動にふさわしい服装と運動シューズを使用すること。・各自で水分、タオルを用意すること。 ・各自で貴重品の管理をすること。・授業態度が著しく悪い場合は、退場を命じることがある。 ・体調が悪い、病気等の場合は、始まる前に必ず申し出ること。 ・運動ができない場合、診断書があれば別途対応する。
テキスト	適宜資料配布
参考書	文部科学省「幼児期運動指針ガイドブック」
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
幼児体育ⅡB (20743)	演習	1	2年次 後期	選択	保育士資格選択	矢野　真理

授業の到達目標	1.幼児期における発達の特徴や身体活動が幼児に与える影響について理解を深める。 2.幼児の身体活動指導のための発展的知識を習得し、その指導性を高める。 3.子どもの発育・発達に応じた援助ができるようになる。
学位授与の方針との関連	保育に関する専門知識・技術を修得している。
授業の概要	幼児期における身体教育の意味や価値について理解を深め、それらを子どもに体感させるために必要な働きかけや関わりについて考える。

授業計画

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	親子体操の習得と指導
3	リズム遊び
4	リズム遊びの指導計画作成
5	リズム遊びの指導実践
6	発表したリズム遊びプログラムの省察
7	身近なものを使った遊び　新聞紙、段ボール
8	身近なものを使った遊びの指導計画作成
9	身近なものを使った遊びの指導実践
10	発表した身近なものを使った遊びプログラムの省察
11	小型遊具を使った遊び　なわ
12	小型遊具を使った遊び　フープ
13	小型遊具を使った遊びの指導計画作成
14	小型遊具を使った遊びの指導実践
15	発表した小型遊具を使った遊びプログラムの省察

授業の評価	「試　験」：指導実践試験（３０％） 「平常点」：授業態度、意欲（５０％） 「その他」：指導案（２０％）
課題（レポート等）のフィードバック	提出物は、次回の授業時に返却し説明する。 質問については、授業時に全体に向けて回答し説明する。必要に応じて個別に説明する。
事前・事後の学習等の内容	予習:食事、睡眠等、体調を整えておくこと。次回の授業内容の概要を把握し、おもな遊びを予習しておくこと。（指導実践担当者は指導案提出） 復習:指導実践後、集団討議した内容を各自まとめておくこと。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45分　）事後学習（　45分　）
履修上の注意	・技能・技術面での評価ではなく、授業を受ける態度や取り組む姿勢を評価する。 ・ピアス、ネックレス、つけ爪、時計等、装飾品を身に付けることは安全面から禁止する。 ・運動にふさわしい服装と運動シューズを使用すること。・各自で水分、タオルを用意すること。 ・各自で貴重品の管理をすること。・授業態度が著しく悪い場合は、退場を命じることがある。 ・体調が悪い、病気等の場合は、始まる前に必ず申し出ること。 ・運動ができない場合、診断書があれば別途対応する。
テキスト	適宜資料配布
参考書	文部科学省「幼児期運動指針ガイドブック」
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育実習指導Ⅱ (20825)	演習	1	2年次 前期	選択	保育士資格選択	濱田　敏子 (実務家教員) 中重　直俊 (実務家教員) 松本　恭子

授業の到達目標	１．保育所や福祉施設の内容や機能や保育士や施設職員の仕事について講義を通して理解する。 ２．保育実習では保育理論と実践の統合を図り、保育を総合的に理解し、保育士としての専門性を具体的に学び、施設実習では、入所者理解と援助する実践現場での体験を通して理解する。 ３．保育士資格取得に向け自己課題を明確にする。
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。
授業の概要	保育者になるための基本的な知識を身につけ、 実習の意義や実習施設について確認・理解をする。

授業計画

回数	授業内容
1	実習Ⅰについて　　実習の目的と意義
2	保育所実習の目的と意義 ビデオ視聴 課題作成（１）保育実技・絵本
3	保育実習の具体的内容　　課題作成（２）保育実技・手遊び（グループワーク）
4	保育実習事前指導　個人票作成 1
5	〃　　保育所生活１日の流れを把握する。(乳児)
6	〃　　オリエンテーションについて　(1)
7	〃　　オリエンテーションの日程を決める。（グループワーク）
8	〃　　保育所生活1日の流れを把握する（幼児）実習記録の書き方（2）
9	〃　　実習記録の書き方（3）　研究保育案（１）
10	〃　　実習記録の書き方（3）　研究保育案（１）
11	〃　　実習先での立ち居振る舞いについて 守秘義務について研究保育案（2）
12	〃　　自己紹介（2）　（グループワーク）
13	〃　　保育実習に臨むために（心構え、服装、身だしなみ、持ち物確認）
14	事後実習指導　　実習先へのお礼状　（グループワーク）
15	まとめ　　保育実習の反省と課題

授業の評価	「試　験」： 「平常点」：授業態度、提出物など（６０％） 「その他」：実習評価、実習や実習日誌への取組みなど（４０％）
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。
事前・事後の学習等の内容	保育実習にかかわる準備（教材作り等）を行うこと。 遅刻や欠席のないように日々自らの体調管理を怠らないこと。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45分　）事後学習（　45分　）
履修上の注意	本科目では「学習に対する意欲的な姿勢」と「社会人としての行動とマナー」を要求する。 履修登録をしていても、学外実習参加を認めない場合がある。 ①授業態度の様子。② 授業において課された課題を提出しない場合。 ③授業において出された指示・指導に従わない場合。 ④教員による会議で実習が認められないと判断された場合。 ⑤事前実習指導欠席2回以上の場合 授業回13回目と14回目の間に実習を行う。 ⑥実習の評価と授業評価とを、総合的に評価する。
テキスト	『保育・福祉専門職をめざす学習の基礎』 生活技術教育研究会編 ななみ書房 『保育所保育指針』 厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 『施設実習ガイド 保育者として成長するための事前事後学習』 駒井美智子 萌文書林
参考書	『幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド』、守巧・小櫃智子 著 わかば社
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育実習指導Ⅲ (20833)	演習	1	2年次 前期	選択	保育士資格選択	中重　直俊 (実務家教員) 林　幹士

授業の到達目標	１．社会福祉施設実習の体験を踏まえ、福祉施設の意義や現状、その役割についての知識を深める。 ２．利用者の理解、援助のあり方等について追及し、実践を円滑に、また効果的に行うことができることを目指す。 ３．実習施設が持つ機能や社会的役割について理解する。
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。
授業の概要	児童福祉施設での実習を通じて、利用者への理解を深めるとともに、施設の機能および施設職員の職務について実践的に学ぶ。

授業計画	回数	授業内容
	1	保育実習Ⅲの目的・内容
	2	実習先を知る－社会福祉施設と役割の意義
	3	福祉制度と福祉施設の現状
	4	実習課題の明確化
	5	利用者の理解－乳幼児、児童について
	6	利用者の理解－障がい（児）者について（１）
	7	利用者の理解－障がい（児）者について（２）
	8	援助のあり方（１）
	9	援助のあり方（２）
	10	実習記録の書き方（１）
	11	実習記録の書き方（２）
	12	実習記録の書き方（３）
	13	日誌・提出書類等の配布と指導
	14	実習に臨むために　　実習課題の明確化
	15	実習の心得の確認　　実習前点検・確認

授業の評価	「試　験」：筆記試験（１０%） 「平均点」：授業態度、課題提出　（２０%） 「その他」：実習態度、実習評価など（７０%）
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。
事前・事後の学習等の内容	・1回生時の実習の振り返りを行い、自分の課題を明確にしておくこと。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45分　）事後学習（　45分　）
履修上の注意	・実習は利用者の生活の場に入り、そして職員の仕事の場においてともに働くことになる。 一人の社会人としての自覚を持ち、実習に臨むこと。 ・履修しても実習以前の評価によっては学外実習を認められない場合がある。 ・実習評価と授業評価を合わせて、総合的に評価する。
テキスト	『保育・福祉専門職をめざす学習の基礎』　生活技術教育研究会編　ななみ書房
参考書	保育所保育指針、必要に応じ配布する
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】水曜の昼休み　中重研究室

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
総合音楽 (20750)	演習	2	2年次 前期	選択		池田　京子

授業の到達目標	1.保育・教育現場で役立つ音楽の知識や技術を獲得している。
学位授与の方針 との関連	保育に関する専門知識・技術を修得している。
授業の概要	・音楽を「知る」「演奏する」をコンセプトに、課題や演奏の実習、グループワークを交えた授業を行う。 ・保育・教育現場で役立つよう、様々な楽器や楽曲の紹介、音楽理論・和声による編曲の基礎知識などを学習する。また、讃美歌や親しみやすい楽曲によるトーンチャイム合奏実習なども取り入れる。

授業計画	回数	授業内容
	1	オリエンテーション、楽器の分類、音楽の起源など
	2	世界の宗教と音楽、世界の三大オーケストラ、西洋・東洋・日本の音楽
	3	西洋音楽の歴史、様々な作曲家の作品
	4	〃
	5	和音の機能、和音の進行と禁則、和声音と非和声音、課題の実習
	6	〃
	7	〃
	8	〃
	9	〃
	10	トーンチャイムによる合奏実習：讃美歌や親しみやすい楽曲の演奏　／　その他
	11	〃
	12	〃
	13	〃
	14	〃
	15	〃

授業の評価	「試　験」：　レポート（５０％） 「平常点」：　授業への取り組み状況、提出物など（５０％） 「その他」：
課題（レポート等） のフィードバック	授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。
事前・事後の学習 等の内容	予習：幼児音楽Ｉで学習したことを確認して授業に臨むこと。 復習：授業で学習した知識などを自分なりに整理すること。 　　課題を実際にピアノで演奏し、音で確かめること。
事前・事後の学習に必要 な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	・安易に欠席しないこと。 ・受講者数がごく少数の場合は、トーンチャイムによる合奏実習を別の内容に変更する。 ・各自、ノートや五線紙を持参すること。
テキスト	バイエルピアノ教則本、『子どものうた100』など その他、適宜、プリントを配布する。
参考書	和声－理論と実習Ｉ島岡情著　音楽の友社 和声と楽式のアナリーゼ　島岡譲著　音楽の友社 和声のしくみ・楽曲のしくみ　島岡情著　音楽の友社 その他、適宜、紹介する。
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後や放課後、ＳＮＳにて対応する。

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
絵画表現 (20760)	演習	2	2年次 後期	選択		佐藤　栄悟

授業の到達目標	１．絵画表現の基礎となるデッサンを学び、見る力を養う。 ２．様々な表現技法を学び、あそびや表現の幅を広げる。 ３．習得した技法を使って、こどもの造形表現の指導や、アート・デザインを志向する者に効果的な表現方法を身につける。
学位授与の方針との関連	保育に関する専門知識・技術を修得している。
授業の概要	様々な技法での表現を通して、基本的な画材の扱い方やそれらの混合技法を学び、展開方法を考える。 造形美に対して湧き起こる内的感動を基調とした共創的授業。ICT活用授業。

授業計画

回数	授業内容
1	デッサン　①基本的な形の把握
2	デッサン　②明暗・光と影
3	デッサン　③質感の表現
4	水彩　①アクションペインティング
5	水彩　②アクションペインティング
6	水彩　③マーブリング
7	版　　①身近な素材で版を作る
8	版　　②身近な素材で版を作る
9	染　　①反応染料を使用した絞り染め
10	染　　②直接染料を使用した絞り染め
11	水彩　④アクリリックポーリング
12	研究制作　①
13	研究制作　②
14	研究制作　③
15	研究制作　④

授業の評価	「試　験」：提出課題　（６０％） 「平常点」：授業の参加度　（４０％） 「その他」：
課題（レポート等）のフィードバック	個々の課題はGoogleクラスルーム上で提出し、フィードバック（点数やコメント等）はそこで行う。 また、プレゼンテーションの教員及び学生のフィードバックは、その都度Googleフォーム等で行う。
事前・事後の学習等の内容	予習：授業概要を把握しておくこと。授業外学習が必要な場合は事前に行い、準備しておくこと。 復習：授業の資料をGoogleクラスルームに配布するので、理解を深めておくこと。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135 分　）
履修上の注意	制作の記録をつけること。　必ず用具や材料を忘れないこと。 課題作品の提出期限を守ること。　汚れても困らない服装で臨むこと。
テキスト	
参考書	『造形芸術の基礎』　ヨハネス・イッテン著　手塚又四郎訳　美術出版社 『アクティブラーニングとしてのPBLと探究的な学習』　溝上慎一・成田秀夫編　東信堂
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】　水曜日の昼休み　造形準備室

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
WORD演習Ⅱ (20920)	演習	2	2年次 前期	選択	情報処理士選択	野口　義栄

授業の到達目標	１．WORD演習Ⅰで習得した基礎技能を基に、より実践的な文書作成技法を演習し、実践力を身につける。 ２．WORDを使い、「MCAS検定」等の資格合格に必要な実践的な能力の習得をめざす。 ３．文書表現を通して．コミュニケーションとしての応用的な力を身につける。
学位授与の方針 との関連	教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。
授業の概要	実社会ではコミュニケーション手段の一つとしてドキュメントの果たす役割は重要である。 あらゆるビジネスシーンに応じて、的確で分かり易いドキュメント作成技法を習得する。

授業計画

回数	授業内容
1	文書表現の概観：　コミュニケーション手段としての役割、文書表現手法の概要
2	文書表現手法１：　文章作成における基本事項（WORD演習Ⅰの復習）
3	各種文書書式１：　文字書式、段落書式、インデント
4	各種文書書式２：　ページ書式、ヘッダー・フッター、ページ区切り
5	文書表現手法２：　コミュニケーションツールとしての文章表現手法
6	オブジェクト利用１：　レイヤー構造、文字列の折返し、スタイルの利用
7	オブジェクト利用２：　図、クリップアート、トリミング
8	オブジェクト利用３：　テキストボックス、ワードアート、SmartArt
9	文書の構成・校閲：　段組み、セッション区切り
10	表計算との連携：　表作成、Excelとの連携手法
11	文書表現手法３：　情報をわかりやすく的確に伝えるための文書表現手法
12	わかりやすい文章表現：　相手に的確に情報を伝える手法
13	総合実践演習１：　わかりやすい文章表現の工夫１　PBL＜課題解決型学習＞
14	総合実践演習２：　わかりやすい文章表現の工夫２　PBL＜課題解決型学習＞
15	総合実践演習3：　まとめ演習

授業の評価	「試　験」：筆記試験、実技試験（６０％） 「平均点」：受講態度、小テスト（２０％） 「その他」：提出作品、課題レポート等（２０％）
課題（レポート等） のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。
事前・事後の学習 等の内容	・予習：毎回の演習に関係する内容を教科書等で確認しておくこと。 ・復習：未習熟な演習項目については、課外において習熟しておくこと。
事前・事後の学習に必要 な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	・課外においても継続的な練習が望ましい。
テキスト	『完全マスター　Word 2016』 noa出版　（WORD演習Ⅰの教科書と同じ、継続使用）
参考書	『 Word 2016　パーフェクトマスター』 秀和システム
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
EXCEL演習Ⅱ (20931)	演習	2	2年次 後期	選択	情報処理士選択	野口　義栄

授業の到達目標	１．EXCEL演習Ⅰで習得した基礎技能を基に、より実践的な表計算技法の習得を目標とする。 ２．EXCELを使い、「MCAS検定」等の資格合格に必要な実践的な能力の習得を身につける。 ３．数値データの表現力の応用技能を身につける。
学位授与の方針との関連	教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。
授業の概要	数値情報を含む処理（データの視覚化・蓄積管理等）は実社会においても欠かせない手法である。 これらの基本概念を理解し、具体的操作方法を演習していく。

授業計画

回数	授業内容
1	表計算機能の基本事項：　数値情報の基本的な取扱い手法、視覚化・蓄積の重要性
2	特殊な表示形式作：　シートの書式設定、セルの取扱、テーブルの書式設定
3	簡単な数式と関数：　数式の仕組み、データの集計
4	関数の利用（１）基本関数：　各種基本関数の基本操作
5	関数の利用（２）応用関数：　各種応用関数の応用利用
6	入力規則：　条件付き制御
7	条件付き書式：　条件付き数式でのデータ集計
8	グラフの作成１：　各種グラフを使ってのデータの視覚化処理
9	グラフの作成２：　各種グラフの特徴に合わせたグラフ選択
10	複雑なグラフ：　各種オブジェクトを使って総合的な視覚化処理
11	データの並べ替えと抽出：　データの統計的な取り扱い
12	データの集計：　検索・データベース関数利用による集計
13	総合実践演習１：　実社会でのさまざまな応用関数の利用形態１　PBL＜課題解決型学習＞
14	総合実践演習２：　実社会でのさまざまな応用関数の利用形態２　PBL＜課題解決型学習＞
15	総合演習：　まとめ演習

授業の評価	「試　験」：筆記試験、実技試験（６０％） 「平均点」：受講態度、小テスト（２０％） 「その他」：提出作品、課題レポート等（２０％）
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。
事前・事後の学習等の内容	・予習：毎回の演習に関係する内容を教科書等で確認しておくこと。 ・復習：未習熟な演習項目については、課外において習熟しておくこと。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	・課外においても継続的な練習が望ましい。
テキスト	『完全マスター Excel 2016』 noa出版　（EXCEL演習Ⅰの教科書と同じ、継続使用）
参考書	『Excel　2016　パーフェクトマスター』　秀和システム
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
プレゼンテーション演習 (20960)	演習	2	2年次 前期	選択	情報処理士選択	津田　敏

授業の到達目標	1.何を課題にするか、目的は何か、どのようにプレゼンテーションをするかを考える力を身につける。 2.プレゼンテーションソフトを活用して見やすいデザイン作成力を身につける。 3.発表を通して正確に分かりやすく人に伝える力を身につける。
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。
授業の概要	課題や目的、プレゼンソフトによる作成技術、プレゼンテーションを通して伝えることについて学び考える。

授業計画

回数	授業内容
1	既存のプレゼンを見てプレゼンの概要、ソフトの使用方法の理解
2	題目、ねらい、内容を考えまとめる
3	資料収集及び作成①
4	資料収集及び作成②
5	資料収集及び作成③
6	資料収集及び作成④
7	資料収集及び作成⑤
8	資料収集及び作成⑥
9	資料収集及び作成⑦
10	資料収集及び作成⑧
11	資料収集及び作成⑨
12	資料収集及び作成⑩
13	発表・評価
14	評価に対する手直し
15	反省と自己評価

授業の評価	「試　験」： 「平常点」：資料使用力25%、課題・目的25%、作成力25%、発表力25%　計(１００%) 「その他」：
課題（レポート等）のフィードバック	・題目設定、ねらい、資料探索、作成、発表等についてアドバイスをする。
事前・事後の学習等の内容	事前：毎回の資料収集、作成にあたるに際し、題目、ねらいについて常に意識して取り組む。 事後：作成をした作品について題目、ねらいに合致しているかを考える。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	社会では情報発信力、コミュニケーション能力、プレゼン力等社会人基礎力が求められている。 これらを身につけるように意識して作品作成に臨むこと。
テキスト	指定なし
参考書	『「分かりやすい説明」の技術』藤沢晃治著　BLUE BACKS新書　2002年
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
デジタルグラフィックスⅠ (20960)	演習	2	2年次 前期	選択	情報処理士選択	佐藤　栄悟

授業の到達目標	1．AdobeのIllustrator・Photoshopの基本を習得する。 2．デジタルアートワークの実践を通してビジュアルデザインにおいて必要な要素を学び、 効果的に情報を伝達する力を身につける。
学位授与の方針 との関連	教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。
授業の概要	グラフィックデザインに必要な知識とスキルを学ぶ。

授業計画

回数	授業内容
1	Illustrator ①特徴・基本操作
2	Illustrator ②図形の組み合わせ
3	Illustrator ③アイコンの作成
4	Illustrator ④アイコンの作成
5	Illustrator ⑤文字のデザイン
6	Illustrator ⑥文字のデザイン
7	Illustrator ⑦ロゴの作成
8	Illustrator ⑧ロゴの作成
9	Photoshop ①特徴・基本操作
10	Photoshop ②色調補正
11	Photoshop ③画像の切り抜き
12	Photoshop ④様々な加工
13	印刷物の作成　①制作　(PBL)
14	印刷物の作成　②制作　(PBL)
15	印刷物の作成　③制作・発表　(PBL)

授業の評価	「試　験」：　筆記試験　（４０％） 「平常点」：　授業参加度　（４０％） 「その他」：　提出作品　（２０％）
課題（レポート等） のフィードバック	質問については各ステップ毎に、全体又は個別に回答する。
事前・事後の学習 等の内容	予習：授業概要を把握し、制作するものは予め考えておくこと。 身の回りのビジュアルデザインについてよく観察すること。 復習：各授業内容について理解を深めておくこと。
事前・事後の学習に必 要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	筆記試験に備えて授業の内容はメモをとること。 作品の提出期限は守ること。
テキスト	
参考書	
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】　水曜日の昼休み　造形準備室

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
デジタルグラフィックスⅡ (20941)	演習	2	2年次 前期	選択	情報処理士選択	佐藤　栄悟

授業の到達目標	1．AdobeのIllustrator・Photoshopの応用とInDesignの基本を習得する。 2．デジタルアートワークの実践を通してビジュアルデザインにおいて必要な要素を学び、 効果的に情報を伝達する力を身につける。
学位授与の方針 との関連	教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。
授業の概要	グラフィックデザインに必要な知識とスキルを学ぶ。

授業計画

回数	授業内容
1	Illustrator　①画像トレース
2	Illustrator　②パスの編集
3	InDesign　①特徴・基本操作
4	InDesign　②チラシの作成　新規ドキュメントの作成・環境設定
5	InDesign　③チラシの作成　オブジェクトを描く
6	InDesign　④チラシの作成　定規とガイドでレイアウトを作成する
7	InDesign　④チラシの作成　文字の入力・間隔の調整
8	InDesign　④チラシの作成　画像を配置・オブジェクトに色をつける
9	InDesign　⑤実技小テスト
10	三つ折りパンフレットの作成　①（PBL）
11	三つ折りパンフレットの作成　②（PBL）
12	三つ折りパンフレットの作成　③（PBL）
13	三つ折りパンフレットの作成　④（PBL）
14	三つ折りパンフレットの作成　⑤（PBL）
15	三つ折りパンフレットの作成　⑥（PBL）

授業の評価	「試　験」：　筆記試験（４０％） 「平常点」：　授業参加度（４０％） 「その他」：20%　提出作品（２０％）
課題（レポート等） のフィードバック	質問については各ステップ毎に、全体又は個別に回答する。
事前・事後の学習 等の内容	予習：授業概要を把握し、制作するものは予め考えておくこと。 身の回りのビジュアルデザインについてよく観察すること。 復習：各授業内容について理解を深めておくこと。
事前・事後の学習に必要な 時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	筆記試験に備えて授業の内容はメモをとること。 作品の提出期限は守ること。
テキスト	
参考書	
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】　水曜日の昼休み　造形準備室

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
デジタルムービーⅠ (20941)	演習	2	2年次 後期	選択	情報処理士選択	佐藤　栄悟

授業の到達目標	1.課題を考え、何を訴えたいかを考え、表現の大切さを修得する。 2.もの作りにおいて完成させる大変さと達成感を獲得する。 3.写真及びアニメをデジタルムービー化する編集技術を修得する。
学位授与の方針 との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。
授業の概要	撮影をした写真や描いたアニメのコマを編集ソフトによってムービー化し、発表し評価し合う。 表現の大切さを学ぶとともに情報発信について考える。

授業計画

回数	授業内容
1	制作写真ムービーの例を見て概要、目的を理解し、課題・題目・ねらいを考える
2	資料収集、撮影及び作成①
3	資料収集、撮影及び作成②
4	資料収集、撮影及び作成③
5	資料収集、撮影及び作成④
6	資料収集、撮影及び作成⑤
7	発表と評価
8	デジタルビデオの例を見て概要、目的を理解し、課題・題目・ねらいを考える
9	ビデオ撮影および作成①
10	ビデオ撮影および作成②
11	ビデオ撮影および作成③
12	ビデオ編集①
13	ビデオ編集②
14	ビデオ編集③
15	発表と評価

授業の評価	「試　験」： 「平常点」：作成2=80%、発表20%、計（１００%） 「その他」：
課題（レポート等） のフィードバック	・課題、撮影、作成におけるアドバイスをする。 ・発表におけるプレゼンについてのアドバイスをする。
事前・事後の学習 等の内容	事前：毎回作品を作る前に常に課題・目的に沿っているかを見直し、資料収集・撮影を行う。 事後：作った作品に対する評価を試み、再度訴えたいことに合致しているか吟味する。
事前・事後の学習に必要 な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	製作は、制作技術力だけではなく、何を訴えたいか、どう発信するかという発信力が大切である。 この能力は社会人基礎力としても求められている。これらを身につけるように意識して取り組む こと。
テキスト	指定なし
参考書	Web上の編集ソフトの使用方法等を参考
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
情報処理実習Ⅱ (20971)	実習	1	2年次 前期	選択	情報処理士選択	津田　敏

授業の到達目標	1.ビジネスソフト表計算処理(Excel)とデータベース(Access)の違いについて理解する。 2.データベースで利用するオブジェクトについて理解するとともに各オブジェクトの使い方を修得する。 3.Excelで作成した数種類のデータをインポートしてデータベースとして活用できるようになる。
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。
授業の概要	ベータベースのオブジェクトであるテーブル、クエリ、レポート、フォームそれぞれの特性を理解し、データベースの正しい仕組みを修得し、データを管理・活用できるようにする。

授業計画

回数	授業内容
1	データベース(Access)を使う理由
2	テーブルの設計・整合性・インポート
3	テーブルの設計・整合性・インポート
4	クエリの基本①
5	クエリの基本②
6	リレーションシップ①
7	リレーションシップ②
8	レポー
9	フォーム①
10	フォーム②
11	オリジナル学生情報データベース作成①
12	オリジナル学生情報データベース作成②
13	オリジナル学生情報データベース作成③
14	オリジナル学生情報データベース作成④
15	オリジナル学生情報データベース作成⑤　発表

授業の評価	「試　験」： 「平常点」：各オブジェクト作成（５０％）、オリジナル学生情報データベース作成（５０％） 「その他」：
課題（レポート等）のフィードバック	・テーブル設計やクエリ設定、リレーションシップの設定について助言助力する。 ・各オブジェクトの理解不足について指摘し補う。 ・授業内容に関する質問については個別に質問を受け回答する。
事前・事後の学習等の内容	事前学習：次回テーマに該当するオブジェクト等を学習し、授業で取り組めるようにしておくこと。 事後学習：授業で学んだ機能、技術等について理解を深めておくこと。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　45分　）事後学習（　45分　）
履修上の注意	社会では情報処理能力が求められている。特に正確にデータを取り扱う能力は必要とされている。 表計算処理(Excel)とは違うデータベースAccessについてはとても重要な能力である。 社会人としての情報処理能力を修得することを意識して学ぶこと。
テキスト	『Access本格作成入門』今村ゆうこ著（技術評論社）2017年
参考書	
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
簿記演習 (21012)	演習	2	2年次 前期	選択	情報処理士選択	津田　敏

授業の到達目標	「日商簿記３級」検定試験レベルの問題を解く力をつける。
学位授与の方針 との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。
授業の概要	・本講義は初級簿記A・Bを履修したうえで、「日商簿記検定３級」問題が充分解ける力を養う。

授業計画	回数	授業内容
	1	日商簿記3級レベル問題解答演習　疑問点・分からない点の対策①
	2	日商簿記3級レベル問題解答演習　疑問点・分からない点の対策②
	3	日商簿記3級レベル問題解答演習　疑問点・分からない点の対策③
	4	日商簿記3級レベル問題解答演習　疑問点・分からない点の対策④
	5	日商簿記3級レベル問題解答演習　疑問点・分からない点の対策⑤
	6	日商簿記3級レベル問題解答演習　疑問点・分からない点の対策⑥
	7	日商簿記3級レベル問題解答演習　疑問点・分からない点の対策⑦
	8	日商簿記3級レベル問題解答演習　疑問点・分からない点の対策⑧
	9	日商簿記3級レベル問題解答演習　疑問点・分からない点の対策⑨
	10	日商簿記3級レベル問題解答演習　疑問点・分からない点の対策⑩
	11	日商簿記3級レベル問題解答演習　疑問点・分からない点の対策⑪
	12	日商簿記3級レベル問題解答演習　疑問点・分からない点の対策⑫
	13	日商簿記3級レベル問題解答演習　疑問点・分からない点の対策⑬
	14	日商簿記3級レベル問題解答演習　疑問点・分からない点の対策⑭
	15	日商簿記3級レベル問題解答演習　疑問点・分からない点の対策⑮

授業の評価	「試　験」：（６０％） 「平常点」：小テスト（４０％） 「その他」：
課題（レポート等） のフィードバック	・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。
事前・事後の学習 等の内容	・予習：テキストの不安な箇所を、必ず目を通しておくこと。 ・復習：問題を解いて間違ったところ、解らなかったところを見直すこと。
事前・事後の学習に必 要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	・電卓は、必ず持参すること。 ・分からない問題、用語、勘定科目等があれば必ず理解するように心掛けること。
テキスト	『合格するための過去問題集 日商簿記3級検定対策（よくわかる簿記シリーズ）』：TAC出版
参考書	
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
コンピュータ会計Ⅰ (21020)	演習	2	１年次後期	選択	情報処理士選択	津田　敏

授業の到達目標	１．実務で使用されている会計ソフト「弥生会計」について、基本的な操作を学ぶ。 ２．企業の一連の取引を入力することにより、コンピュータ会計の基礎知識を習得する。
学位授与の方針との関連	教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。
授業の概要	･本講義は初級簿記Aを履修した者で、簿記の基礎を学習したことを前提に行う。 ･課題をこなすことによりコンピュータ会計の力をつけるようにする。

授業計画

回数	授業内容
1	企業の経営活動と経理・財務について
2	経営情報の活用と作成について
3	弥生会計のセットアップと起動、復元、バックアップ、終了について
4	会計データの入力操作と帳簿の体系について
5	基幹業務の内容とビジネス法務について
6	企業の業務システムと会計処理について　現金関連
7	企業の業務システムと会計処理について　売上関連
8	企業の業務システムと会計処理について　仕入関連
9	企業の業務システムと会計処理について　経費関連
10	企業の業務システムと会計処理について　債権・債務関連
11	企業の業務システムと会計処理について　給与関連
12	税金に関する基礎知識と会計処理
13	証ひょうによるデータ入力について
14	月次決算処理について
15	労働保険の事例について

授業の評価	「試　験」：６０％ 「平常点」：課題（４０％） 「その他」：
課題（レポート等）のフィードバック	･授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。 ･復習：解らなかったところ、疑問に思った点はテキスト等で理解をすること。
事前・事後の学習等の内容	･予習：前回の内容を振り返り、疑問点があれば書き出しておく。 ･復習：解らなかったところ、疑問に思った点はテキスト等で理解をすること。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135 分　）
履修上の注意	･課題をこなすことで力がつくので課題は必ずすること。
テキスト	『令和３年度版コンピュータ会計基本テキスト（弥生会計21プロフェッショナル）』：実務出版
参考書	
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
コンピュータ会計Ⅱ (21021)	演習	2	2年次 後期	選択	情報処理士選択	津田　敏

授業の到達目標	1.会計ソフト「弥生会計」の使用方法を修得する。 2.企業の一連の取引を入力することにより、コンピュータ会計の基礎知識を修得する。 3.個々の取引の内容を自ら考え、処理し、企業会計業務について理解する。
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。
授業の概要	･本講義はコンピュータ会計Ⅰを履修したうえで、企業の会計業務の基礎を学ぶ。 ･課題をこなすことによりコンピュータ会計の力をつけるようにする。

授業計画	回数	授業内容
	1	問題：取引と仕訳、コンピュータ関連知識
	2	問題：ショップ販売・預金預入と引出、掛販売と掛仕入
	3	問題：経費の支払・その他の取引、振替伝票の修正
	4	問題：振替伝票の削除、振替伝票のコピー
	5	問題：振替伝票の検索、現金預金についての会計処理
	6	問題：預金引出し、総合振込依頼書
	7	問題：掛仕入、掛売上
	8	問題：現金販売、経費の支払
	9	問題：債権・債務の処理、仮払金の処理
	10	問題：給与の支払、総合問題
	11	問題：日計表（勘定科目と補助科目）
	12	問題：残高試算表、補助残高一覧表
	13	問題：売上原価の算定（月初・月末商品）
	14	問題：売上原価の算定、原価償却の月割計上
	15	問題：起票とデータ入力

授業の評価	「試　験」：　（６０％） 「平常点」：　課題（４０％） 「その他」：
課題（レポート等）のフィードバック	･授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。 ･提出された課題は、次の時間にコメントを付けて返却する。
事前・事後の学習等の内容	･予習：次回の内容を読み、疑問点があれば書き出しておく。 ･復習：返却された課題内容を見て、解らなかったところ、指示を受けたところを復習する。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135 分　）
履修上の注意	･課題をこなすことは力がつくので課題については積極的に取り組むこと。
テキスト	『令和３年度版コンピュータ会計初級テキスト・問題集（弥生会計）』：実教出版
参考書	
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
教育心理学特論	講義	2	１年次 後期	選択	幼一種免選択	三枝　正雄

授業の到達目標	１．教育は、個人の心身の成長と能力の発達に大きく寄与することを習得する。 ２．集団の心理が個人の心理に影響することを理解する。 ３．全ての人が等しく教育を受ける義務と権利があることを知る。
学位授与の方針 との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術及び実践力を修得している。
授業の概要	心理学を個々人の心の中に捉え、自己の成長が知的好奇心を深め、多くの知識や知恵が獲得 できる授業とする。ICTを活用しテーマに沿った文献検索を行う。

授業計画

回数	授業内容
1	ICT活用による文献検索について
2	学習過程としての認知過程を理解する
3	学習の理論と学習の情報処理論
4	学習指導の理論と個に応じた指導
5	視聴覚教育とマルチメデイア学習（１）
6	視聴覚教育とマルチメデイア学習（２）
7	教育評価の方法とテスト
8	脳の発生と神経回路の形成
9	パーソナリティの理論と適応
10	知能検査の概要と種類
11	グループワーク：子どもの心理的問題を事例から考える（１）
12	グループワーク：子どもの心理的問題を事例から考える（２）
13	スクールカウンセラーの役割
14	観察法/実験法/調査法/事例研究法/テスト法
15	子どもと環境のアセスメント

授業の評価	「レポート」：毎回のレポート提出　　（７０％） 「平常点」：授業態度　　（３０％） 「その他」：
課題（レポート等） のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。
事前・事後の学習 等の内容	予習：該当箇所の通読を行うこと。 復習：授業後の内容の見直しと理解を深める。
事前・事後の学習に必要 な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	予習を基に積極的に授業に参加すること。
テキスト	資料を配布する。
参考書	適宜、授業中に紹介する。
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】随時

科目名／カリキュラムN0.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育内容特論	講義	2	1年次 前期	選択	幼一種免選択	渕田　陽子

授業の到達目標	１．「子どもたちの創造性を豊かにする」ために相応しい保育現場での幼児の生活や保育者の役割を理解する。 ２．保育全体をとらえる中で、「子どもたちの創造性を豊かにする」指導や援助法を作成する能力を身につける。
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術及び実践力を修得している。
授業の概要	幼稚園教育要領や保育指針に記載されている「創造性を豊かにする」に焦点をあて、 授業を通して、指導法、援助法を学ぶ。

授業計画

回数	授業内容
1	幼児教育の基本を、現場での実践をディスカッションを含めながら、理想と現実を考える。
2	社会性を育てる表現遊びを考える
3	社会性を育てる表現遊びを体験する
4	心を育てる表現遊びを考える
5	心を育てる表現遊びを体験する
6	創造力を育てる表現遊びを考える
7	創造力を育てる表現遊びを体験する
8	感覚や気づきを育てる表現遊びを考える
9	感覚や気づきを育てる表現遊びを体験する
10	1回目から９回目の授業を基に、表現教育を考案し発表、ディスカッションを行う。
11	応答的保育の理論について学ぶ。
12	子どもとの言葉を通しての教育について学ぶ。
13	体を育てる表現遊びを考える
14	体を育てる表現遊びを体験する
15	これからの保育方法について、考えあう。

授業の評価	「試　験」：期末試験（ ２０％） 「平常点」：毎授業ごとに配布するミニレポート（ ４０％） 「その他」：発表（４０％）
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、 個別又は全体に回答する。
事前・事後の学習等の内容	配布した資料を読み込んでおく。 1人１回、保育内容について発表を行う
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	積極的に参加してください
テキスト	『誰にも聞けなかった！保育者のいろいろお悩み相談』 徳田克己監修・水野智美著/文；西村実穂著/文　中央法規出版
参考書	『保育の表現技術実践ワーク』今井真理編著　(保育出版社) 『応答的保育』 宮原和子・宮原英種 ナカニシヤ出版
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
幼児理解特論	講義	2	1年次 前期	選択	幼一種免選択	岩谷　恵利子 （実務家教員）

授業の到達目標	１．幼児の内面に湧き起こる様々な感情に目を向け、表出する行動を検討し、幼児理解を深める。 ２．幼児一人ひとりの特性を理解し、個に応じた指導のあり方を学ぶ。 ３．幼児の年齢の違いによる育ちや課題を理解し、年齢に応じた具体的な保育実践方法を学ぶ。
学位授与の方針 との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術及び、実践力を習得している。
授業の概要	幼稚園教諭の専門性としての幼児理解のあり方を身につけるために、観察の視点、記録の仕方、 保育計画等について、 講義やグループ討議を通して解説し検討・分析・考察を行う。 また、映像によるカンファレンスやロールプレイを行うことにより実践力を高める。さらに、 レジュメ・レポートを作成して発表し、検討・分析・考察を深めるという形式で授業を行う。

授業計画	回数	授業内容
	1	環境を通しての教育と子ども理解
	2	子ども理解とは
	3	子どもの発達する姿をとらえる
	4	子どもを「みる」ということ
	5	事例から学ぶ①
	6	事例から学ぶ②
	7	事例から学ぶ③
	8	ドキュメンテーション作成
	9	グループワーク：ドキュメンテーションを通して考える
	10	グループワーク：ドキュメンテーションを通して考える
	11	子ども理解の方法
	12	子ども理解にもとづく保育者の援助
	13	子ども理解と評価
	14	子育て支援と保育相談
	15	まとめ

授業の評価	「試　験」：筆記試験　（６０％） 「平常点」：レポートその他提出物（３０％） 「その他」：授業への取り組み　（１０％）
課題（レポート等） のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。
事前・事後の学習 等の内容	予習：テキストや参考書の該当箇所を通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 復習：各回授業のテキスト、参考書、配布プリント等を通読し授業内容について理解を深める。 　　授業の主要な内容についてレポートの作成、提出を求めることがある。
事前・事後の学習に必要 な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	各回の授業内容について、自分なりの課題をもって臨むこと。 授業計画は、学外での保育実践の状況と合わせて変更する場合がある。
テキスト	『子ども理解と保育実践』塚本美知子　編著　萌文書林
参考書	必要に応じて提示する。
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育学研究Ⅰ	演習	2	1年次 前期	選択		中重　直俊 （実務家教員）

授業の到達目標	１．文献を通して、遊びの本質について理解を深め、専門性を高める ２．子どもを観察し、目的に応じて多様な記録を取ることができる ３．乳幼児期の子どもにおける現状を理解し、考察を深めて検討することができる
学位授与の方針 との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術を修得している。
授業の概要	この授業では、園での子どもの遊びをどう理解するか、どう保育を構想するかについて明らかにし、遊びについての理解を深め、専門性を高めることを目的とする。

授業計画	回数	授業内容
	1	オリエンテーション
	2	遊びを中心とした保育とは
	3	子どもの遊びを理解する
	4	子どもの遊びを援助する
	5	保育に生きる記録とは
	6	保育記録のなかの計画性
	7	育ち合う子どもと保育者
	8	行事のとらえ方と指導
	9	子どもと保育者が織りなす生活
	10	遊びの意義
	11	総合的な学びを保障する
	12	保育者の役割
	13	観察法について
	14	エピソードをもとに討論する
	15	まとめ

授業の評価	「試　験」： 筆記試験（５０%） 「平均点」： 出席状況、授業態度（４０%） 「その他」： 課題（１０%）
課題（レポート等） のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。
事前・事後の学習 等の内容	予習：毎回、次回使用するテキストを配布するので、授業内容の概要を把握しておく。 復習：授業内容についてまとめておく。
事前・事後の学習に必 要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	必ずテキスト、配布資料を持参すること。
テキスト	『遊びを中心とした保育』　河邉貴子　編　萌文書店
参考書	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】水曜の昼休み　中重研究室

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育学研究Ⅱ	演習	2	1年次 後期	選択		中重　直俊 （実務家教員）

授業の到達目標	１．保育・幼児教育の歴史的な展開と特質を時代的な背景を交え理解し、説明できる ２．乳幼児期の子どもにおける現状を理解し、考察を深めて検討することができる ３．子どもを観察し、目的に応じて多様な記録を取ることができる
学位授与の方針 との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術を習得している。
授業の概要	この授業では、保育・幼児教育に対する認識や取り組みを歴史的に読み解き理解を深め、 現代の保育・幼児教育をめぐる問題を考察することを目的とする。

授業計画

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	諸外国の教育思想
3	諸外国の教育の歴史
4	日本の教育思想・歴史
5	海外の幼児教育から考える　（１）取り組みの比較を通して
6	海外の幼児教育から考える　（２）保育者に視点をあてて
7	現代の保育・幼児教育をめぐる現状
8	中間まとめ
9	現場から学ぶ（１）保育所
10	現場から学ぶ（２）幼稚園
11	現場から学ぶ（３）幼保連携型認定こども園
12	実際の取り組みから保育・幼児教育を考える　（１）子どもの遊びと活動
13	実際の取り組みから保育・幼児教育を考える　（２）環境構成に着目して
14	実際の取り組みから保育・幼児教育を考える　（３）保育者の役割
15	学生のプレゼンテーションによる振り返りとまとめ

授業の評価	「試　験」：筆記試験（５０%） 「平均点」：出席状況、授業態度　（４０％） 「その他」：課題（１０%）
課題（レポート等） のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。
事前・事後の学習 等の内容	毎回、課題を出すので、次回までに課題を行なって授業に臨むこと また、授業内容についてまとめておくこと。
事前・事後の学習に必要 な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	課題の提出期限は必ず守ること
テキスト	『保育の学び　ファーストステップ』　瀧川光治　編　青踏社
参考書	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】水曜の昼休み　中重研究室

科目名	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
発達心理学特論	講義	2	1年次 前 期	選択		三枝　正雄

授業の到達目標	1. 発達段階で生じる心理的問題に関わる要因を理解する。 2. 発達的変化を段階別に理解し、その変化の特徴と社会的環境との関連性を考える。 3. ICTを活用し発達に関する新たな知見を知る。
学位授与の方針 との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術を修得している。
授業の概要	受胎から死に至るまでさまざまな年齢での心理的問題についての現象や仮説を学習する。 また、心理的問題に及ぼす要因について探究する。

授業計画

回数	授業内容
1	発達という言葉の意味
2	多様な性と現代社会
3	ディベート形式によりいじめの現状を考える
4	精神疾患の現状
5	日本における自殺の概要
6	ディベート形式により子どもの発達のつまずきについて考える
7	ディベート形式により幼児期の子どものPTSDを考える
8	ディベート形式により激変した子どもの環境を考える
9	胎児期・新生児期の重要性と問題点
10	乳児の豊かな能力
11	ディベート形式により幼児期の発達の外観を考える
12	身体と運動能力の発達
13	子どもから大人への移行期として
14	成人期前期の発達課題
15	ディベート形式により発達心理学を学ぶ意義を考える

授業の評価	「レポート」：毎回のレポート提出　　（７０％） 「平常点」：授業態度　　（３０％） 「その他」：
課題（レポート等） のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、 個別または全体に回答する。
事前・事後の学習 等の内容	予習：該当箇所の通読を行うこと。 復習：授業後の内容の見直しと理解を深めること。
事前・事後の学習に必要な 時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	予習を基に積極的に授業に参加すること。
テキスト	資料を配布する。
参考書	適宜、授業中に紹介する。
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
児童家庭福祉特論	講義	2	1年次 前期	選択		吉田　隆三

授業の到達目標	１．児童憲章、子どもの権利に関する条約から児童の権利について理解する。 ２．児童家庭福祉の理解を深め、子どもとその家族が必要とする具体的な援助の方法を身につける。 ３．児童家庭福祉に関連する法律・制度・施設・機関等の社会的支援の状況を知り、さらに 他の社会資源との連携・協調して、問題解決に導く能力を身につける。
学位授与の方針 との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術を修得している。
授業の概要	家庭での児童養育を支援する必要性についての理解を深め、児童家庭福祉実践に必要な知識と技術 について概説する。

授業計画

回数	授業内容
1	現代社会の子どもと家庭の状況について
2	子どもの権利と権利擁護について
3	諸外国と日本の児童家庭福祉について
4	児童福祉法、その他児童関連法について
5	児童家庭福祉行政と実施機関、施設について
6	子育て支援サービスと児童健全育成施策について
7	母子保健の理念とサービス実施と体系について
8	保育所と待機児童、保育サービスについて
9	児童虐待、DVについて
10	社会的養護の状況と今後の動向、課題について
11	ひとり親家庭の現状と生活状況、福祉サービスについて
12	障がい児の定義と現状、福祉サービスについて
13	情緒障がいの定義と対応、非行少年の法制度とその対応について
14	児童家庭福祉にかかわる専門職とその専門性について
15	まとめ、ふりかえり(グループ発表)

授業の評価	「試　験」：筆記試験（５０％） 「平常点」：授業態度、講義ノート（３０％） 「その他」：レポート等提出物（２０％）
課題（レポート等） のフィードバック	授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。 レポート等の課題はコメントを付して返却する。
事前・事後の学習 等の内容	予習：テキストや参考書の該当箇所を通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 毎時間、次回授業の主要な内容について予習を課す。 復習：テキスト、参考書、配布プリント等を通読し、各回の授業内容について理解を深めておくこと。 毎授業後に復習を求める。その際、レポートを課すことがある。
事前・事後の学習に必要 な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	自らの学習に対して、意欲的に取り組むこと
テキスト	『保育と児童家庭福祉』櫻井奈津子編　　みらい 『保育福祉小六法』保育福祉小六法編集委員会編　　みらい
参考書	必要に応じて随時紹介する。
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
社会福祉特論	講義	2	1年次 後期	選択		吉田　隆三

授業の到達目標	１．社会福祉学の基本的概念について理解し、説明できる力を身につける。 ２．社会福祉の専門性と専門職について理解する。 ３．現代社会福祉学の課題を発見し、解決に向けて考える能力を身につける。
学位授与の方針 との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術を修得している。
授業の概要	社会福祉の形成過程、先人の社会福祉学研究対象と研究方法論について学び、現代社会福祉学について概説する。

授業計画

回数	授業内容
1	生活課題と社会福祉について
2	社会福祉の概念と保育と社会福祉の関係について
3	欧米と日本の社会福祉のあゆみについて
4	社会保障の概念と体系（社会保険、公的扶助）について
5	高度経済成長と社会福祉六法の成立について
6	福祉の行政機関と福祉の財源について
7	社会福祉施設の目的と運営について
8	子どもの権利条約と保育制作の動向について
9	社会福祉の専門職と専門性、倫理について
10	相談援助の原則とその動向について
11	日常生活自立支援事業と第三者評価について
12	権利擁護と苦情解決のしくみについて
13	地域福祉の理念と方法について
14	ネットワークの重要性と方法
15	社会福祉専門職としての保育士のあり方について

授業の評価	「試　験」：筆記試験（５０％） 「平常点」：授業態度、講義ノート（３０％） 「その他」：レポート等提出物（２０％）
課題（レポート等） のフィードバック	授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。 レポート等の課題はコメントを付して返却する。
事前・事後の学習 等の内容	予習：テキストや参考書の該当箇所を通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 毎時間、次回授業の主要な内容について予習を課す。 復習：テキスト、参考書、配布プリント等を通読し、各回の授業内容について理解を深めておくこと。 毎授業後に復習を求める。その際、レポートを課すことがある。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	自らの学習に対して、意欲的に取り組むこと
テキスト	『保育と社会福祉』橋本好市編　　みらい 『保育福祉小六法』保育福祉小六法編集委員会編　　みらい
参考書	必要に応じて随時紹介する。
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
子どもと生活	演習	2	1年次 前期	選択	幼一種免選択	山本郁子

授業の到達目標	1．今日の乳幼児、児童を取り巻く生活環境について様々な角度から理解する。 2．学習指導要領をもとに生活科の目標や学習内容を理解する。保・幼・小の保育・教育に連続した生活習慣に対する理解を深める。
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術及び実践力をを修得している。
授業の概要	・今日の子どもたちを取り巻く社会問題、学校現場の状況や子どもの様子を把握するとともに幼児教育と小学校教育との連続性を踏まえた体験的な活動の必要性について学ぶ。 ・昭和初期の子どもたちの家庭における役割を民具を使って、香寺民族資料館館長による体験学習で学ぶとともに、現代の子どもたちの生活を見つめ直す。

授業計画

回数	授業内容
1	オリエンテーション・子どもの生活実態を考察、課題を検討
2	情報化社会における乳幼児の生活
3	子どもの理想的な生活リズム
4	保・幼・小の連続した生活習慣
5	幼児教育からみた生活科とは
6	生活科の実践①　生活の中の化学　（体験学習）
7	生活科の実践②　野外で生活　（体験学習）
8	実践のプレゼンテーション
9	昔の暮らしから学ぶ①　穀物を粉にする　ゲストスピーカーによる講演
10	昔の暮らしから学ぶ①
11	昔の暮らしから学ぶ②　稲作の栽培・収穫過程を学ぶ
12	昔の暮らしから学ぶ②
13	昔の暮らしから学ぶ③　衣服の歴史。綿を作り、綿糸から布に
14	昔の暮らしから学ぶ③
15	まとめ：

授業の評価	「試　験」：レポート試験　（４０　%） 「平常点」：　授業態度、学習意欲、プレゼンテーション・レポートの完成度　（６０%） 「その他」：
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容等に関する質問については、個別又は、全体に回答する。
事前・事後の学習等の内容	・各自計画的に取り組む。 予習：低学年の子どもの発達特性に関する書籍に目を通しておくこと。 常に、子どもにとって日常生活の中で教材になりそうな自然環境に関心を持つ。 復習：授業内容についてまとめておく。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	・学外活動授業に対する意欲的な姿勢、学生としてのマナーを重視する。 ・欠席の無いよう自らの学習に対して意欲的に取り組むこと。
テキスト	資料を配布する。
参考書	『幼稚園教育要領解説』文科省 『小学校学習指導要領』『小学校学習指導要領　生活編』
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
図画工作演習	演習	2	1年次 後期	選択	幼一種免選択	佐藤　栄悟

授業の到達目標	１．造形教育において自らの目的を見出す。 ２．目的を持って自らの研究に取り組む。 ３．他者との違いを受け入れる。
学位授与の方針 との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術及び実践力を修得している。
授業の概要	造形表現を自分で考察し、保育の現場に応用できるようにする。 造形美に対して湧き起こる内的感動を基調とした共創的授業。ICT活用授業。 自分なりに造形教育のビジョンを持って研究に取り組む。

授業計画

回数	授業内容
1	素材研究　①
2	素材研究　②
3	素材研究　③
4	素材研究　④
5	素材研究　⑤　発表
6	表現研究　①
7	表現研究　②
8	表現研究　③
9	表現研究　④
10	表現研究　⑤　発表
11	修了研究　①
12	修了研究　②
13	修了研究　③
14	修了研究　④
15	修了研究　⑤　発表

授業の評価	「試　験」：課題　（６０％） 「平常点」：授業参加度　（４０％） 「その他」：
課題（レポート等） のフィードバック	個々の課題はGoogleクラスルーム上で提出し、フィードバック（点数やコメント等）はそこで行う。 また、プレゼンテーションの教員及び学生のフィードバックは、その都度Googleフォーム等で行う。
事前・事後の学習 等の内容	予習：授業概要を把握しておくこと。授業外学習が必要な場合は事前に行い、準備しておくこと。 復習：授業の資料をGoogleクラスルームに配布するので、理解を深めておくこと。
事前・事後の学習に必要 な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135 分　）
履修上の注意	制作の記録をつけること。　必ず用具や材料を忘れないこと。 課題作品の提出期限を守ること。　汚れても困らない服装で臨むこと。
テキスト	
参考書	『造形芸術の基礎』　ヨハネス・イッテン著　手塚又四郎訳　美術出版社 『アクティブラーニングとしてのPBLと探究的な学習』　溝上慎一・成田秀夫編　東信堂
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】水曜の昼休み　造形準備室

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育内容研究「人間関係」	演習	2	1年次 前期	選択	幼一種免選択	中重　直俊 （実務家教員）

授業の到達目標	１、領域「人間関係」のねらいと内容、保育実践上の配慮について理解を深める ２、人とかかわる力をはぐくむための保育方法を考えることができる ３、人とのかかわりを育む遊びの重要性を理解する。
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術を習得している。
授業の概要	子どもは生活の中で、人とのかかわりをどのような過程を経て発達させていくのか、また、 それを支える保育者の援助はどうあるべきなのか等、「人間関係」領域の理解を深めていく。

授業計画

回数	授業内容
1	「人間関係」とは
2	幼稚園教育要領・保育所保育指針の基本
3	自分を知る
4	生態学的環境として関係をとらえる
5	乳児の保育所における人とのかかわり
6	保育者が居場所―ものを「欲張る」ことにも意味がある
7	自己主張と自己抑制―幼児期の「なかよし」とは?
8	園生活の充実感を支えるもの
9	かけがえのない一人一人の存在
10	保育者の援助と言動
11	道徳性・規範意識の芽生え
12	協同する体験を重ねること
13	特別なニーズをもつ子ども
14	小学校へつなぐ
15	質の向上に向けて

授業の評価	「試　験」：筆記試験（５０%） 「平均点」：出席状況、授業態度　（４０％） 「その他」：　課題（１０%）
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。
事前・事後の学習等の内容	予習：テキストの該当箇所を通読し、授業内容の概要を把握しておく。 復習：授業内容についてまとめておく。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	必ずテキストを持参すること。
テキスト	『社会情動的スキルを育む　保育内容人間関係』　無藤隆　編　北王路書房
参考書	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】水曜の昼休み　中重研究室

科目名／カリキュラムN0.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育内容研究「表現」	演習	2	1年次 後期	選択	幼一種免選択	渕田　陽子

授業の到達目標	１．音楽表現のための基礎理論を習得する。 ２．基礎的な音楽理論に基づいた表現のための応用力を身につける。 ３．保育現場でのより具体的な音楽表現の可能性と実践力を養う。
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術を修得している。
授業の概要	保育現場を念頭に置いた音楽表現の実践的な展開能力の育成を目標とする

授業計画

回数	授業内容
1	保育内容領域「表現」について幼稚園教育要領「保育内容表現」を読み取る。
2	子どもの発達と音楽表現活動について子どもの発達の過程と音楽表現の関係性を学ぶ。
3	乳幼児の「わらべうた・あそびうた」の意義
4	「わらべうた・あそびうた」の実践
5	保育現場における音楽表現の実際「季節のうた」
6	保育現場における音楽表現の実際「生活のうた」
7	小学校との接続における音楽表現活動の研究 学習指導要領「音楽」を研究する。
8	総合的な表現活動の研究　（１）指導案と指導計画を立案する
9	総合的な表現活動の研究　（２）指導案の確認と検証 立案した指導案を発表する。
10	総合的な表現活動の研究　（３）音作り グループワーク
11	総合的な表現活動の研究　（４）うたづくり グループワーク
12	総合的な表現活動の研究　（５）斉唱時の伴奏方　講義
13	総合的な表現活動の研究　（６）斉唱時の伴奏方　実践
14	総合的な表現活動の研究　（７）リトミックとは
15	総合的な表現活動の研究　（８）リトミックの実践

授業の評価	「試　験」：発表（３０％）、試験（５０％） 「平常点」：授業態度・意欲（１０％） 「その他」：提出物（１０％）
課題（レポート等）のフィードバック	授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。
事前・事後の学習等の内容	幼稚園教育要領「保育内容表現」を熟読しておくこと。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	個性豊かなグループ発表を期待している。
テキスト	『誰にも聞けなかった！保育者のいろいろお悩み相談』□ 徳田克己監修・水野智美著/文；西村実穂著/文　中央法規出版□
参考書	
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育実践研究Ⅰ	演習	2	1年次 後期	選択	幼一種免選択	林　幹士

授業の到達目標	１．乳幼児期から学童期の子どものあそびを通して、子どもにどのような力が育つのかを説明することができる。 ２．保育活動におけるあそびの意義について修得する。 ３．季節ごとのあそびについて理解する。
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術を修得している。
授業の概要	子どものあそびを調査する。調査したあそびから子どもにどのような力が育つのかについて検討する。 あそびの意義について学ぶ。季節ごとのあそびについて調べる。あそびの指導案を作成する。 あそびを実践して、エピソードを記述する。

授業計画

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	あそびの紹介
3	エピソード記述について
4	あそびの調査
5	あそびの指導案作成
6	春のあそびの事例研究
7	春のあそびの実践
8	夏のあそびの事例研究
9	夏のあそびの実践
10	秋のあそびの事例研究
11	秋のあそびの実践
12	冬のあそびの事例研究
13	冬のあそびの実践
14	あそびに関するレポート作成
15	あそびレポート発表会

授業の評価	「試　験」： 「平常点」： 「その他」：あそびの指導案（２０％）・あそびに関するレポート（６０％） あそびレポート発表会（２０％）
課題（レポート等）のフィードバック	あそびの指導案やあそびに関するレポート作成において、アドバイスを行う。
事前・事後の学習等の内容	事前学習：テキストからあそびについて調査をしておくこと。 事後学習：授業のポイントをまとめていくこと。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135分 ）事後学習（ 135分 ）
履修上の注意	積極的に文章を記述することを求めます。
テキスト	『遊びの指導』　幼少年教育研究所（編著）　同文書院
参考書	授業時に適宜紹介する
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】随時

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
体育演習	演習	2	1年次 後期	選択		小寺　隆志

授業の到達目標	1.保育としての体育プログラムの立案、実施することができる。 2.段階的指導及び展開方法を学び、指導実践により指導技術および技能を身につける。 3.実際の現場に見立てた計画を立てる指導力を身につける。
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術及び実践力を修得している。
授業の概要	幼児期の運動遊びに携わる保育者が保育現場で、プログラムを立案し、実践できるために 必要な基本的な知識や技能を修得する。

授業計画

回数	授業内容
1	オリエンテーション・アイスブレイク
2	幼児期の発育発達の理解（運動・認知・情緒）
3	運動の分解と段階的指導
4	運動技能と運動遊びの立案と実施（歩く・走る・跳ぶ）
5	運動技能と運動遊びの立案と実施（まわる・ぶらさがる・よじのぼる）
6	運動技能と運動遊びの立案と実施（押す・引く・支える）
7	運動技能と運動遊びの立案と実施（くぐる・はう・ころがる・バランスをとる）
8	運動技能と運動遊びの立案と実施（身をかわす・投げる・ころがす）
9	運動技能と運動遊びの立案と実施（つく・ける・とる・まわす）
10	運動技能と運動遊びの立案と実施（動きの表現・リズムに合わせる）
11	集団あそびの立案と実施
12	ルールのある遊びの立案と実施
13	サーキット運動の立案と実施
14	45分の運動遊びの立案と実施
15	45分の運動遊びの立案と実施

授業の評価	「試　験」：指導実践試験　（３０%） 「平常点」：授業態度及び取り組む意欲　（５０%） 「その他」：指導案　（２０%）
課題（レポート等）のフィードバック	毎回の授業終了時に、振り返りシートを記入し、提出する。 振り返りシートは次回の授業時に返却する。 授業内容に関する質問は、全体に向けて回答する。必要に応じて、個別に回答も行う。
事前・事後の学習等の内容	予習：基本的な生活習慣を整える。特に、食事、睡眠などに気をつけ体調管理を心がける。 　　次回の授業内容を把握し、主な運動遊びを予習しておくこと。 復習：返却された振り返りシートを元に、気づきや学びを定着させること。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	・授業を受ける態度や姿勢を評価する。授業態度が著しく悪い場合は、退場を命じることがある。 ・安全に授業ができるよう。ピアス、ネックレス、つけ爪、時計等の装飾品は外して受講する。 ・運動にふさわしい服装（ジャージ）と靴（スニーカー）を着用し受講する。 ・各自で水分およびタオルを用意する。 ・各自で貴重品を管理する。 ・体調が悪い、病気や怪我がある場合は、授業前に必ず申し出ること。
テキスト	適時資料配布
参考書	文部科学省「幼児期運動指針ガイドブック」 https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319772.htm
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】 授業の前後

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
情報処理研究Ⅰ	演習	2	1年次 後期	選択		津田　敏

授業の到達目標	1.こども園にはどのような事務処理があり事務処理が行われているか理解する。 2.こども園の事務処理を効率的に行えるように考え工夫する。 3.作成した事務ファイルを発表し、批評・評価を得て効率的な事務処理能力を獲得する。
学位授与の方針 との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術及び実践力を修得している。
授業の概要	こども園の事務をどうICTを活用すれば効率的に処理ができることを考え取り組む。

授業計画

回数	授業内容
1	こども園の事務にはどのような事務があるか、行われているかを調べる。
2	事務処理に使用する表計算処理の使用関数について理解する①
3	事務処理に使用する表計算処理の使用関数について理解する②
4	事務処理に使用する表計算処理の使用関数について理解する③
5	こども園の事務の中で非効率的な事務2つⅠ・Ⅱをあげ、効率化を考える。
6	効率化へ向けた事務処理Ⅰ①
7	効率化へ向けた事務処理Ⅰ②
8	効率化へ向けた事務処理Ⅰ③
9	効率化へ向けた事務処理Ⅰ④
10	作成した事務処理の発表、批評・評価、完成事務
11	効率化へ向けた事務処理Ⅱ①
12	効率化へ向けた事務処理Ⅱ②
13	効率化へ向けた事務処理Ⅱ③
14	効率化へ向けた事務処理Ⅱ④
15	作成した事務処理の発表、批評・評価、完成事務

授業の評価	「試　験」： 「平均点」：作成ファイル(35%)×2＝(７０%) 問題意識15%　理解15%＝（３０%） 「その他」：
課題（レポート等） のフィードバック	・事務の調べ学習についてアドバイスする。 ・事例的な表計算処理の関数等の理解不足について指摘し補う。 ・授業内容に関する質問については個別に質問を受け回答する。
事前・事後の学習 等の内容	予習：作成表について事前に使用する関数等をチェックしておくこと。 復習：自主学習支援としてGoogle Classroomに参考表を掲載するので理解を深めること。
事前・事後の学習に必 要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　135分　）事後学習（　135分　）
履修上の注意	こども園で使用する事務処理の基礎能力の習得として理解し、教員生活で活かせるように 取り組むこと。
テキスト	
参考書	『Microsoft Excel クイックマスター 2016 応用編』ウイネット2019年
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】授業の前後及びGoogle Classroom

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
修了研究Ⅰ-1	演習	6	1年次 通期	選択		中重　直俊 （実務家教員）

授業の到達目標	１．研究論文の書き方を理解する ２．関心のある事項から各自テーマを決め、研究の目的、方法、具体的な実施計画を作成する ３．第三者に伝わるようにプレゼンテーションを行う
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術を習得している。
授業の概要	前期は、研究論文の書き方について、とくにテーマ設定や論文の構成についてテキストを中心に学んでいく。それぞれが関心のあるテーマに基づいた先行研究を読み、担当ごとにレジュメにまとめ、調査方法や研究手段などを確認する。

授業計画	回数	授業内容
	1	オリエンテーション
	2	研究の意義
	3	研究の計画
	4	研究方法
	5	テーマの設定
	6	テーマに関係する先行研究調査１
	7	テーマに関係する先行研究調査２
	8	先行研究調査の発表
	9	研究の目的
	10	予備研究の方法１
	11	予備研究の方法２
	12	予備調査の実施
	13	予備調査のまとめ
	14	倫理的配慮と情報保護について
	15	研究論文の構成について

授業の評価	「試　験」：プレゼンテーション（５０％） 「平常点」：出席状況・授業態度（４０％） 「その他」：課題（１０％）
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。
事前・事後の学習等の内容	次回までの課題を提示するので、しっかりと予習・調査を行うこと。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 225分　）事後学習（　225分　）
履修上の注意	課題の提出期限は必ず守ること
テキスト	『子ども理解のメソドロジー』中坪史典 著　ナカニシヤ出版
参考書	必要に応じて配布する
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】水曜の昼休み　中重研究室

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
修了研究Ⅰ-2	演習	6	1年次 通期	選択		中重　直俊 （実務家教員）

授業の到達目標	１．研究論文の書き方を理解する ２．関心のある事項から各自テーマを決め、研究の目的、方法、具体的な実施計画を作成する ３．第三者に伝わるようにプレゼンテーションを行う
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術を習得している。
授業の概要	後期は、各自関心のあるテーマを決め、終了研究論文の研究計画を作成するとともに、 調査方法や分析方法をプレゼンテーションやディスカッションをしながら検討し、中間 発表を経て自らの調査を進める。

授業計画	回数	授業内容
	16	研究テーマの決定
	17	研究計画の作成１
	18	研究計画の作成２
	19	研究計画の発表
	20	研究調査１
	21	研究調査２
	22	研究調査の発表
	23	実践記録法１
	24	実践記録法２
	25	実践記録法の発表
	26	調査・記録の集計１
	27	調査・記録の集計２
	28	考察・反省
	29	プレゼンテーションの作成
	30	修了研究論文の中間発表

授業の評価	「試　験」：プレゼンテーション（５０％） 「平常点」：出席状況・授業態度（４０％） 「その他」：課題（１０％）
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。
事前・事後の学習等の内容	次回までの課題を提示するので、しっかりと予習・調査を行うこと。
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（　225分　）事後学習（　225分　）
履修上の注意	課題の提出期限は必ず守ること
テキスト	『子ども理解のメソドロジー』中坪史典 著　ナカニシヤ出版
参考書	必要に応じて配布する
その他	【ｵﾌｨｽｱﾜｰ】水曜の昼休み　中重研究室